明治文庫

No. 4694

佛國商工法鑑

司法省藏版

有隣堂飜刻

佛國商工法鑑目次

○卷之一

緒言

第一章　商業及ヒ商人

第一款　商業

第二款　商人

第二章　災禍ヲ生シ又ハ人ノ妨害ヲ釀シ又ハ人身ノ健康ヲ害ス可キ工業場

○卷之二

第三章　政府ノ爲メニ設ケシ專賣ノ權

第一款　煙草

第二款　印紙

第三款　骨牌
第四款　火藥
第五款　貨幣
第六款　郵便
第七款　電信
第四章　特種ノ工作ヲ行フニ管スル規則
第一款　武器製作ノ業
第二款　印刷及ヒ書肆ノ業
第三款　金銀細工及ヒ其細工物ノ發賣
第五章　銀行、貸庫場並ニ糶賣場
第一款　銀行
第二款　貸庫場

第三款　糶賣場
第六章　商業ヲ爲スニ必要ナル能力及ヒ商人ノ義務並ニ其特權
第一款　商業ヲ爲スニ必要ナル能力
第二款　商人ノ義務
第一節　商業簿冊ヲ設ク可キ義務
第二節　婚姻ノ契約及ヒ夫婦財産ヲ分ツニ就テノ公告ヲ爲ス可キ義務
第三節　職業免許稅ヲ納ム可キ義務
第三款　商人ノ特權
○卷之三
第七章　雇主ト職工及ヒ弟子ノ關係
第一款　總論

第二款　職工小簿冊
第三款　工作場內ニ於ケル職工ノ勞動時間
第四款　工作場內ニ於テ少年ヲ使役スル法則
第五款　受業契約
第六款　工法裁判所

○卷之四

第八章　百工製作ニ管スル所有ノ權
第一款　發明物ノ專賣免許
第二款　製造ノ標印
第三款　製造品ノ記號
第四款　贋造
第五款　製造人ノ姓名、製造所ノ名稱、諸種ノ記號並ニ有害ノ競爭

○卷之五

第九章　商業ノ爲メニ設立セシ諸局
第一款　商業會議所、工業會議所、商業相談局、工業相談局
第一節　商業會議所
第二節　工業會議所
第三節　商業相談局、工業相談局
第二款　商人集會場
第三款　大小市場
第十章　商業媒介人
第一款　仲買人
第二款　運送仲買人並ニ運送受負人
第三款　手形賣買世話人

第四款　商業世話人
第五款　手代、差配人及ヒ代理人
○卷之六
第十一章　會社
第一款　總論
第二款　諸種ノ商業會社
第一節　合名會社
第二節　通常ノ差金會社
第三節　株數ノ差金會社
第四節　無名會社
第五節　變資會社
第六節　共分會社

第三款　會社ノ證書ヲ公告スル事
第四款　會社ノ解散及ヒ其決算
第五款　社員間ノ爭論
○卷之七
第十二章　商業上ノ手形
第一款　爲替手形
第二款　「ビエー、タ、オルドル」手形ノ名
第三款　期滿免除
第四款　「セック」手形ノ名
○卷之八
第十三章　海上交易
○卷之九

第十四章　家資分散及ヒ倒産
第一款　家資分散
第二款　倒産
第三款　復權
○卷之十
第十五章　商法裁判所及ヒ判斷人
第一款　商法裁判所
第二款　判斷人
第十六章　海關稅
第十七章　罰則
以上
佛國商工法鑑目次終

緒言

商法ノ起原

商法ノ沿革ヲ知ント欲セハ、宜ク先ツ商業上ノ沿革ヲ講スヘシ、之ヲ講スル、其利益頗ル大ナリト雖モ、亦能ク此冊子ヲ以テ其詳細ヲ盡シ得ヘキニ非ス、然レトモ商業ノ開進ハ、一國ノ幸福繁榮上ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤ、之ヲ徵證スルヲ要セハ、須ラク伊太利亞ノ共和政治國「ヴェニス」及ヒ「ジェノア」及ヒ和蘭國ノ景況ヲ觀察ス可シ、是等ノ諸國往古ハ今日ノ如ク國甚タ廣大ナルニ非ス、其人口亦甚タ繁庶ナルニ非スシテ、一時其國ノ繁榮ヲ極メ、歐洲ニ勢ヲ振ヒタルハ、職トシテ商業ニ由レルヿ亦瞭然タリ

然リ而シテ商業開進スレハ、必ス之ニ尋キテ商法學起ラサルヿヲ得ス、

蓋シ中古商業旺盛ノ名ヲ得タル伊太利亞國ニ於テハ、其各都會ニ法律家アリテ、始メテ商法ノ原典ヲ創起シタルハ、是レ其商業盛ナレハ必ス商法學ヲ要スルヲ證スルニ足ルナリ

蓋シ商業上ノ契約及ヒ商業ヨリ生スル一切ノ所爲ニ管スル諸規則ハ、多クハ慣習ニ因リテ定マレル者ニシテ、其慣習ハ恰モ法律ニ均シキカアリシガ、當時ニ在テ此慣習法ヲ輯彙シタル書中、其最モ重要ナル者ハ、海上貿易ニ關スル書ニシテ、就中「コンソラ、ド、ラ、メール」(地中海ノ沿岸ニ於テ循守ス可キ、海上ノ慣習法ヲ集メタルモノ、)及ヒ「ロール、ドレロン」(大洋航海ニ適用ス可キ慣習法ヲ畧記セルモノ、)ノ二書ヲ其最トス、但シ此二書ハ、之ヲ臆測スルニ千二百年代ノ古昔ニ起リシ者ナル可シ

我カ佛國ニ於テハ、此等普通ノ慣習法ト、其各所ノ貿易ニ管スル特別ノ慣習法トニ拘ハラス、別ニ律令書ヲ以テ商業ニ管スル諸規則ヲ定メタ

リ、然レ𪜈此諸規則タルヤ、恐クハ猶未タ完備セザル者ニシテ、貿易ノ益〻開進スルニ從ヒ、必要ト爲ス所ヲ充タスニ足ラサルベシ

千六百七十三年ノ律令書及ヒ千六百八十一年ノ律令書」

商法ノ全綜ヲ爲セル法制ヲ設ケタルハ、路易第十四世ノ時ニ在リトス、故ニ古昔ノ制ヲ知ラント欲セハ、同時代ニ遡回セサルヲ得ス、蓋シ路易第十四世ノ時ニ當リテ商業ニ大感動ヲ起サシメタルハ、「コルベール」氏(路易第十四世ノ宰相)ノ力ニ在リテ、其許多ノ製作場及ヒ貿易場ヲ設ケタルヨリ、海上貿易及ヒ航海ノ業ヲ大ニ進歩セシメタルニ至ルガ如キハ、同氏ノ理財ノ道ニ巧妙ナルニ由ル所ナリ

當時貿易ノ旺盛ナルヿ、往時ニ比ス可ラサルヲ以テ、十全完備ニシテ且全國ニ通行ス可キ、一定ノ商法ヲ設ルノ必要ヲ覺ヘ、千六百七十三年、始テ律令書ヲ以テ、諸般ノ商業ニ管スル規則ヲ定メタリ(但シ此律令書ハ、「コルベール」氏ノ

發起ニ係リテ、大抵昔「サバリー」氏ノ記草セシ所ナリ、「サバリー」氏ハ、其身素ト商人ニシテ、數年實地ノ經驗ヲ積ミ、兼テ商法學ニ通ジタルヲ以テ、此律令書ト共ニ其名ヲ不朽ニ傳ヘ、佛國ノ習俗（此律令書ヲ呼ビテ、商法、一名「サバリー」法ト云フ、）其後千六百八十一年ノ律令書ヲ以テ、海上法及ヒ海上貿易規則ヲ定メタリ（思フニ此律令書ハ當時ノ制法中、最良ノ法ナルベシ、「バラン」氏之ヲ評シテ曰ク、路易第十四世ノ事業中、其最モ善美ナル者ハ、此律令書ニ在リト、亦宜ナル哉）此律令書ハ、啻ニ佛國人民ノ稱讃ヲ得タルノミナラス、近傍ノ諸國モ亦各競起シテ之ヲ摹倣シ、遂ニ歐洲全國殆ント皆之ヲ用フルニ至ソリ

斯ノ如ク路易第十四世ノ律令書ヲ叙述シタル所以ハ、我カ方今ノ商法ハ、直チニ之ニ管接シタル者ニシテ、其諸條目ハ、此律令書中ヨリ引用シタル者頗ル多ケレバナリ、然リト雖モ此律令書ハ、之ヲ布告シタル後、一世期ニシテ既ニ改正ヲ要シタリ是ニ於テ千七百八十九年、之ヲ改正スル爲ニ其委員ヲ設ケタリシガ、國事多難ニシテ、遂ニ其目途ヲ實地ニ施スヿヲ得ス、再ヒ其改正ニ着手シタルハ、實ニ拿破翁第一世ノ「コンシュル」官タ

リシ時ニ在リトス

商法書

千八百一年、第一「コンシュル」官（即チナポレオン）ハ、委員ヲ命シテ、商法書ノ編纂ニ任シ、千八百六年ニ至リ、其委員ノ編纂シタル議案ヲ參議院ノ議ニ付シ、其議定ヲ經タル五箇ノ法律ヲ逐次ニ民選議院ニ付シテ其許諾ヲ得タリ、然シテ此五箇ノ法律ハ、千八百七年九月十五日ノ法律ヲ以テ之ヲ合シテ一本ト爲シ、命スルニ商法ノ名ヲ以テシ、翌千八百八年一月一日ヨリ此新法ヲ實地ニ施行ス可キ旨ヲ定メタリ

商法書ハ、之ヲ四篇ニ分チ、第一篇ハ、諸般ノ商業ノ事ヲ記シ、第二篇ハ、海上貿易ノ事ヲ記シ、第三篇ハ、分散及ヒ倒産ノ事ヲ記シ、第四篇ハ、商法裁判所ノ設置方、及ヒ其管轄ノ事ヲ記ス、而シテ商法書ノ諸規則ハ、每條順ヲ逐テ一連帶ヲ爲シ、合計六百四十八條ナリ

商法書ノ改正

商法書ハ、我カ商法學ノ最モ盛大ナル標記ニシテ、貿易旺盛ナル諸開明國ノ共ニ之ヲ採用スル所ナリ、蓋シ我佛國ノ歐洲諸國ノ爲メ、其商法ノ基典ヲ備ヘシ面目ヲ得タルハ、此商法書ノ在ルニ據ルナリ

此商法書ノ重大ナル「如此シト雖モ、猶ホ未タ完備ナラサル所アリテ改正ヲ要シ、且商業ノ進歩ニ從テ、更ニ其條目ヲ增補スルヿヲ要シタリ、是ニ於テ千八百八年以來、各種ノ法律ヲ以テ、數回ノ改正增補ヲ爲シタリト雖モ、今一々之ヲ枚擧セス、只其中殊ニ重要ナル法律ヲ擧レハ、則チ千八百三十八年ノ法律（此法律ハ、家資分散及ヒ倒産ノ事ヲ記シタル、第三篇ヲ改正セシモノ、）及ヒ千八百六十七年ノ法律（此法律ハ株金會社ノ規則ヲ改メタルモノ）ニ在リトス

舊時ノ工法及ヒ同業結社ノ事

前文既ニ商法ノ起因ヲ揭ケタルヲ以テ、今亦此ニ工法ノ沿革ヲ畧論スルニ蓋シ我カ舊時ノ工法ノ本質ハ、同業結社ノ法ニシテ、工業製作ハ、一種ノ社會中ニ於テ之ヲ行フヿニ定メタリ、故ニ工作ノ業ヲ營マント欲スル者ハ、其社會中ニ加入ス可ク、之レカ爲メニハ許多ノ時日ヲ費シ、多少ノ艱苦ヲ嘗メ、若干ノ金錢ヲ擲チテ、其試驗ヲ經サル可カラス、且其各社會ハ、互ニ其事業ノ範圍アリテ、容易ニ之ヲ脫スルヿヲ得サリシ、今其一例ヲ擧レハ、古若ノ改製職人ト裁縫職人トハ、互ニ其業ノ範圍ヲ別ニシ、甲ハ新衣ヲ裁スルヿヲ得ス、乙ハ古着ヲ改製スルヿヲ得サルガ如キノ景況タリ、是ヲ以テ各社會ノ爭訟絶フルヿヲクシテ、屢〻審庭ヲ煩ハシ、時アリテハ數世期ヲ經ルト雖モ、尙判決セサル如キ訴訟ヲ生セシヿ有リ

右各社會（種々ノ同業結社）ノ設立方、社會ニ入ルニ必要ノ條件及ヒ其法式、授業師ト弟子トノ關係等ハ、各種ノ章程、規則、免許狀ヲ以テ之ヲ規定

シ、且製作及ヒ販賣ノ法モ亦之ニ準シ、万事預メ其法ヲ立テ、之レカ制限ヲ設ケタレハ、此制ノ爲メ、工作自由ノ權、地ニ落チテ巨大ノ不便ヲ生シ、舊習ノ陋癖ヲ永遠ニ傳ヘ、新法新發明ヲ妨止シ、各人工作起業ノ自由ヲ阻碍シテ、其工作ノ進歩上ニ害アルヤ亦太甚シカリキ

是ヲ以テ同業結社ノ制ハ、路易第十六世ノ著名ナル律令書（此律令書ハ、千七百七十六年三月ノ日附ニシテ「チュルゴー」氏ノ起草ニ係ル、）ヲ以テ之ヲ廢棄シタリ、而シテ此律令書ハ、其序文ニ雄辨快筆以テ工作自由ノ原理ヲ保認シタルガ故ニ、蓋シ今日ヨリ之ヲ觀レハ恰モ新ナル工業制度ノ端緒ト謂フ可キナリ

現今ノ工法

工作自由ノ原理ハ、我カ現今ノ工法ノ基礎タリ、然レトモ此自由ノ原理タルヤ、猶未タ其制限アルヲ免カレザルハ、蓋シ已ムヲ得サルニ出ル所ナリ、而シテ此自由ヲ制限シタルハ、互ニ年期ヲ異ニセル各種ノ法律ニ因

レリ、依テ今之ヲ擧ルヿ左ノ如シ

一　千八百十年十月十五日ノ命令書、及ヒ千八百十五年一月十四日ノ命令書（災禍ヲ生ス可キ工業場、人ノ妨害ヲ釀ス可キ工業場、及ヒ人身ノ健康ヲ害ス可キ工業場ニ管スル、規則ヲ設ケタルモノ）

一　千八百四十一年三月二十二日ノ法律（工業場内ニ於テ少年ヲ使役スルノ法ヲ定メタルモノ）

一　千八百五十四年六月二十二日ノ法律（工作者ノ簿冊ノ事ヲ規定シタルモノ）

一　千八百五十一年二月二十一日ノ法律（授業契約ノ法ヲ定メタルモノ）

一　千八百四十四年七月五日ノ法律（新發明物專賣免許ノヿヲ定メタルモノ）

一　千八百五十七年六月二十三日ノ法律（製造ノ記号ヲ定メタルモノ）

一　千八百六十四年五月二十五日ノ法律（工丁等相結ヒテ其賃銀ヲ增ス罪ノ刑罰ヲ廢シテ、工作自由ノ原理ヲ更ニ擴張シタルモノ）

如是ク工業ヲ規定スルニ、種々ノ法律ヲ以テシタルハ慨歎ス可キニシテ、人ナシテ容易ニ工法ヲ知ルヿヲ得サラシムルノ憂アリ、依テ今之ヲ證センカ爲メニ、姑ク當今ノ經濟家「ルバッソール」氏ノ論說ヲ左ニ引用ス、看者乞フ之ヲ恕センヿヲ

「ルバッソール」氏商法書編纂ノ事ヲ論シテ曰ク、我輩ハ商法書ノ範圍狹小ニ失シタルヲ以テ參議院ヲ非難スルヲ得可シ、抑モ當今編纂ヲ要スルモノハ、商法書ニ非スシテ却テ商工法ニ在リ、何トナレハ商工ノ二法律ハ、互ニ之ヲ區別シ能ハザルヿ往々之レアルト、又敢テ之ヲ區別スルヲ要セサルヿ許多ナレバナリ、又商工ノ二法律ハ、共ニ特設ノ法律ヲ以テ規定ス可キ、特種ノ關係ヲ人ト人トノ間ニ生セシムルガ故ニ、此二法律ハ、寧ロ之ヲ合シテ一本ト爲シ、以テ商工二者ヲシテ輙ク其權利義務ヲ知ラシムルヿ、恰モ各人民ノ民法ニ依リテ、其權利義務ヲ了知スルガ如クナラシムルニ如カサルナリト

予ヲ以テ之ヲ觀レハ、右「ルバッソール」氏ノ說ハ、善ク其當ヲ得タルモノニシテ、予モ亦之ニ左袒セサルヲ得ス、且ツ假令其說ノ當否ハ、姑ク之ヲ舍テ論セザルモ、予カ讀者ヲシテ記念セシム可キ所ハ商法書ニシテ、其設ケアレモ別ニ工法書ノ編纂ナキヿト、工法ニ管スル諸件ヲ探索スルニハ、特別ノ法律ニ賴ラサルヲ得サルトノ二事ニ在リトス

佛國商工法鑑卷之一

大井憲太郎　譯

第一章　商業及ヒ商人（佛蘭西商法第一條、第六百三十二條、第六百三十三條、第六百三十八條）

本章ノ區別

商法學ノ門ニ入ント欲スルニ方リ、須ク先ツ推究ス可キ事柄ハ、商法ヲ以テ治ム可キ事業（即チ商業）ト、此商法ヲ循守ス可キ人（即チ商人）トハ、如何ノ者タルヤヲ會得スルニ在リテ、此二箇ノ事柄ヲ論述スルハ、即チ此章ノ本旨トス、故ニ商業ト目ス可キ事業、及ヒ商業ノ効績、並ニ商人タルノ分限ヲ組成スル性質ヲ、此一章中ニ於テ揭述ス可キニ因リ、本章ヲ分チテ二款ト爲シ、其第一款ハ、商業ノ事ヲ記シ、第二款ハ、商人ノ事ヲ記スルニ供ス

商業ノ本旨

商業トハ、互ニ物ヲ交換シテ以テ其利益ヲ得ンガ爲メ、天造或ハ人工ヨリ成ル所ノ物品ヲ交換シ、又ハ其交換ヲ爲スノ便利ヲ生セシムルヲ以テ、其目的ト爲ス所ノ種々ノ所業ヲ指シ言フニ在リトス、

又商賣ノ目的ト爲ス所ノモノハ、消費品及ヒ商品ノ二者ニ在リテ、消費品トハ、人類、畜類ノ日々ノ消費ニ供スル物品ヲ云ヒ、酒類衣服等ノ如キ其中ニ在リ、又商品トハ、不動産(即チ家屋及ヒ土地等)ヲ除ク外、凡ソ賣買貸借ヲ爲シ得可キ諸種ノ品物ヲ指シ言フニ在リトス

又商賣ハ、物品ノ天造、又ハ人造ニ係ルヲ問ハヲ、皆等シク之ヲ爲スヲ得可シ、蓋シ人工ヲ以テ天造物ヲ變造スルニ在ル所ノ商賣ノ重大ナル一種ハ、之ヲ名ケテ工業製作ト云ヒ、其工業製作ヲ爲ス者ヲ名ケテ、工業製作者、又工作者ト云フ

商賣ノ種類

商賣ハ、之ヲ分チテ大商賣(即チ卸賣)、小商賣(即チ小賣)及ヒ內國商賣、外國商賣ト爲ス、而シテ大商人トハ、物產ノ製出所、又ハ物產ノ價廉ナル所ニ就キテ物產ヲ買込ミ、其價ノ貴キ地ニ之ヲ運輸シテ多量ニ之ヲ賣捌ク者ヲ言ヒ、小商人トハ、大商人又ハ工業製作者ヨリ商賣品ヲ買入レ之ヲ店前ニ羅列シ、買人ノ求ニ應シテ之ヲ小賣ニ爲スモノヲ言フ

又內國商賣トハ、佛國產ノ物品ヲ佛國ニ於テ賣拂フヲ以テ目的ト爲ス者ヲ言ヒ、外國商賣トハ、或ハ外國產ノ物品ヲ佛國ニ齎シ來リ、佛國ニ於テ之ヲ賣捌キ、或ハ佛國產ノ物品ヲ外國ニ輸送シテ之ヲ賣捌ク者ヲ言フ、蓋シ外國商賣中、右第一種ノ業ヲ輸入ト云ヒ、右第二種ノ業ヲ輸出ト云フ

夫レ商賣ハ、諸種ノ賣買一切ノ總稱ニシテ、又其賣買一切ノ事業ヲ名ケテ商業ト言フ、而メ凡ソ商賣ヲ爲ス者ハ、一人トシテ利益ヲ得ルノ目的アラサルハ無ク、此目的アルハ即チ商業普通ノ本性ニシテ、下ニ掲クル所ノ各種ノ事業ノ如キハ、何レモ皆此性質ヲ具ヘサル者ナシ

再ヒ賣却スル爲メノ買入

商業中ノ最モ分明ニシテ解シ易キ者ハ、諸消費品及ヒ商品ヲ買入レ、利ヲ得テ之ヲ賣却スルニ在リトス、故ニ小商人ハ、大商人ヨリ若干ノ直段ニテ商品ヲ買入レ、其後更ニ之ヲ買直段ヨリ貴キ價ニテ賣拂フヲ其業トシ、又商品ヲ買入ル、者ノ其儘ニテ之ヲ賣拂ハントスルモ、又ハ其買入レタル物ノ形狀ト種質トヲ變ヘタル後、再ヒ之ヲ賣拂ハントスルモ、其所業ニ於テハ、共ニ皆同一ノ性質ニシテ、此二箇中何レノ場合ニ於ケルモ、其品物ヲ買入ル、者ハ、再ヒ之ヲ賣捌キ、其買直段ト賣直段トノ間

ノ差ヲ以テ利ト爲ス可キノ心匠ニアラサルナシ、又商業トハ、再ヒ賣却スル爲メ物品ヲ買入ル、事ノミヲ言フニ非ス、其物品ヲ人ニ貸シ、又ハ一時其物品ヲ入用ノ者ノ需用ニ、供スル爲メ、物品ヲ買入ル、事モ、亦商業中ニ在リテ、例ヘハ何人ニ限ラス、公ケニ貸渡サンカ爲メ、車ヲ買入レ、又ハ貸觀場ノ用ニ供センカ爲メ、書籍ヲ買求ムル事ノ如キモ、亦商業ト爲スナリ、是レ蓋シ此等ノ者ノ書籍ヲ買求メ、或ハ車ヲ買入ル、ハ、再ヒ賣却ス可キ爲メニアラスト雖モ、書籍又ハ車ヲ、他人ノ需用ニ應シテ貸渡シ、之カ爲メ利益ヲ得ント欲シテ買入レシヲ以テナリ

又上ニ反シテ地主耕作者、葡萄植附人ノ己レカ土地ヨリ作リ出シタル消費品(即チ麥、酒、穀物ノ如キ諸物)ヲ賣捌ク如キハ、商業ノ本性ニアラズ、是レ此者ハ再ヒ賣捌ク爲メ物品ヲ買入ル、ヿナク、只自カラ作リ出シタル土地ノ産物ヲ賣却スル事ノミヲ以テ、其目的ト爲スニ因ル、而メ又

右ノ各人土地耕作ニ入用ナル諸物ヲ買入レ、又ハ俵、樽等ヲ買入レ、穀物酒ト共ニ再ヒ之ヲ賣捌クト雖モ、是レ亦商業ト爲ス可カラス、是レ此等ノ物品ハ、全ク麥及ヒ酒等ノ如キ消費品ノ附屬物ト爲シテ之ヲ賣拂ヒ、初メヨリ利ヲ得テ賣拂フノ目的ヲ以テ之ヲ買入レシニ非ルニ因ル又自分一己ノ用ニ供スル爲メ、或ル物品譬ヘハ車ヲ買求メ、其後更ニ新タナル車ヲ買入ルヽ爲メ、又ハ其不用トナリタルカ爲メ之ヲ賣拂フカ如キハ、是レ亦商業ト爲ス可カラス、何トナレハ此等ノ諸物ハ、全ク自己ノ用ニ供スル爲メ、買入レタルニ在リテ、利ヲ得テ再ヒ之ヲ賣拂ハンカ爲メ買入レタルニ非サレハナリ、故ニ再ヒ賣拂フ可キノ心匠、又ハ人ノ需用ニ供シテ利ヲ得可キ心匠ヲ以テ、物品ヲ買入ルヽヲ、第一種直業ノ本性ト爲ス、而シテ此第一種ノ商業ニハ、別種ノモノ許多相連屬ス、因テ逐次左ニ之ヲ揭述セントス

工業製作ノ業

前文記スル所ノ別種ノ商業中、先ツ第一ニ工業製作ノ業ヲ揭述スルニ公益ノ爲メ、器械又ハ工丁ヲ用ヒテ物ヲ變造シ、其直打ヲ貴カラシムルハ、即チ工業製作ノ業ナリ、故ニ羊毛、糸、綿ヲ紡キテ反物ヲ織リ、或ハ鉄ヲ製シテ器械又ハ器物ヲ作ルカ如キハ、工作ノ業タリトス

又工作者ハ、生品ヲ買入レ、後之ヲ變造シテ、再ヒ賣却スルヲ其業ト爲スヿアリ、然ル時ハ上ニ論セシ如ク、再ヒ賣却スル爲メ物ヲ買入レタレハ、即チ一箇ノ商業ヲ爲ス者トス

又工作者ハ、己レカ工業製作ノ業ニ用フ可キ生品ヲ買入レサル時ト雖モ、亦商業ヲ爲スヿアリ、例ヘハ茲ニ反物商人アリ羊毛ヲ製シ、之ヲ以テ反物ヲ織ラシメンガ爲メ、工作者ニ其羊毛ヲ與フル時ハ、其註文ヲ受ケタル工作者ハ、自カラ羊毛ヲ買入ルヽニ非ス、只己レカ器械及ヒ己レガ

工丁ヲ用ヒテ、其羊毛ヲ製シ反物ヲ織ル可キヿヲ引受ケタルニ過キスト雖モ、即チ商業ヲ爲ス者トス、何トナレハ其工作者ハ、反物商人ヨリ受取リタル所ノ織手間料ノ金高ト、自カラ拂出ス所ノ工丁雇賃ノ金高トノ差ヲ以テ己レカ利益ト爲シ、其手間料ニ付キ若干ノ利分ヲ得レハナリ

仲買人及ヒ商業世話人ノ事

次キニ仲買及ヒ商業管照ノ業アリ、此等ノ業ハ、後文更ニ之ヲ詳カニス可シト雖モ、左ニ其大畧ヲ揭述セントス

凡テ商人ハ、互ニ遠隔ノ地ニ在リテ、互ニ相知ラサル者多ケレハ、交接ヲ爲スヿ難ク、互ニ取引ヲ爲スヿヲ得サルニ因リ、商業上ニテ缺ク可カラサル所ノ補助媒介人アルヲ待テ交接スヘシ、而シテ其補助人、媒介人トハ、仲買人及ヒ商業世話人即チ之レナリ、就中仲買人ハ、賣主買主双方ヲ

シテ相交接セシムルノミナラス、自カラ商務ヲ取扱フモノナルニ因リ、若シ賣方ヲ任セラレタル時ハ、自カラ其賣リタル物品ヲ渡ス可キ義務ヲ擔當ス可ク、又買方ヲ任セラレタル時ハ、自カラ代金ヲ拂フ可キノ義務ヲ負擔スヘシ、又仲買人ハ、商務調フタル上ニテ、本人ニ對シ筭計ヲ爲シ、本人ノ爲メニ受取リタル金高及ヒ商品ハ、之ヲ本人ニ引渡シ、自カラ拂出シタル金高ハ、本人ヨリ其償還ヲ得テ、而シテ仲買ノ手數料ヲ受取ルナリ

商業世話人ノ仲買人ト異ナル所ハ、商業世話人ハ、只賣買双方ノ本人ヲ引合ハセ、双方本人ヲシテ賣買ノ契約ニ管スル條件ノ取極メヲ爲サシムルニ在リトス、故ニ双方本人ノ相談ニテ契約ノ箇條取極マレハ、商業世話人ノ任務此ニ終リタルニ因リ、其成リ行ノ如何ニ管シテハ、自カラ其責ニ任スルヿナク、又自カラ其義務ヲ負フヿナク、双方本人ノ間ニ於

テ其契約ヲ施行ス可シ、但シ商業世話人ノ其世話料ヲ得ルニ至リテハ、仲買人ノ手數料ニ於ケルト異ナルヿナシ

仲買人ノ從事セル業ヲ、仲買ノ業ト云ヒ、商業世話人ノ從事セル業ヲ、商業管照ノ業ト云フ、均シク皆商業ノ一種タリ

運送受負及ヒ物品供給受負ノ業

仲買人及ヒ商業世話人ノ業ニ次キテ、尙ホ一種ノ商業、即チ運送受負及ヒ物品供給受負ノ業アリ、今之ヲ左ニ畧記ス

運送受負人モ、亦重立チタル商人ノ中ニ在リテ、即チ商品荷物、又ハ旅客ヲ甲地ヨリ乙地ニ送ルヲ業トスル者ヲ言フナリ、蓋シ此類ノ受負人ヲ商人ト爲セシ所以ハ、運送ノ方便（車、馬、舟ノ類ヲ云フ）ヲ人ニ貸與ヘテ、以テ若干ノ利益ヲ得レハナリ

凡ソ運送受負ノ業ハ、其陸運ニ係ル者ト、水運ニ係ル者トノ別ナク、通シ

テ之ヲ商業ナリトス

運送受負ノ業ヲ例證スレハ、即チ陸運ニ就テハ、乘車、荷車及ヒ鉄道會社ノ類ニシテ、水運ニ就テハ、航海及ヒ河川ノ通船ヲ業トスル者ノ類ナリ」

又物品供給受負ノ業トハ、何人ヲ問ハス、消費品及ヒ其他ノ物品ヲ取極メタル代價ニテ、特定ノ期日間、供給ス可キヿヲ擔任スルヲ云フナリ

故ニ其受負人トハ、例ヘハ公署或ハ國立、又ハ邑立ノ學校等ニ、每歲必要ノ消費品（即チ炭、油等）ヲ供給ス可キヿヲ擔任セル者ノ如キ是レナリ

但シ物品供給受負ノ契約書中、其最モ重要ナル者ハ、諸般ノ公務（就中海陸軍）ニ必須ナル物品ヲ供給ス可キヿヲ、政府ト取結ヒタル契約ニ在リトス、蓋シ此契約ハ、特別ノ規則ニ循フ可キ者ニシテ、此契約ニ因リテハ、之ヲ結ヒシ者（即チ受負人）ヲシテ重劇ノ義務ヲ負擔セシムルカ故ニ、宜シク次章ニ讓リテ更ニ其事ヲ擴充説明スヘシ

爲替手形ノ事並ニ爲替及ヒ銀行ノ業

爲替手形並ニ爲替及ヒ銀行ノ業モ、亦商業中ニ屬スル者タリ、蓋シ爲替手形ノ性質、及ヒ爲替手形ニ管スル法式、並ニ其効績ハ、當ニ後文ニ於テ之ヲ詳説スヘシト雖モ、今其大概ヲ言ヘハ、爲替手形トハ、一種特別ノ法式アル證書ニシテ、人ヲシテ此手形ヲ記シタル所ヨリ更ニ他ノ場所ニ於テ、金高ヲ受取ラシムル可キ契約書ナリトス

銀行ノ事業ハ、之ニ數箇ノ性質アリト雖モ、專ラ人ノ金ヲ預リ、期限前ト雖モ部合ヲ得テ、爲替手形或ハ證券ヲ引替ヘ、証券ヲ發行シ、商人ニ資金ヲ融通スル等ニ在リトス

又爲替ノ業トハ、例ヘハ外國ノ金貨ヲ佛國ノ貨幣ニ引替ヘ、又ハ甲ノ場所ニ在ル人ヲシテ、乙ノ場所ニ於テ金高ヲ受取ラシムル等ノ事ヲ爲スニ在リ、而シテ爲替手形ハ、此事業中ノ第二旨ニ出ル者トス

爲替ノ業ヲ爲スト雖モ、若シ利益ヲ得ル爲メ之ヲ行フニ非サレハ、之ヲ目シテ商業ト爲ス可ラス、故ニ例ヘハ茲ニ人アリ、其友ノ賴ニ應シテ銀行ノ證券ヲ正金ニ引替ヘ與フルカ如キハ、商業ヲ爲シタル者トス可カラス

之ニ反シテ引替ヲ以テ常職ト爲シ、之カ爲ニ利ヲ得ル者ハ、之ヲ爲替商人トス

特別ノ商業

上ニ揭クル所ノ外、尙ホ特別ノ商業アリ、之ヲ擧レハ、商業取次所ノ如キ、即チ其一ナリ

商業取次ノ業ヲ爲ス者ハ、賴人アレハ手數料ヲ受ケ、本人ニ代リテ商務ヲ取扱ヒ、又ハ貸方取立ヲ爲シ、又ハ本人ノ口入レヲ爲シ、又ハ不動產賣拂ニ付キ其買主ヲ世話シ、又ハ商業資本金ヲ世話シ、其他總テ委托ヲ受

ケシ賣買取引ノ紹介人ト爲ル等ヲ以テ其業トス

又糶賣所、戲場、見セ物、奏樂場ノ業、大小船舶ノ構造、及ヒ其賣拂又ハ航海ニ係ル事業（即チ船舶貸渡、船長、水夫ノ傭入、海上受負）ノ如キモ、亦商業中ニ在リトス

當前ノ商業ノ性質アル事柄ト商業ト看做ス可キ事柄トノ差別

前文ニ説了シタル所ノ諸業ハ、當前商業ノ性質ヲ具スル者（即チ興ノ商業）コシテ、其性質ヲ具スルヤ、事業ヲ行フ人ニ管係スルヿナシ

故ニ若シ常人（商人外ノ者ヲ云フ）ノ爲替手形ニ手署シタル時ノ如キハ、即チ其商業ヲ爲セシー、恰モ商人ノ其手形ニ手署セシト異ナラサルナリ

又其事業ノ本來ノ性質ニ就キテハ、商業ニアラスシテ、之ヲ行フ人ノ如何ニ因リ、商業ノ性質ヲ得ル者アリ、此類ノ事業ハ、商人之ヲ行ヘハ商業

ト爲リ、商人外ノ者之ヲ行ヘハ商業ト爲ラサルナリ、今其例ヲ擧ルニ、商人ノ記セシ證劵及ヒ條約書ハ、商用ノ爲メニ記シタルモノト看做シテ、以テ之ヲ商業上ノ證書ト爲スカ如キ、即チ此類ナリ

然リト雖モ、是レ畢竟唯其事跡ニ因リ、法律上ニテ思料スル所ニ過キサレハ、若シ其景況ニ因リ、又ハ其證書ノ本性ニ因リテ、其契約ノ全ク商業外ノ事ニテ記シタルノ明證アル時ノ如キハ、之ヲ商業上ノ證書ト看做ス可カラス

故ニ商人自己ノ消費ニ供スル爲メ、酒薪ヲ買入レ、又ハ其一己ノ住居及ヒ家族ノ住居ノ爲メ房室ヲ借受ケ、又ハ歡娛ノ爲メニ別莊ヲ借入ル、時ノ如キハ、商業用ニ其買入レ、又ハ借入レヲ爲サヽルヿ判然ニシテ、然ル時ハ商業ノ性質アラサル者トス

商業ノ効績

今一事業ノ其商業タルノ性質ヲ具スルニ因リ起ル處ノ特別ノ効績ヲ揭述スルノ時ニ至リタレハ、此ニ之ヲ擧ルニ、〔第一〕商業ノ性質ヲ具スル事業ヲ行フニ付キ生シタル爭ハ、通常ノ裁判所〔即チ治安裁判所又ハ初告裁判所一名郡裁判所〕ニ非ラスシテ、特設ノ裁判所〔即チ商法裁判所〕ニ於テ之ヲ審判スヘク、又其爭ハ、商人外ノ者ノ、右ノ事業ヲ行フタルニ付キ起ル時ト雖モ亦同樣ナリトス

〔第二〕商業上ニ管スル證據ハ、民法上ニ於テ許認セサル所ノ方法、例ヘハ賣買双方本人ノ間ニ在ル往復ノ書狀、及ヒ商業簿冊〔下ニ詳カナリ〕ノ類ヲ用ヒ得、可キヲ以テ其通規トス

又民事ノ訴訟ニ就キテハ、訴訟ノ本案百五十「フランク」以下ノ金額ニ係ル者ニ非サレハ、証人ノ申立ヲ以テ證據ニ立ルヿヲ得スト雖モ、商法裁判所ニ於テハ、何程重大ナル訴訟タルモ、證人ノ申立ヲ證據ニ立ルヿヲ

得可キモノトス

又千八百六十七年前ハ、商法上ニ管スル二百「フランク」以上ノ金高渡シ方ノ申渡ヲ執行セシムルコハ、本人ヲ禁錮スルヲ得タリシカ、同年七月廿二日ノ法律ヲ以テ、裁判執行ノ爲メノ禁錮ノ法ヲ廢シタリ

第二款　商人

商人タルノ分限ヲ組成スル性質

商業ノ本性ト其効績トノ二項ハ、前款既ニ之ヲ説述シタルニ因リ、今又如何ノ徵證、如何ノ性質ヲ以テ、人ノ商人タルヲ認ム可キヤヲ論セントス

例ヘハ茲ニ人アリテ、一箇又ハ數箇ノ商業ヲ爲スト雖モ、猶ホ未タ之ヲ以テ商人ト認ム可ラス、其商業ヲ爲スヤ、之ヲ繼行シテ日常ノ事トシ、且之ヲ行フヿヲ世ニ公ケニ爲スヲ要ス、故ニ概ネテ之ヲ言ヘハ、商業ヲ以

テ其常業ト爲ス者ヲ商人ト爲ス可キナリ

商人ハ、特別ノ義務ト特別ノ規則トニ循フ可キ者ニシテ、例ヘハ商業ニ管スル各種ノ簿冊（下ニ詳カナリ）ヲ設ケ置ク可シ、又婚姻ノ契約書ヲ公ケニス可キカ如キ規則ヲ守ル可キ者トス

又商人ノ爲セシ諸契約ハ、商業ノ爲メニ取結ヒタルト看做ス可シ、因テ亦之ヲ商業上ノ契約ト看做ス可シ

若シ商人其契約ヲ履行セサル時ハ、家資分散ノ申渡ヲ受ク可シ、而シテ商人ニ管スル特別ノ分散ニ付テハ、其分散人ノ身上ニ至重ノ影響ヲ生ス可キヿヲ後ニ揭ソトス

工作者大小商人及ヒ職工ノ語意

此書中ニ用フル商人ト云ヘル語ハ、法律上ノ語ニシテ、即チ商業工業ノ種類ト其大小トヲ區別セス、總テ其二業ヲ行フ者ヲ指言スルニ在リ

故ニ仲買人、銀行主、商業世話人、船ノ持主、工作者ノ如キハ、何レモ皆商人ニシテ、純粹ノ商人（即チ商品ノ賣買ヲ業トスル者）ト全ク同一ナリトス、

然レトモ日々ノ慣習ニ於テハ、各種ノ商人ヲ指言スルニ種々ノ語ヲ用フ、今其一例ヲ揭クレハ、卸賣ヲ爲ス者ヲ「チゴシアン」ト云ヒ、小賣ヲ爲ス者ヲ「マルシヤン」ト云ヒ、又工丁及ヒ器械ヲ用ヒテ、物品ノ形狀及ヒ其種質ヲ變造スル者ヲ、工作者（「ファブリカン」一名「マニュファクチュリエー」）ト云フカ如シ

又工作者ト職工トハ、自カラ其區別アリテ、之ヲ混同ス可ラス、工作者ハ商人タリト雖モ、職工ハ然ラサル者トス、是レ譬ヘハ人ノ註文ヲ受ケ其勞力ノミヲ用ヒ、人ヨリ受取リタル物件ヲ以テ、或ル物品ヲ製作スル者ノ如キハ、商人ト看做ス可カラサルヿ明カナレハナリ

然レトモ自カラ生品ヲ給シ、併セテ亦其勞力ヲ用ヒテ、物品ヲ製造スル者ノ如キハ、之ヲ商人ト區別スルヿ太タ難シ、依テ案スルニ人ノ注文ヲ受

ケ一身ニテ力作シ、其製出シタル物品ニ付キ利分ヲ得ルヿナク、只其勞力ノ報銀ノミヲ得ル者ハ、之ヲ商人中ニ列ス可カラサレハ、是等ノ者ハ商人及ヒ工作者ノ名義ヲ附ス可カラス、只之ヲ尋常ノ職工ト爲ス可キノミ

附錄

物品供給及ヒ公同工業ノ受負契約ノ事

物品供給ノ受負契約ト公同工業ノ受負契約トノ區別

本章中前文ニ於テ、政府ト平民トノ間ニ取結フ、受負契約ノ畧解ヲ爲セシカ、今又此附錄中ニ、其事ニ管スル特別ノ規則ヲ揭述セントス

受負ノ契約ハ、之ヲ分チテ二種トス、即チ其一ハ諸公務ニ必須ナル消費品、及ヒ其他ノ物品ヲ供給ス可キヿヲ、人民ヨリ政府ニ對シ契約シタル者ニシテ、之ヲ名ケテ物品供給ノ受負契約ト云フ、今其一二ノ例ヲ擧レハ、兵隊ノ食糧、及ヒ一切ノ軍裝品ノ供給、軍艦ノ製造、及ヒ其艤裝ノ受負、水夫ノ賄方受負等皆此類ナリ、又一ハ公同ノ諸工業（道路、橋梁、城砦等ノ建築）ノ施行ヲ引受ク可キ契約ニシテ、之ヲ名ケテ公同工業ノ受負契約ト云フ、

物品供給ノ請負契約式及ヒ請負入札ノ事

物品供給ノ請負契約書ハ、政府ニ代リテ宰相、州長、建築長、及ヒ各公務ノ長之ヲ記ス可シ

普通ノ規則ニ循ヘハ、其契約ハ、公ケノ入札法ヲ以テ之ヲ定ムルヲ例トス、但シ時アリテハ又例外ノ事アリトス

入札法ヲ行フニハ、預メ一定ノ期日間、貼附書ヲ以テ之ヲ公告シ、又請負ノ箇條ヲ示ス爲メニ、受負箇條書ヲ作ル可シ、但シ官府ハ、請負契約ヲ相當適宜ニ執行フヿヲ得可キ身分ノ者ニ非サレハ、入札ヲ爲スヲ許サス、落札ハ其金高最モ廉ナル者ニ定ム

入札ニ加バルニ必須ノ條件ハ、受負箇條書ニ之ヲ指定シタルカ故ニ、若シ其箇條ヲ履行セサル者ハ、直ニ排除セラル可シ

落札人ハ、其契約ノ執行ヲ完全ナラシムル爲メノ保證ヲ立ツ可シ、但シ其保證トハ、若シ落札人契約ノ執行ヲ完成セサル時、政府ニ對シテ其償ヲ出シ得可キ資産アル者ヲ保證人ニ立ル歟、若クハ金高ヲ官府ニ預クル歟、又ハ己レノ不動産ヲ書入質ニ爲ス歟ノ中ニ在リトス

官府ト落札人ノ差異

落札人ハ、落札トナリシ事ノミヲ以テ官府ニ對シ其責ヲ受ク可ク、官府ハ然ラス當管ノ官吏（殊ニ該省ノ卿）ヨリ落札ノ許可ヲ與ヘタル上ニ非サレハ、落札人ニ對スル義務アルヿ無シ、又假令落札ノ後ト雖モ、若シ該省ノ卿ヨリ落札ノ許可ヲ爲サヽレハ、全ク落札ヲ爲サヽルモノト看做シ、落札人決シテ故障ヲ申立ルヿヲ得ス

落札人ノ義務

一旦落札ノ許可アリシ時ハ、物品供給ノ請負人（即チ落札人）ハ、請負箇條書ニ在ル規則ニ照準シテ必ス契約ヲ履行ス可シ、故ニ若シ其契約ノ箇條ヲ行ハサル時ハ、其請負人ヲ廢スルノ權ハ、常ニ官府ニ在リトス

又請負人ハ、約定シタル期限間、必ス其契約ヲ實踐ス可シト雖モ、官府ハ然ラス、若シ物品供給ヲ要セサル情實アルニ於テハ、其期限内ト雖モ、請負人ニ相當ノ償ヲ與ヘテ、其契約ヲ廢棄スルヿヲ得可シ、但シ其償ハ、請負人ノ入費ヲ償フノミニ在リテ、若シ契約ヲ廢棄セサレハ、爲メニ請負人ノ得可キ若干ノ利益迄ヲ算計シテ之ヲ償フニハ非サルナリ

受負人其義務ニ背キシ時ノ處置

請負人若シ契約ノ執行ヲ遲延シタル時ハ、既ニ供給セシ物品ノ代價中、其一部ノ渡シ方ヲ差留ムルノ權、官府ニ在リトス、但シ其差留金ノ額ハ、

受負箇條書ニ之ヲ預定スルヲ常トス

請負人契約ヲ執行セサル場合ニ於テハ、其契約ノ取消ヲ申渡シ、官府更ニ他人ト契約ヲ結ヒ、若クハ更ニ第二次ノ入札ニ取掛ルヿヲ得可シ

官府契約ノ取消ヲ申渡シ、更ニ他人ト契約ヲ結ヒ、又ハ第二次ノ入札ヲ爲サシメシ時、第二次ノ契約、又ハ第二次ノ入札ト、第一次ノ入札トノ差アレハ、受負人其差ノ償ヲ引受クヘシ

又官府若シ損失ヲ受ケタル時ハ、請負人ヨリ差出シタル保證ヲ以テ其償ヲ得可シ

又海陸軍ニ入用ナル物品供給ノ義務ヲ欠キ、又ハ其義務ノ執行ヲ怠リシ、受負人ノ刑法ニ定ムル所ノ嚴刑ニ處セラル可キハ、後文更ニ之ヲ說ク可シ

物品供給受負人ト官府トノ間ニ生シタル爭及ヒ其裁判

管轄

若シ官府ト供給請負人トノ間ニ爭ヲ生セシ時ハ、其請負ヲ命シタル官省ヲ管理スル卿之ヲ裁判ス可シ、但シ其裁決ハ、之ヲ參議院ニ控訴スルヲ得可シ

州邑ニ於テモ亦物品供給ノ契約ヲ結フヿヲ得可シ

前文ニ記載シタル諸規則ハ、官府ノタメ爲シタル受負ノ契約ニ管スル所ナリト雖モ、州及ヒ邑ノ爲メ爲シタル契約ニモ、亦均シク之ヲ適用スルヿヲ得可シ、只其互ニ差異アル所ハ、爭ヲ生セシ時ノ裁判管轄ノ異ナルニ在ルノミ、故ニ州ニ管スル物品供給ノ請負契約ニ係ル爭ハ、內務卿之ヲ裁判シ、其裁判ハ、之ヲ參議院ニ控訴スルヿヲ得可シ、邑ニ管スル物品供給ノ受負契約ニ係ル爭ハ、通常裁判所〔即チ初告裁判所〕ニ於テ之ヲ裁判ス可シ

公同工業ノ請負契約式其入札ヲ爲スニ必須ノ條件及ヒ請負箇條書ノ事

公同工業ノ請負契約トハ、其目的公益ノ諸工業（道路、橋梁、公用ニ供スル諸局ノ造營等）ヲ施行スルニ在ル所ノ契約ヲ云フ

公同工業ノ請負契約ハ、入札ヲ以テ爲サシムルヲ通規トス、而シテ此入札ニ加ハラント欲スル者ハ、建築者ノ授與シタル免狀ニ依リテ其能力ヲ證ス可ク、又金高若クハ國債證書ヲ其保證トシテ差出ス可シ

右落札ハ、必ス當管官署ノ許可ヲ受ク可ク、若シ其許可ヲ得サル時ハ、其落札ノ効ナキ者ニシテ、其落札人ハ、之レカ償ヲ得可キノ權ナシ

受負契約ノ條件ハ、總テ之ヲ受負箇條書ニ明細ニ記載ス可シ、而シテ請負人ハ、其箇條書ニ記セシ別段ノ箇條ノ外、下文ニ掲クル所ノ通規ヲ循守ス可キモノトス

工業請負人ノ義務

工業請負人ハ、左ノ義務ヲ行フ可シ

一 官府ヨリ指定シタル期日ヲ以テ工業ヲ始ム可キ事

一 其工業ニ必用ナル丈ケノ工丁ノ員數ヲ斷エス差出ス可キ事

一 受負箇條書ニ定メタル材料ヲ用ヒテ、其指令ト雛形トニ準シ工業ヲ施行ス可キ事

又工業請負人ハ、官府ノ許可ヲ得タルニ非サレハ、其工業ノ一分ヲ下請負人ニ任カスヿヲ得可カラス、又豫定シタル受負書及ヒ雛形ニ照準ス可ク、其指揮ヲ爲ス所ノ建築官ヨリ渡シタル指令書アルニ非サレハ、一モ之ヲ變更ス可カラス

官府若シ其工業ヲ曾テ豫定セシ所ヨリ更ニ大ナラシメ又ハ更ニ小ナラシムルヿヲ必要ナリト思フ時ハ、請負人ハ、新ニ渡サレタル指令書ニ

從テ之ヲ施行ス可シ、然レトモ其變更シテ增大セシヿ、請負工業ノ六分一ニ過グル時ハ、請負人ヨリ契約ノ取消ヲ求ムルヿヲ得可ク、又其變更シテ減小セシヿ六分一ニ過グル時ハ、其償ヲ求ムルヿヲ得可シ

工業請負契約取消ノ事

官府ハ、常ニ工業ヲ廢止シ、或ハ之ヲ延引スルヿヲ得、而シテ官府工業ヲ廢止スル時ハ、當然其受負ノ契約ヲ取消ス可シ、然レトモ官府若シ一年以上其工業ヲ延引セシ時ノ如キハ、工業請負人ヨリ契約ノ取消ヲ求ムルヿヲ得可シ

請負人ハ、右二箇中何レノ場合ニ於テモ、其ニ其損失ノ償ヲ求ムルヿヲ得可シ

工業施行ノ爲メニ定メタル價直ハ、請負人ノ一度之ヲ承諾セシ上ハ、更ニ故障ヲ申述テ之ヲ變スルヿヲ得ス、然レトモ其工業ノ求ク落成セサル

中ニ、物料ノ價直著シク騰貴シ、其騰貴ノ高ノ殘リ工業ノ全價ノ六分一以上ニ及フ時ハ、請負人其契約ノ取消ヲ求ムルヿヲ得可シ

吏員ニ任シテ工業ヲ施行セシムル事

若シ工業請負人、其工業ヲ怠慢スルカ、若クハ其雛形ニ背キ官府ノ指揮ニ從ハサル時ハ、州長命ヲ下シテ之ヲ督責シ、受負人ヲシテ其義務ヲ盡サシム可ク、而シテ若シ十日以上ノ猶豫期限ノ既ニ滿ツルト雖モ、受負人猶ホ其義務ヲ盡サヽル時ハ、州長更ニ吏員ニ任シテ其工業ノ施行ヲ繼カシムルヿヲ得可シ

若シ此法ニ因リテ工業ヲ施行シ、其費用ノ受負人入札ノ價額ヨリモ更ニ增加スル時ハ、工業受負人ハ、其差分ヲ償フノ責ニ任ス可ク、若シ之ニ反シテ官府其工業ヲ施行シ、其費用ノ受負人入札ノ價額ヨリ更ニ減スル時ハ、其益ヲ得ル者ハ獨リ官府ニ在リテ、受負人ハ之カ爲メニ其益ヲ

受ク可カラス

但シ州長ヨリ工業施行ノ事ヲ吏員ニ任シタル後ハ、更ニ其旨ヲ當管ノ卿ニ上申ス可シ、而シテ工業受負ノ契約ヲ取消シ、或ハ受負人ノ引受ニテ更ニ入札ヲ爲サシメ、或ハ吏員ニ任シテ工業ヲ施行セシムルハ、其卿ノ決ニ任カス可シ

右ノ場合ニ於テモ、工業受負人猶ホ其工業ヲ繼行シテ、之ヲ完成スルニ必要ノ資力アルヲ辨明スル時ハ、官ヨリ吏員ニ任シテ、工業ヲ施行セシムルヿヲ止ムルヲ得可シ

抗拒ス可カラサル災難ニ觀テノ償

天火洪水等ノ如ク抗拒ス可カラサル災難ノ爲メ損失ヲ受ケタル時ハ受負人其償ヲ求ムルヿヲ得可シ、但シ之ヲ求ムルニハ、吏員ヨリ其災害ノ檢視ヲ受ク可ク、且其災害ニ遇ヒシ日ヨリ十日内ニ其償ヲ要スル願

書ヲ出ス可シ

工業請取方及ヒ其代價ノ拂方

工業落成スレハ、建築官假リニ之ヲ受取ルノ手續ヲ爲ス可シ、蓋シ此假リ受取ノ主意ハ、工業ノ完成ヲ證明シ、其重大ノ標度ヲ檢視シ、其施行上不良ノ箇所ナキヤ否ヤヲ査察スルニ在リ

工業ノ種類ニ因リ、右ノ工業假リ受取ヨリ、六ケ月或ハ一年間ノ期限ヲ以テ擔保期限トナシ、此期限中ハ、工業受負人其工業ヲ補理修覆スルノ責ニ任ス可ク、此期限既ニ滿チタル後ハ、眞ノ受取ノ手續ヲ爲ス可シ

若シ施行上不良ノ箇所アル時ハ、工業受負人自費ヲ以テ、其不良ナル箇所ヲ改作スルノ責ニ任ス可シ

工業代價ノ内、金額十分ノ九迄ハ、工業施行中之ヲ受負人ニ渡スヿヲ得可シト雖モ、殘リ十分ノ一ハ、工業眞受取ノ後ニ非サレハ、決シテ之ヲ拂

ハサルヲ定則トス

工業施行ニ就テノ願及ヒ訴并ニ其訴ノ裁判官

工業受負人請求セントト欲スル事有レハ、先ツ之ヲ建築長ニ願出ツ可シ、若シ建築長其願ヲ受理セサル時ハ、更ニ之ヲ州長ニ願フ可シ

若シ官ト受負人トノ間ニ訴訟ノ起ル時ハ、工業受負人其訴狀ヲ參事院ニ出ス可シ、是レ參事院ハ、官ト受負人トノ間ニ生ジタル訴訟ヲ審判スルノ職務アルヲ以テナリ、但シ同院ノ裁決ニ服セサル時ハ、更ニ之ヲ參議院ニ控訴スルヿヲ得可シ

第二章　災禍ヲ生シ或ハ人ノ妨害ヲ釀シ或ハ人身ノ健康ヲ害ス可キ工業場

千八百十年十月十五日ノ勅命、千八百十五年一月十四日ノ勅命、千八百五十二年三月二十五日ノ勅命

同上工業場三等ノ區別及ヒ其例

工業製作自由ノ原理ハ、我カ國法ノ基礎タリト雖モ、亦之ヲ制限スル所アルハ、蓋シ已ムヲ得サルニ因ルナリ、而シテ其制限中、吾人ノ爲メ最モ重大ナル者ハ、即チ災禍ヲ生シ、或ハ人ノ妨害ヲ釀シ、或ハ人身ノ健康ヲ害ス可キ工業場ニ在リトス

工業製作ハ、其種類ニ因リテハ、是ヨリ破裂出火等ノ危難ヲ生シテ、近隣ノ安全ヲ害スル者アリ、或ハ劇音臭氣ヲ發シテ、人ノ妨害ヲ爲ス者アリ、或ハ人身ノ健康ヲ害スル者アリ、故ニ此種類ノ工業場ハ、特別ニ其許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設クルヿヲ得ス、且ツ假令一旦之ヲ設ケタルモ、始終官府ノ監督ヲ受ク可シ

但シ右ノ工業場ハ、均シク皆重劇ノ妨害ヲ生スル者ニ非ス、故ニ其類ニ從テ之ヲ三等ニ區別スルヿ左ノ如シ

第一等ノ工業場ハ、其惡臭ヲ放チ、或ハ其災害ヲ生スル故ヲ以テ、人家ニ

リ遠サク可キ者トス即チ

一 屠獸場〔是レ近隣ノ用水ヲ腐敗セシメ、或ハ疾病ヲ釀ス可キ臭氣ヲ發スルヲ以テナリ〕

一 硫酸製造所〔是レ其發氣ノ人身ノ健康ヲ害スルカ故ナリ〕

一 花火製造所〔是レ其破裂シ、又ハ火災ヲ生スルノ恐アレハナリ〕

第二等ノ工業場ハ、必スシモ人家ヨリ遠サクルヲ要セスト雖モ、近隣ノ妨害ヲ爲サス、又ハ災禍ヲ生セサル樣注意シテ事業ヲ行フ旨ヲ取調ヘタル後ニ非サレハ、之ヲ設クルヲ許サヽル者トス、即チ

一 燈火用瓦斯製造所〔是レ其臭氣ヲ發スルト、火災ノ恐アルトヲ以テナリ〕

一 砂糖製造所〔是レ其臭氣ト煙氣トニ由テ人ノ妨害ヲ釀セハナリ〕

一 鍛冶場及ヒ鉄銅器製造所〔是レ其嫌惡ス可キ響音ノ劇動ヲ發シテ時アリテハ隣人之ニ堪ルヲ能ハサレハナリ〕

第三等ノ工業場ハ、唯人ノ妨害ヲ爲スノミニシテ、毫モ危難ヲ生シ、或ハ人身ノ健康ヲ害スルヲ無キ者トス、即チ

一 麥酒製造所

一 浣衣場

一 羊毛、馬毛、鳥羽等ヲ打チ、之ヲ梳キ及ヒ之ヲ清淨ニ爲ス製作場

災禍ヲ生シ、或ハ人ノ妨害ヲ釀シ、或ハ人身ノ健康ヲ害ス可キ工業場ノ種類分ケ、及ヒ千八百六十六年十二月三十一日ノ勅命

災禍ヲ生シ、或ハ人ノ妨害ヲ釀シ、或ハ人身ノ健康ヲ害ス可キ工業場ノ表ハ、千八百十年ト、千八百十五年トノ兩次ニ之ヲ作リ、其後亦數次ノ勅

命書ヲ以テ、種々ノ工業製作ノ類ヲ右兩次ノ表ニ追加シ、又新ニ起創セル工業製作ノ如キハ、假リニ卿又ハ州長ノ命令書ヲ以テ、其種類ヲ定メタリ、而シテ更ニ其完全ナル種類分ケヲ爲セシハ、實ニ千八百六十六年ニ在リトス

凡テ災禍ヲ生シ、或ハ人ノ妨害ヲ釀シ、或ハ人身ノ健康ヲ害ス可キ、工業場中ニ編入シタル諸般ノ工業製作ノ類ハ、千八百六十六年十二月三十一日ノ勅命ニ添フタル表ニ之ヲ掲載シ、又其表ニハ、併セテ其種類ヲ定メタリ、但シ此制度ヲ設ケタル所以ハ、農商兼工部卿ヨリ帝ニ奏シタル申報書中ニ詳カナレハ、左ニ其文ヲ掲ク

工業製作ノ評議委員、大ニ諸般ノ工業製作ニ於ケル、當今ノ景況ヲ注視シテ、其近隣ノ爲メニ妨害アルヤ否ヤヲ檢査シタルニ、近年種々ノ原因ノ爲メ、工業製作ノ方法大ニ改良シ、曩キニ危難妨害アル種類中

ニ加ヘシ者ノ如キモ、今ハ既ニ其恐レナク、又ハ其恐少ナキニ至リシ者敢テ寡ナカラス、而メ之ニ反セシ、景況ニ至リシ者ノ如キハ、極メテ稀ナルヲ知リタレハ、從前既ニ確定シタル種類分ケト、假リニ定メタル種類分ケトヲ廢棄シ、之ニ代フルニ新製ノ表ヲ以テシテ、特ニ當今ノ狀態ニ於テ、眞ニ災禍ヲ生シ、或ハ人ノ妨害ヲ釀シ、或ハ人身ノ健康ヲ害ス可キ、工業製作ノミヲ其表中ニ擧ケタリ、蓋シ此新表ニハ、新ニ加入セシ者アリテ、僅カニ二三ノ種類ヲ增セシト雖モ、既ニ確定シ又ハ假定セシ種類分ケノ中ヨリ、全ク除キタル工業製作ノ種類ハ、一百種以上ニ及ヒ、又等級ヲ下ダシタル工業製作ノ種類ハ、幾ソト八十種ニ及ヒ、而メ斯ク決定ヲ爲スト雖モ、之レカ爲メ人民ノ權利ニ於テハ、一モ之ヲ害スル所ナキヿヲ得タリ、又此起草ノ制度ニ依レハ、工業製作者ノ官許ヲ乞フ可キ場合ヲ減シ、又官ノ許可ヲ受ク可キ場合ニ於

テモ其法式ヲ減シ、遷延ヲ防クノ益アリ、且ツ各等ノ工業製作ヲ掲ケテ、一表中ニ集輯シタルヲ以テ、各種ノ工作者ヲシテ一目瞭然タラシムルノ便亦將ニ鮮少ナラサル可シ（千八百六十七年一月十六日ノ官報新聞紙中ヨリ之ヲ抄出ス）

右工業場ノ區別ハ、頗ル緊要ノ「ナリトス、何トナレハ其種類ニ從テ其許可ヲ得ルノ法式、及ヒ成規ノ互ニ相異ナルヲ以テナリ

第一等ノ工業場設立許可ノ願

第一等ノ工業場設立ノ願ハ、巴里及ヒ「ゐイヌ」州ニ於テハ、警察總長之ヲ許可シ、其他ノ諸州ニ在テハ、該州ノ長之ヲ許可ス、然シテ其設立ノ許可ヲ受ケント欲スル工業製作者ハ、其願書ニ工業場設立ノ場所、及ヒ其目的タル事業ノ種類、並ニ其設立ニ由テ生ス可キ、災害防制ノ方法等ヲ明細ニ記シ、且其工業場ノ内外ノ摸樣ト、其最近ニ在ル人家ノ位置トヲ寫タル繪圖面二通ヲ其願書ニ添ヘテ、之ヲ州長ニ差出ス可シ

第一等ノ工業場設立願ニ就テノ貼附書利害ノ取調ヘ及ヒ州長ノ命令

第一等ノ工業場設立ノ願ハ、其設立ノ地ヲ去ル「、五「キロメートル」」内ニ在ル諸邑ニ貼附ヲ爲シテ之ヲ公告ス可シ、但シ之ヲ貼附スルハ、一月間ニシテ、既ニ一月ヲ超ユソハ、則チ利害取調ヘト稱スル一種ノ取調ヘニ着手シテ、其設立ニ就テノ利害ヲ檢視ス可シ

如是ク利害ノ取調ヘヲ爲スハ、其設立ノ可否ヲ審判スル基礎タル可キヲ以テ頗ル緊要ノ「トス、而シテ其取調ハ、工」業場設立ノ地ノ邑長之ヲ爲シ、巴里ニ於テハ警察官之ヲ爲ス可シ

工業場設立ノ地ニ接近シテ、其設立ノ爲メニ災禍ヲ蒙ムル可キ恐アル者ハ、其利害ノ取調ニ參ス可キノ招キヲ受ケ、口上或ハ書面ヲ以テ、各自ノ意見ヲ陳述スル「ヲ得可シ

邑長ハ自カラ其意見ヲ述ヘ、且調書ヲ作リテ、之ニ出席人ノ異存、又ハ同意ノ言ヲ記シ、又當日出席セサル者アラハ、其姓名住所ヲ記ス可シ

同上ノ調書ハ、邑長ヨリ之ヲ州長ニ送付シ、州長ハ之ヲ該郡ノ保健議會ノ議ニ付シタル後、其設立願ニ就テノ處分ヲ爲ス可シ

第二等ノ工業場設立ノ願利害ノ取調及ヒ州長ノ命令

第二等ノ工業場設立ノ調書ハ、總テ之ヲ郡長ニ出ス可ク、州ノ首地ニシテ郡長ナキ郡ニ於テハ、之ヲ州長ニ出ス可シ、但シ巴里及ヒ「セイヌ」州ニ於テハ之ヲ警察總長ニ出ス可キ者トス、而シテ其願書ニハ、工業場設立ノ場所ト其事業ノ種類トヲ詳記シ、且之ニ繪圖面ヲ添フ可シ

郡長ハ其願書ヲ邑長ニ送付シ、之ヲシテ其設立ニ就キ、其利害ノ取調ヘニ着手セシム

利害ノ取調ハ、先ツ貼附書ヲ以テ公告スルニ及ハス、又其調書ハ、邑長ヨリ之ヲ郡長ニ出シ、郡長之ニ意見書ヲ添ヘ、總テノ書類ト共ニ之ヲ州長ニ送付ス可シ、然ル上之ヲ許可スルト否ラサルトハ、特ニ州長ノ權ニ在リトス

第三等ノ工業場設立ノ願及ヒ其許可ノ式

第三等ノ工業場設立ノ願書ハ、之ヲ郡長ニ出ス可ク、州ノ首地タル郡ニ於テハ、之ヲ州長ニ出ス可シ、但シ巴里及ヒ「セイヌ」州ニ在テハ、之ヲ警察總長ニ出ス可シ、然ルトキ其許可ヲ爲スハ、右ノ區別ニ從ヒ郡長州長若クハ警察總長ニ在リトス

第三等ノ工業場設立ノ願ニ就キテハ、預メ利害ノ調査ヲ爲スニ及ハス、又貼附書ヲ以テ公告ヲ爲スニ及ハス、郡長ハ唯邑長及ヒ該地ノ警察官ノ意見ヲ聽クノミニテ其許否ヲ決ス可シ

工業場設立ノ願ヲ斥ラレタル工業製作者ノ訴

工業場ノ種類如何ニ關セス、凡テ其設立ノ願ヲ斥ケラレ、其許可ヲ得サル時ハ、更ニ之ヲ訴フルヿヲ得可ク、故ニ工業製作者、若シ其當管官吏ノ由緣ナク許可ヲ與ヘザリシト思量スル時ハ、之ヲ訴ヘテ其決ニ抗スルヿヲ得可シ、但シ第一等第二等ノ工業場ニ係ル時ハ、其願ヲ斥ケタル州長ノ指令書送達ノ日ヨリ三月内ニ、之ヲ參議院ニ告訴ス可ク、若シ第三等ノ工業場ニ係ル時ハ、之ヲ參事院ニ告訴ス可シ

工業場設立ニ就キ異存ノ申立及ヒ參事院ノ審判

工業場設立ノ許可ヲ受ケント欲スル工業製作者ノ履行ス可キ法式ハ、前文既ニ之ヲ說了シタルヲ以テ、後文其工業場ノ近傍ニ在ルカ爲メ害ヲ受ク可キ旨ヲ申立テ、其工業場ノ設立ニ付キ、故障ヲ爲サントスル者ノ履行ス可キ諸件ヲ論述セントス

工業場設立ノ事ニ付キ異存ノ申立ヲ爲サントト欲スル者ハ、先ツ其利害

ノ取調アリシ時、其旨ヲ申立テ之ヲ調書ニ記セシム可シ、然レトモ若シ之ヲ記セシメサル時ハ、直ニ州長ニ宛テ其異存書ヲ差出スヘシ

既ニ工業場設立ノ許可アリシ時ハ、嘗テ利害取調ノ時異存ヲ申立サル者ト雖モ、其許可ノ取消ヲ參事院ニ訴フルヿヲ得可シ、然シテ之ヲ訴フルニハ其期限ノ定リナシ、本人代書人、若シハ名代人ノ鈐印シタル願書ヲ參事院ノ書記局ニ出ス可シ、又此訴ニ就テノ參事院ノ裁決ハ、更ニ之ヲ參議院ニ上告スルヲ得可シ

右工業場設立ニ就キ、故障ヲ申立ルヲ得可キ原由ハ、只其工業場ノ性質ニ依レル原由、即チ其危險ナル事、人身ノ健康ヲ害スル事、及ヒ近傍ノ妨害ヲ生スル事ノ三者ニ過キサル可シ、故ニ其他ノ原由ニ基キタル異存ノ申立ハ、何等ノ事故タリトモ其効アルヿ無シ、例ヘハ自カラ此類ノ建造物ヲ所有スル者ノ、更ニ他人ノ其近傍ニ於テ、新タニ其建造物ヲ設立ス

ル爲メ已レノ利ヲ失ハンヿヲ恐レ、故障ヲ申立ル如キハ、果シテ其採用ナキヿ敢テ疑ヲ容レス

工業場設立ノ許可ヲ與フル成規工業場ノ取締及ヒ罰則

工業場設立ノ許可ハ、工業製作ニ因リ生ス可キ危難妨害ヲ減少シ、又ハ之ヲ消除スル爲メニ規定セシ一定ノ成規ヲ踐ムニ非サレハ、之ヲ與フ可ラサル者トス、然シテ其成規ハ、工業場ノ種類ニ從ヒ各〻異ナリ、例ヘハ第一等ノ工業場ニ係ル時ハ、人家ヲ去ルヿ若干ノ距離アルニ非サレハ之ヲ許可セス、又其距離ハ、其地ノ景況ニ從テ各〻異ナルカ如シ

總テ工業製作場ヲ設立スルニハ、必ス火焚所高キ煙突、汚物ヲ流ス爲メノ下水、完全ナル圍繞等ヲ設ク可キヲ通則トス

第一等ノ工業場ハ、假令一旦其許可ヲ與ヘタリト雖モ、若シ人ノ健康ヲ害シ、或ハ耕作ノ業ヲ妨ケ、或ハ一般ノ公益ヲ害スル如キ、一大妨害ヲ生

スル時ハ、參議院ノ議ニ付シタル勅命ヲ以テ之ヲ禁スルヿヲ得可シ、但シ第二等第三等ノ工業場ハ此例ニ非ス

工業場ハ、一旦許可ヲ受ケタル後モ尚ホ官府ノ監督ヲ受ク可キ者トス、蓋シ其監督ノ主旨ハ、其許可ヲ得ルニ付キ必要ト爲セシ、一定ノ成規ヲ履行スルヤ否ヤヲ檢査シ、且營業中不意ノ災害ヲ生セシメサルニ在リトス

工業製作者ノ官許ヲ受ケスシテ工業場ヲ設立セシ時、又ハ其許可ノ指令書ニ定メシ規則ニ背キタル時ハ、州長其工業場ヲ閉ツ可キ旨ヲ申渡スヲ得可シ

若シ工業場ヲ他ノ地ニ移シ、若シハ六月間其營業ヲ停止シタル時ハ、既ニ許可ヲ得タル者ト雖モ、其効ヲ失フ可シ、故ニ此二箇ノ場合ニ於テハ、更ニ復タ其許可ヲ受ク可キ者トス

右ノ成規ニ循フ可キ工業場ヲ許可ナクシテ設立シ、若クハ許可ノ指令書ニ定メシ條件ニ背キシ者ハ、違警罪裁判所ニ其罪ヲ訴ヘラレ、違警ノ罪トシテ罰金ヲ科セラル可ク、若シ再犯ニ係ル者ハ、禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

工業場ニ近接セシ地ノ人民ヨリ爲ス所ノ損失償還ノ訴及ヒ其裁判管轄

人ノ妨害ヲ釀ス可キ工業場ヲ設立シタル工業製作者ハ、官府ノ許可ヲ得タルノミニ依リテ、爾余ノ各人ヨリ諸般ノ難詰ヲ受クルヲ免レタリト思フ可カラサルカ故ニ、亦預メ勉メテ近隣ノ妨害ヲ生セサルニ注意ス可シ、何トナレハ假令一旦官ノ許可ヲ得タリト雖モ、工業場ヲ用フル爲メ、蒸氣或ハ臭氣等ヲ發スルニ因リ、其工業場ニ接近セル人民、其地ニ住居スルヲ厭ヒ、又ハ住居スルヲ得サルカ、若クハ湿氣或ハ劇響ヲ生

スルニ因リ、近地ノ者ヲ困ムルカ如キ、重大ノ妨害ヲ起セシ時ハ、近地ノ人民之ニ對シテ故障ヲ述フルノ權利ヲ行ヒ得可ケレハナリ、但シ如此キ場合ニ於テハ、其近地ノ財産所有者ハ、其工業場ノ近地ニ在ルカ爲メ、己レカ財産ノ價格ヲ損シタルヲ以テ、其損失ノ償還ヲ求ムルヿヲ得ヘシ

同上ノ損失償還ノ訴ハ、司法官ノ審判所轄ス可キ者ナルカ故ニ、之ヲ初告裁判所ニ訴フ可シ

佛國商工法鑑卷之一　終

第三章　政府ノ爲メ設ケシ專賣ノ權

專賣權ノ義意及ヒ此權ヲ設ケタル主旨

專賣ノ權トハ、道理上ヨリ之ヲ觀レハ、元來衆人ニ屬ス可キ商工二業ノ權利ヲ、一人或ハ數人ニテ專有スルモノヲ云フナリ、故ニ此權ハ、商業自由ノ原則ニ對スレハ、全ク格別ノモノニシテ、之ヲ設ケタル主旨ノ如何ヲ問ヘハ、唯々一般公同ノ利益ニ基クト答フルニ過キサルノミ

故ニ政府ハ特別ニ或ル物品ヲ製造發賣シ、又ハ或ル事業ヲ行フノ專權ヲ有セリ、蓋シ此專權ハ、悉皆同一ノ性質ニ屬スルニ非ス、依テ之ヲ分テ甲乙ノ二者ト爲スヿ左ノ如シ

甲ハ全ク收稅ニノミ關涉シテ、公費ヲ補給スル主旨ニ基キテ設ケタル者トス、今之ヲ擧レハ、煙草印紙及ヒ「骨牌」紙ヲ製造シ、及ヒ之ヲ發賣スル專權ノ如キ即チ是レナリ

乙ハ警察法及ヒ公ケノ靖寧ニ關係スル者アリ、又ハ或事業ヲ精密方正ナラシム可キ要旨ニ基キタル者アリ、而メ此專賣ノ權タルヤ、亦固ヨリ多少政府ノ歲入ヲ補足ス可キニ因リ、收稅ノ性質アルカ如シト雖モ、是レ畢竟附帶ノ性質タルニ過キスシテ、此專權ヲ設ケタル主旨ニハ非サルナリ、今之ヲ擧レハ、貨幣ノ製造、火藥ノ製造、及ヒ其發賣郵便電信ノ如キ即チ是レナリ

以上揚クル處ノ諸件ハ、逐次左ニ之ヲ說述ス可シ

第一款　煙草

煙草專賣ノ權及ヒ此權ヲ設クルノ主要

政府ニ屬スル專賣權中、特ニ煙草專賣ノ權ヲ以テ重要ノ者ト爲ス所以ハ、蓋シ煙草ノ賣高著大ナルヲ以テ之ヲ証ス可ク、試ニ之ヲ擧レハ、千八百七十一年間ノ賣高ハ、現ニ二億一千七百三十八萬五千「フランク」ニ及ヘリ

外國ノ煙草ヲ輸入シ、及ヒ內國ニ煙草ヲ作ルハ、共ニ政府ノ算計ノ爲メニ非サレハ之ヲ爲スヲ許サス、且內產外入ノ別ナク之ヲ製造シ、若クハ之ヲ發賣スルニ於テモ亦然リトス、而メ煙草作出ノ取締、煙草ノ製造及ヒ其發賣ニ關スル諸事ハ、皆間稅司ノ管掌スル所ナリ

煙草ノ作出及ヒ煙草作出人ノ義務

佛國ニ於テ煙草ヲ作出スルハ、特ニ勅命ヲ以テ指定シタル州ニ限リ、其他ノ諸州ハ一般ニ之ヲ禁シタリ、但シ自己ノ庭園、若クハ圍繞內ニ於テ二十株以下ノ煙草ヲ作ルハ此限ニ非ス

其指定シタル州内ニ於テ、煙草ヲ作ラント欲スル者ハ、其由ヲ官ニ届ケ其許可ヲ受ク、可シ又其届ヲ爲スニハ、煙草ヲ作ル可キ土地ノ廣狹（即チ坪數）ヲ定メテ之ヲ申立ツ可シ、然ル時ハ本州ノ長ノ上席シタル特設委員ヨリ之ヲ許可ス可シ

例年大藏卿ハ、煙草ヲ作ル可キ土地ノ坪數ト、官ニ納ム可キ煙草ノ分量ト、翌年收納ス可キ烟草各種ノ代價トヲ定ム可シ、然ル上之ヲ基礎トシテ、煙草作出ノ許可ヲ與フ可シ

右ノ許可ヲ受ケタル煙草作出人ハ、其收納ノ全部ヲ官ニ納ム可シ、若シ不足シタル時ハ、其量ニ應シ代價ヲ以テ之ヲ納ム可シ、又水火等ノ災害ニ遇ヒ、其收納ス可キ煙草ノ幾分ヲ失フタルハ、直ニ其由ヲ官ニ告ケ其實ヲ証明セシム可シ、然ラサレハ其損失ノ分ヲ償フノ責ニ任ス可シ

煙草作出ニ就テハ、特定ノ官吏之レカ監督ヲ爲シ、其作出人ノ免許狀ニ

指定シタル境界外ニ煙草ヲ作ラサルヲ檢視シ、煙草ノ株數、葉數及ヒ其不足分ヲ査定シ、且其收納セシ煙草ノ全部ヲ納メタルヤ否ヤヲ取調フ可シ、故ニ此官吏ノ任ヲ概言スレハ、官ヲシテ詐欺ノ爲メ損害ヲ受ケサラシムルニ在リトス

其他詐欺ヲ爲ス者ハ、之ヲ嚴罰ニ處ス可シ、故ニ煙草作出人若シ其免許狀ニ指定セシ坪數ニ過クルヿ五分一以上ノ地ニ之ヲ作リ、若クハ煙草ノ株數規則上ニ許セシ數ノ五分一以上ニ過キタル時ハ、其罰金ヲ科セラレ且ツ將來烟草ヲ作ルノ禁ヲ受ク可シ

收納セシ煙草ハ、悉皆之ヲ官ニ納メ、作出人私ニ之ヲ貯フルヿヲ許サス、又煙草ノ莖及ヒ根ハ直ニ之ヲ拔キ棄ツ可シ

煙草作出人ハ、特定ノ規則ヲ踐ミ、其許可ヲ得タルニ於テハ、政府ノ烟草製造司ノ用ニ供スルノ外、別ニ外國輸出ノ爲ニ煙草ヲ作ルヿヲ得可シ、

但シ然ル時ハ、內國ノ製造用ニ供スル時ト同一ノ監督ヲ受ケ、又其收納セシ煙草ハ、翌年八月一日前ニ、悉皆之ヲ外國ニ輸出ス可シ

煙草ノ製造及ヒ其發賣

煙草ノ製造ハ、國費ヲ以テ設立シタル製造所ニ於テ之ヲ爲シ、間稅司所屬ノ官吏之ヲ指揮ス、而シテ此製造所ハ、各都會特ニ巴里「リヨン」及ヒ「ナント」ニ在リテ、之ヲ國立煙草製造所ト名ク

煙草ノ發賣ハ、煙草賣捌所ニ於テ之ヲ爲シ、其賣捌所ノ人員ハ、官ノ選任スル所ニシテ、常ニ官ヨリ嚴重ナル監督ヲ受ク可シ

煙草賣捌人ハ、間稅司ヨリ煙草ヽ拂下ケ、勅命ヲ以テ定メタル代價ニテ之ヲ衆人ニ賣捌ク可シ

又詐欺ヲ以テ政府專賣ノ權ヲ害セシメサル爲メ、嚴密ナル諸規則ヲ設ケタリ、故ニ政府ニ於テ買入ルヽノ外、外國產ノ煙草ヲ佛國ニ輸入スル

ヲ禁シ、又官許ヲ受ケスシテ煙草ヲ運輸スルヲ禁シ、若シ此規則ニ背ク時ハ、運送用ノ器具(車及ヒ其他ノ物件)ヲ沒入シ、且ツ罰金ヲ科ス可シ

許可ヲ得スシテ煙草ヲ作リ、若クハ許可ヲ得シ製造所、及ヒ賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ製シ、若クハ之ヲ賣ル者ハ、違警ノ罪ヲ以テ論シ、巨數ノ罰金ヲ科シ、其器具及ヒ煙草ハ之ヲ官ニ沒收ス

第二款　印紙

印紙ノ義意

印紙トハ、政府ノ名ヲ以テ或ル摸形ヲ印出シタル所ノ紙ニシテ、此紙ハ一定ノ寸法ヲ以テ官府ニテ之ヲ製出シ、特ニ許可ヲ得タル賣捌人ヨリ之ヲ人民ニ賣渡スナリ

寸法ニ從テ其價ヲ異ニスル印紙及ヒ金額ニ因リテ其高ヲ增ス可キ印紙

印紙ノ價ハ、其寸法ニ從テ六十「サンチーム」ヨリ三「フランク」六十「サンチーム」迄ノ差アリ、故ニ之ヲ寸法ニ從テ其價ヲ異ニスル印紙ト云フ

右ノ外金額ニ因テ其高ヲ增ス可キ印紙アリ、此印紙ハ「ビユー、タ、オルドル」爲替手形、及ヒ諸會社ノ株式証券ヲ記スルニ用フ可キ者ニシテ、之ヲ名ケテ金額ニ從ヒ其高ヲ增ス可キ印紙ト言フ、而メ其所以ハ証券面ノ金額ニ從ヒ、其稅（紙稅）即チ印ノ多寡ヲ定ムルヲ以テナリ

印紙ヲ用フルノ規則及ヒ罰則

印紙ハ、契約ノ証書又ハ證據ト爲ス可キ書類ヲ記スルニ之ヲ用フ可シ」

印紙ヲ用フル規則ニ背キタルノ罰ハ、唯罰金ヲ科スルニ在リテ、若シ印紙ヲ用ヒサル書類ヲ差出ス時ハ、相當ノ印紙稅ノ外ニ更ニ其罰金ヲ科スルナリ

印紙ニ非サル紙ニ記シタル契約書ト雖モ、其効ヲ失スルニ非ス、是レ印

紙ヲ用フルノ規則ハ、專ラ收稅ノ主旨ニ基キ設ケタル者ニシテ、証書ノ効ノ有無即チ其証書ノ法律ニ適シタルヤ否ニ差響ナキヲ以テナリ

然レトモ爲替手形及ヒ「ビユー、タ、オルドル」ノ如キハ、全ク特別ナリトス、故ニ印紙ヲ用フルノ規則ニ背キシ時ハ、右証書ノ効ノ有無ニ就キ重大ノ差響アリ、但シ此事ハ後文別ニ之ヲ論セントス

印紙ノ製造及ヒ其賣捌方

印紙ノ製造及ヒ其賣捌方、并ニ收稅及ヒ罰金ノ取立方ハ、大藏省ノ管屬タル記錄稅兼公有地管理司ノ任ニ在リトス

千八百七十一年間ノ印紙稅ノ收入高ハ、七千四百九十九萬九千「フランク」ナリ

第三款　骨牌紙

骨牌紙ノ製造及ヒ其發賣骨牌製造人及ヒ其小賣人ノ義

骨牌ハ、間稅司ノ免許狀ヲ有シタル者ニ非サレハ、之ヲ製スルヿヲ得ス、且其製造人ハ、免許稅ヲ納ム可ク、又其掛リ官吏ノ監督ヲ受ク可シ

普通ノ骨牌ハ、官府ヨリ供給スル所ノ紙ニシテ、其鑒記ヲ印出シタル者ヲ用フルニ非サレハ、之ヲ製スルヿヲ得ス、然シテ此骨牌用紙ハ、大藏卿ノ規定シタル代價ヲ出シテ之ヲ求ム可ク、且其製造稅ハ、製出シタル骨牌ノ各葉毎ニ之ヲ納ム可シ

若シ製造人其官府ヨリ受取リタル用紙ノ全部ヲ既ニ用ヒ盡クシ、又ハ其全部ノ現存スル証ヲ立ツルヲ得サル時ハ、其不足セシ用紙ヲ骨牌製造ニ用ヒシ時、其當然納ム可キ稅ノ二倍ヲ科セラル可シ

骨牌ノ發賣モ、亦其掛リ官署ノ免許ヲ得タル商人ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

外國製ノ骨牌ハ、之ヲ佛國ニ輸入スルヲ禁ス

右ノ諸規則ニ背ク者アル時ハ、罰金ヲ科シ、且詐欺ヲ以テ製造發賣シ、若クハ外國ヨリ輸入シタル骨牌ヲ官ニ沒入シ、又時アリテハ其犯人ヲ禁錮ノ刑ニ處ス可シ

第四款　火藥

各種火藥ノ製造及ヒ其發賣

若シ人民ヲシテ勝手ニ火藥ヲ製造發賣シ、及ヒ之ヲ貯蓄スルノ自由ヲ得セシメタランニハ、公ケノ治安ヲ妨害ス可キヿ是レ人々ノ容易ニ了解シ得ル所ニシテ、火藥ノ製造及ヒ發賣ノ專權ヲ政府ニ歸セシ所以ノ如キハ固ヨリ其辨ヲ待タスシテ瞭然タリ

火藥ノ製造ハ、政府ノ火藥製造所ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

火藥ハ、之ヲ分テ三種トス、曰ク軍用火藥、曰ク獵用火藥、曰ク礦用火藥是

レナリ

軍用火藥ノ製造ハ、陸軍省ノ權内ニ在リテ、獵用火藥及ヒ礦用火藥ノ製造及ヒ發賣ハ、大藏省ノ權内ニ在リトス

軍用火藥ヲ發賣シ、若クハ之ヲ貯蓄スルハ禁制タリ、然レトモ航海者ノ船用ニ供シ、又ハ烽火製造人ノ業用ニ供スル爲メ、之ヲ買入ルヽハ此限ニ非ス

獵用火藥ト礦用火藥ハ、間稅司ヨリ撰ミタル小賣商人ナシテ、官府ヨリ規定シタル代價ヲ以テ之ヲ發賣セシム

平民ハ二「キロガラム」以上ノ火藥ヲ貯蓄スルヿヲ得ス、若シ此規則ニ背ク者アレハ、之ヲ懲治裁判所ニ呼出シテ、二年以下ノ禁錮ニ處シ、且ツ多數ノ罰金ヲ科ス可シ

千八百七十一年間ノ火藥ノ賣高ハ、八百八十九萬二千「フランク」ナリ

第五款　貨幣

貨幣製造ニ政府ノ管預スル事

貨幣ナシテ其本然ノ任ヲ充タサシメ、以テ品物交換ノ一器具タラシメンニハ、其價格ノ的實ニシテ、一見シテ之ヲ見分ケ得ルヲ緊要トス

然ルニ若シ貨幣ノ製造自由ニシテ、人々競テ之ヲ爲スカ如キニ至ラハ、能ク右ノ要件ニ達スルヲ得可キニ非ス、是ヲ以テ政府其法ヲ設ケテ之ヲ保護スルニ非サレハ、貨幣ノ流通ニ缺ク可ラサル衆人ノ信任ヲ失フニ至ル可シ、是レ即チ政府ノ貨幣製造ニ管預スル所以ナリ

造幣場及ヒ造幣委員

貨幣ハ、諸都府ニ設立シタル一種特別ノ製作場ニ於テ之ヲ製造シ、其製作場ヲ名ケテ造幣場ト云フ

造幣場ニハ、各々長官一名ト貨幣檢査官トヲ置ケリ、而シテ各造幣場ノ

長官及ヒ副長官ハ、勅命ヲ以テ之ヲ任シ、其以下ノ屬官ハ、大藏卿之ヲ任ス

此諸官吏ノ職掌ハ、貨幣ノ重量ヲ判定シ、其金量及ヒ製造方ノ定規ニ適シタルヤ否ヤヲ檢査シ、各造幣場内ノ事業ヲ監督シ、且金銀ニ管スル保証法律ノ施行ヲ監視スルニ在リトス

造幣場ハ何レモ大藏省ノ管轄スル所ナリ

貨幣ノ贋造及ヒ其罰則

通用ノ貨幣ヲ贋造シ、又ハ之ヲ變造スル者ハ、重罪ノ犯ト爲シ、其金貨若クハ銀貨ニ係ルモノハ、之ヲ無期ノ徒刑ニ處シ、銅貨若クハ「ビヨン」(銀ノ少シク混セシ銅ヲ云フ)貨ニ係ル者ハ、之ヲ有期ノ徒刑ニ處ス

且金質ニ付キ人ヲ欺クノ目的ヲ以テ貨幣ニ着色スルモノモ亦法律ノ禁スル所ニシテ、之ヲ罰スルニハ懲治ノ刑(即チ輕罪ノ刑)ヲ以テシ、六月以上三

年以下ノ禁錮ニ處ス

第六欵　郵便

郵便事業ニ管スル制規

政府ニ有スルコ書信遞送ノ專權ヲ以テシタルハ、往復文書ノ機密ヲ洩サヽルヿト、其送達ノ日限ヲ整正セシムルヿトヲ要スルニ在リ

斯ク重要ナ事務ヲ執行スルハ、大藏省ノ所屬タル郵便司ノ管スル所ニシテ、其本局(即チ巴里ニ在ルモノ)ニハ長官一名ト其屬官數名アリ、然シテ其各州ノ支局ニハ亦各其局務ヲ取扱フ局長一名ヲ置キ、又其支局ノ分局ニ於テハ、其地方ノ事務ヲ取扱フ爲ニ郵便物受取役一名ヲ置ク

郵便局ハ、書簡、印刷物、商業上ノ書類、及ヒ小形輕量ノ見本物ヲ遞送シ、且特定ノ成規ニ從テ、金銀及ヒ証劵ノ遞送ヲ爲スヿヲ掌ル

何人ニ限ラス郵便ニ非ル方法ヲ以テ自カラ文書ヲ送達シ、又ハ之ヲ送

達セシムルヿヲ禁止ス、是レ蓋シ政府ノ專權ヲ保護スル爲メナリ

若シ此禁ヲ犯ス者アレハ、百五十「フランク」以上、三百「フランク」以下ノ罰金ヲ科ス

書簡稅及ヒ郵便稅ノ拂方

前文ニ揭ケタル諸物ヲ郵便ヲ以テ遞送スルニ付テハ、各々皆其郵便稅ヲ課ス、但シ書簡ニ就テハ、其重量ニ從テ其稅ヲ異ニシ、又差出人ヨリ之ヲ拂フト請取人ヨリ之ヲ拂フトニ依テ其稅ヲ異ニス（但シ差出人ヨリ其稅ヲ拂フタル書簡ヲ郵稅拂濟ノ書簡ト云フ）

重量十「ガラム」（但シ巴里府內ニ往復スル文書ニ就テハ十五「ガラム」）以下ノ書簡ヲ同一ノ郵便分局區內ニ住スル人ニ送リ、其受取人ヨリ郵便稅ヲ拂フ可キ時（即チ郵稅先拂ノ書簡ナル時）ハ、其稅ヲ二十五「サンチーム」トシ、甲ノ郵便區ヨリ乙ノ郵便區ニ送ル可キ書簡ナレハ、其稅ヲ四十「サンチーム」トス、但シ十「ガラム」（又巴里府內ナレハ十五「ガラム」）以上ノ書簡ハ、其重量ニ準シテ其稅ヲ增ス可シ

同上ノ場合ニ於ケル郵稅拂濟ノ書簡ニ就テハ、其稅ヲ十五「サンチーム」ト二十五「サンチーム」トニ別ツ、但シ郵稅拂濟トハ、郵便切手ヲ書簡ニ貼付スルニ在リ

郵便切手ハ、官府ニテ之ヲ製シ、其掛リ官吏ヨリ之ヲ人民ニ拂出ス者ニシテ、其代價各々異ナリ、其最小ノ切手ハ、一「サンチーム」ニシテ、最大ノ切手ハ、從來八十「サンチーム」ナリシカ、輓近ニ至リ官府更ニ高價ノ印紙ヲ製造シテ、五「フランク」ニ至ル者アリ

書簡ノ屆ケ先キ又ハ其重量ニ就キ、不足ノ郵便切手ヲ貼付シタル書簡ハ、之ヲ郵便稅未濟ノ書簡ト同一ニ看做シテ其稅ヲ算シ、差出人ノ貼付シタル切手ノ代價ヲ引去リ、其不足ノ分ハ請取人ヲシテ之ヲ拂ハシム可シ、例ヘハ差出人二十五「サンチーム」ノ郵便切手ヲ貼付ス可キニ、十五

「サンチーム」ノ切手ヲ貼付シタル時ノ如キハ、請取人ヨリ猶ホ二十五「サンチーム」ノ郵税ヲ拂フ可キカ如シ、是レ郵便税未濟ノ書簡ハ、實ニ四十「サンチーム」ノ税ヲ拂フ可キヲ以テナリ

一旦貼用セシ郵便切手ヲ再ヒ用ヒタル者アレハ、五十「フランク」以上、千「フランク」以下ノ罰金ヲ科シ、其再犯以上ハ、之ヲ禁錮ノ刑ニ處ス

印刷物、商業上ノ書類及ヒ小形輕量ノ見本物

印刷物、商業上ノ書類及ヒ小形輕量ノ見本物ノ郵便税ハ、其重量ヲ以テ之ヲ較レハ、書簡税ヨリ遙ニ低下ナル者トス、但シ此等ノ諸物ヲ低税ニテ郵送セントト欲スル者ハ、預メ其税ヲ納ム可シ

斯ク税ノ低下ナルカ爲ニ詐僞ヲ爲ス者アルヲ恐レ、印刷物、商業書類及ヒ見本物ノ中ニハ、一切書簡ヲ插入スルヲ禁シ、若シ此禁ニ背ク者アレハ、百五十「フランク」以下、三百「フランク」以上ノ罰金ヲ科ス

別段仕立ノ書簡金高ヲ明記セシ手形入ノ書簡及ヒ金銀貨ノ遞送

郵便事務ニ關スル事件ヲ論シ了ル爲メ、今茲ニ金銀貨及ヒ金銀証券ノ遞送ニ管スル條目ヲ記セントス

別段仕立ノ書簡トハ、証券又ハ手形類ヲ封入シタル書簡ヲ言フ、而シテ此書簡ハ增税ヲ拂フヘキ者トス

此類ノ書簡ハ、郵便税ヲ拂ヒ濟シ、且ツ別段封印ヲ爲シタル上ニテ、差出人ヨリ之ヲ郵便局ニ差出ス可シ、但シ郵便局ニ、其書簡ノ請取書ヲ差出人ニ渡ス可シ、又其請取人ハ、請取書ヲ郵便局ニ差出シ引替ニ爲シテ之ヲ請取ル可シ

右書簡紛失ノ場合ニ於テハ、郵便局五十「フランク」ノ高ニ至ル迄其責ニ任ス可シ

銀行ノ手形及ヒ其他持主ニ金高ヲ拂フ可キ手形類ニ就テハ、特別ノ差立法アリ

銀行ノ手形ヲ郵送セントスル者ハ、其書簡ヲ別段仕立ト爲シテ其税ヲ拂ヒ、且其封皮面ニ手形ノ金高ヲ明記ス可シ、但シ其金高ハ二千「フランク」ヲ超ユ可ラス

手形ヲ封入シタル書簡ヲ紛失シタル時ハ、郵便局其全額ノ責ニ任ス可シ、然レトモ抗拒ス可カラサル災害ニ遭ヒ、例ヘハ暴風ニテ破船シタル時ノ如キハ此限ニ非ス

右ノ手形ヲ封入シタル書簡差出人ハ、定税五十「サンチーム」ノ外、其手形ノ金高ニ應シ、百「フランク」又ハ其端數毎ニ二十「サンチーム」ノ比例税ヲ拂フ可シ

書簡中ニ寶石及ヒ金銀細工物ヲ封入シ、或ハ別段仕立ノ書簡ニ非サル

者ニ銀行ノ手形及ヒ之ニ均シキ手形ヲ封入スルハ禁止タリ、若シ之ニ背ク者アレハ五十「フランク」以上五百「フランク」以下ノ罰金ヲ科ス

又郵便局ハ正金ノ遞送ヲ爲スベシ、但シ此場合ニ於テハ、郵便局其金ヲ請取リ、其請取手形ヲ差出人ニ渡シ、差出人之ヲ請取人ニ送レハ、請取人之ヲ佛國各處ノ郵便局ニ差出シテ其金ヲ請取ル可シ

正金遞送税ハ、其金高ノ百ニ二ノ割合ナリトス

通信條約

諸外國ト通信ヲ交換シ、其遞送税ヲ定ムルニハ、通信條約ト名クル特別ノ條約ヲ以テス、然シテ其條約中ニハ、金銀貨ヲ佛國ヨリ外國ニ遞送シ、或ハ外國ヨリ佛國ニ遞送スル規則ヲ定ムル者アリ

郵便局ノ收入

千八百七十一年郵便局ノ收入ハ、八千九百八十〇萬一千「フランク」ニシ

テ、其内八千七百九十二萬八千「フランク」ヲ書簡税トシ、一百六十八萬三千「フランク」ヲ金銀貨ノ遞送税トス

千八百七十一年ニ議定シタル法律ヲ以テ郵便税ヲ増加シタリト雖モ、右ノ算額ヲ以テ文書往復ノ盛ナルヲ證スルニ足レリ

第七欵　電信

私用電信ノ「及ヒ電信税

電信線ハ、政府若クハ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ設クルヿヲ得ス、且ツ電信線ノ取扱ヲ爲スハ、專ラ政府ノ特權ニ在リトス

電信ハ、啻ニ政府ノ用ニ供スルノミナラス、人民モ亦官府ニ依頼スレハ、此法ニ由リテ通信スルヿヲ得可シ、然レモ官府ハ、人民ノ電信ニ依リ私用ヲ達スルカ爲メ其責ニ任スルヿナシ

電信局ハ、内務省ノ管轄スル所ナリ

電信ヲ頼マント欲スル者ハ、書信ヲ認メ且自己ノ調印ヲ爲シテ之ヲ電信局ニ差出ス可シ

又電信ヲ通スルニハ、其語數ニ應シテ電信料ヲ出ス可シ、其電信料ハ、一語以上二十語以下ニシテ同州内ニ達ス可キ者ナレハ、五十「サンチーム」トシ、他州ニ達ス可キ者ナレハ、二「フランク」トシ、巴里府内ニ通ス可キ者ナレハ、五十「サンチーム」トス、但シ二十語以上ハ、十語又ハ其端數毎ニ定税ノ半額ヲ増ス可キ者トス

數字（カズ）ヲ以テ記シタル書信、及ヒ「ナウトグラーフ」ト名ケシ電信器械ニテ通スル書信ニ付テノ電信料ノ如キハ、特ニ其定則アリ

佛國ヨリ外國ニ通シ、若クハ外國ヨリ佛國ニ通スル電信ノ規則及ヒ其税則ハ、交際條約ヲ以テ之ヲ定ム

私用電信ノ進歩

人民ニ與フルニ電信ヲ私用ニ供スルノ權ヲ以テセシハ、千八百五十一年ニ在リテ、此時ヨリ以來電信ノ往復著ク增加シ、且ツ更ニ電信局ヲ增置シ、隨テ其電信料ノ低下トナリシニ因リ、容易ク電信ヲ通スルノ便ヲ得タリ、然レトモ私用電信ハ、郵便ノ如ク大藏省ノ歲入ヲ補フ者ニアラス

千八百五十一年ニ於テハ、電信ニ由リテ往復セシ私用書信ノ數凡ソ九千ナリシカ、當今ニ於テハ少クモ二百萬乃至三百萬ニ下ラス

私用電信稅ノ收入ハ、其初メ僅少ナリシカ、當今ニ於テハ六百萬「フランク」ヲ超ユルニ至レリ

第四章　特殊ノ工業製作ヲ行フニ管スル規則

特殊ノ工業製作ノ區別

本章中ニ於テ論述ス可キ工業製作ハ、之ヲ行フノ權、專ラ政府ニ在リテ、

人民之ヲ行フヿヲ禁シタル所ノ者ニ非ス、唯一定ノ成規ヲ履行ス可キノミニシテ、其中或ハ政府ノ許可ヲ得サレハ、之ヲ爲スヿヲ得可カラサル者アリ、例ヘハ武器製作、印刷及ヒ書肆ノ業ノ如キ即チ是レナリ

又其他ノ工業製作ハ、特別ナル規則ニ循ヒ、之ヲ爲シ得可キモノアリ

例ヘハ金銀ノ細工ヲ爲シ及ヒ其細工物ヲ賣拂フカ如キ即チ是レナリ

第一款　武器製作ノ業

武器製作ニ必要ナル許可

武器トハ、佛國或ハ外國兵隊ノ用ニ供シ、若クハ軍用ニ適シタリト認メラレタル器具ヲ云フ

內國供用ノ武器ノ製作ハ、官立武器製作所ニ限ルヲ以テ其定則ト爲スト雖モ、外國ニ輸出スル武器ハ、陸軍卿ノ許可ヲ得レハ、何人ニ限ラス之ヲ製作シ、若クハ之ヲ賣拂フヿヲ得可シ

許可ヲ得タル武器製作人ハ、官費ヲ以テ佛國兵隊供用ノ爲メ、陸軍卿ヨリ命シタル註文ノ武器ヲ製作スルヿヲ得可シ

許可ヲ得スシテ武器ヲ製作シ、若クハ之ヲ賣拂フ者ハ、十六「フランク」以上千「フランク」以下ノ罰金ヲ科セラレ、一月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラル可ク、且其法ニ背キテ製作シ、若クハ賣拂フタル武器ハ、之ヲ官ニ沒入ス可シ

右ノ如キ武器ヲ所有スル者モ、亦罰金ヲ科セラレ且禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二款　印刷及ヒ書肆ノ業

印刷及ヒ書肆ノ業ニ關スル特別ノ法則

世ノ風俗又ハ治安ニ害アル書ヲ印刷シ、若クハ之ヲ發賣シ、是レカ爲メ巨害ヲ生スルヿ有ルカ故ニ、印刷及ヒ書肆ノ業ニ就テハ、嚴重ナル規則

ヲ設クルヲ以テ緊要ナリトス

印刷人ノ定員及ヒ其免許狀ノヿ

印刷人ノ員數ハ、每州之ヲ限定シ、巴里ニ於テハ、其人員ヲ八十五名ト定ム

印刷ノ業ヲ營マント欲スル者ハ、內務卿ノ免許狀ヲ受ク可ク、其免許狀ハ、願人ノ品行及ヒ能力ヲ取調タル上ニテ與フ可キ者トス

免許狀ハ、本人一身ニ止リテ、之ヲ人ニ讓渡シ若クハ之ヲ貸渡スヿヲ得ス、又其免許狀ハ、之ヲ受ケタル地方外ニ通用ス可ラサル者トス

自己ノ營業ニ關スル法律、及ヒ規則ヲ犯シタル印刷人ノ罰ハ、其免許狀ヲ取上ケ且停業ヲ申渡スコ在リトス

又免許狀ヲ所持セスシテ印刷ノ業ヲ爲シタル者ハ、一萬「フランク」ノ罰金ヲ科セラレ、且ツ六ケ月ノ禁錮ニ處セラル可シ

官府ハ常ニ印刷人ノ業体上ヲ監督スルノ權アリ、是レ蓋シ必ス免許狀ヲ受ク可キ印刷人ノ義務アルト、其免許狀ヲ取上ルヿヲ得可キ官府ノ權力アルトニ基ク所ナリ

印刷人特別ノ義務

印刷人ノ特ニ循守ス可キ義務數箇アリ、即チ左ノ如シ

第一　一箇ノ簿冊ヲ備ヘ置キ日附ノ順序ニ從テ之ニ新ニ印刷ス可キ書ノ標題、葉數、冊數、部數及ヒ製本ノ大小ヲ記ス可キ事

第二　新ニ書ヲ刷出スル前ニ其旨ヲ届出ツ可キ事(但シ巴里ニ於テハ、之ヲ内務省ニ届ケ、其他ノ諸州ニ於テハ、州廳ノ書記局ニ届出ツ可シ)

第三　出版ノ書ヲ公ケニシ之ヲ發賣スルニハ、前以テ納本二部ヲ内務省若クハ州廳ノ書記局ニ差出ス可ク、又其印行ノ書、政事若クハ

國家經濟上ノ事ヲ記シタル者ニシテ、十葉以下ノ小冊子タル時ハ、右ノ外其納本一部ヲ檢事局ニ差出ス可キ事

第四　印行書ノ各本ニハ、何レモ印刷人ノ姓名及ヒ住所ヲ記載ス可キ事

右ノ義務ヲ守ラサル者ハ、之ヲ罰スルニ罰金ヲ以テス

印刷人ハ、勉メテ注意シテ其印行セント欲スル書ヲ點檢ス可シ、何トナレハ若シ否ラスシテ發行シタル書中ニ著述者ノ罪犯ト爲ル可キ事アレハ、印刷人其罪ニ坐ス可キヲ以テナリ

故ニ印刷人若シ其情ヲ知リテ、世ノ品行又ハ風俗ニ害アル書ヲ發行シタル時ハ、其著述者ト共ニ罰金及ヒ禁錮ニ處セラル可シ

又政事上ニ關スル新聞紙若クハ定期刊行ノ書ヲ刷出スル者モ、亦新聞發行條規ヲ履行セサレハ、其罪ヲ受ケ相當ノ罰ニ處セラル可シ

書肆營業、書肆ノ免許狀及ヒ書肆營業人ノ義務

書肆營業人モ、亦其免許狀ヲ受クル可キヿ、印刷人ニ於ケルト同一ナリ、只其人員ニ定限ナシ

免許狀ヲ受ケスシテ書肆ノ業ヲ營ム者ハ、一月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラレ、百「フランク」以上二千「フランク」以下ノ罰金ヲ科セラル可シ

書肆營業人ハ、印刷人ノ姓名ヲ載セサル書冊ヲ發賣シ、若クハ之ヲ所持ス可ラス、又其發賣シタル書中ニ、著述者ノ罪犯トナル可キヿアレハ、書肆營業人其罪ニ坐セラル可シ

第三款　金銀ノ細工及ヒ其細工物ノ發賣

金銀細工ノ保証幷ニ其製作人及ヒ商人ノ義務

佛國ニ於テ製スル金銀ノ細工物ハ、法律ヲ以テ規定シタル金量ヲ含有ス可キヲ法トス（例ヘハ細工物中ニ純金何分ヲ含有ス可キカ如シ）

金ヲ用ヒタル細工物ニ就テハ、其定量三種アリ即チ左ノ如シ

第一　細工物ノ全量千分ニ付　純金九百二十分

第二　仝　同　八百四十分

第三　仝　同　七百五十分

又銀ヲ用ヒタル製作物ニ就テハ其定量二種アリ即チ左ノ如シ

第一　細工物ノ全量千分ニ付　純銀九百五十分

第二　仝　同　八百〇〇分

但シ金ヲ用ヒタル細工物ニ就テハ、千分ノ三、銀ヲ用ヒタル細工物ニ就テハ、千分ノ五迄ハ、其定量ニ充タサルモ亦之ヲ恕ス可キ者トス

金銀細工物ノ金量ハ、其檢査ヲ爲セシ上、極印ヲ打チテ之ヲ保証ス可シ、又其極印ハ、金量ノ多少ニ應シテ互ニ異ナル者トス

金銀細工物ノ製作人ハ、預メ己レノ姓名ヲ州廳及ヒ其住所ノ邑廳ニ屆

置ク可シ

同上ノ製作人ハ、其細工物ニ刻入ス可キ刻記（但シ其刻記ノ形ハ邑廳及ヒ州廳ニ納メ置ク可キ者トス）ヲ所持ス可ク、又諸細工物ハ、其成就ノ前ニ之ヲ金量檢査局ニ差出シ其檢査ヲ受ケ、又其極印ヲ受ク可シ、但シ金量ノ檢査ヲ受ル時ハ、保証稅ト云ヘル一種ノ稅ヲ納ム可シ（此稅ハ之ヲ政府ニ收入スル者トス）

又同上ノ製作人及ヒ商人ハ、一箇ノ簿冊（但シ此簿冊ニハ邑長之ニ番号ヲ附ケ且其檢印ヲ爲ス可キモノトス）ヲ有シ、之ニ賣買シタル所ノ金銀細工物ノ種類、員數、量目及ヒ其金銀ノ量ヲ記シ、且其自カラ讓リ受ケタル所ノ賣主ノ姓名、住所ヲ記載ス可シ、然シテ其細工物ヲ買入ルヽニハ、自カラ熟知シタル人カ、否ラサレハ保証人アル人ニ限ル可シ

右ノ條規ヲ設ケタル主旨ハ、金銀細工物商人ニ賣出シタル物品ノ窃盜物タリシ時、司法警察官ヲシテ之ヲ搜索シ易カラシムルノ便ヲ謀ルニ

在リトス

金銀細工物ノ商人ハ、自カラ物品ヲ賣渡シタル人即チ其買主ニ勘定書ヲ渡ス可ク、其勘定書ニハ、自己ノ調印ヲ爲シ、且ツ其賣渡シタル金銀細工物ノ量目、形狀、及ヒ其金銀ノ量ト細工新古ノ別トヲ記ス可シ

金銀細工物ノ製作人及ヒ商人ハ、官ノ監督ヲ受ケ、若シ官ヨリ定メタル所ノ義務ヲ守ラサル時ハ、多數ノ罰金ヲ科セラル可シ

金銀細工物ノ保証ニ管スル事務ハ、間稅司ノ掌ル所ナリ

第五章　銀行、貸庫場及ヒ糶賣場

銀行、貸庫場及ヒ糶賣場ノ大要

商人ナシテ其一己ノ力ヲ以テ働カシムル能ハサル資本ヲ働カシメ、若クハ資本ノ壅塞ヲ融通シテ其商業ノ便ヲ得セシメ、以テ商人ニ世上ノ信任ヲ得セシムル如キハ、即チ銀行、貸庫場及ヒ糶賣場ノ益アル所以ナ

リ

右ノ主旨ニ基キ、銀行ハ商人ノ金ヲ預カリ、或ハ商人ニ金ヲ貸シ、又ハ商人ノ爲メ金ヲ受取リ、或ハ金ヲ拂出シ、又ハ商人ノ手形ノ未タ拂期限ニ至ラサル前ト雖モ、割引ヲ爲シテ之ヲ正金ニ引替ヘ、以テ商人ニ金融ノ便利ヲ得セシム

又貸庫場ハ、商品ヲ預リ商人ヲシテ持運ヒノ費用ヲ省キ、且其危險ヲ免レ、預ケタル儘商品ヲ賣拂ヒ、或ハ之ヲ抵當ト爲シテ、金ヲ借入ルヽノ便ヲ得セシム

又糶賣場ハ、往々商人ヲシテ其商品ヲ高價ニ賣拂フノ便ヲ得セシム

右ノ設置ハ、頗ル緊要ノ者タレハ、逐次其事業ト其本務トヲ論スルノ際ニ於テ之ヲ解明セントス

第一款　銀行

銀行事業ノ主旨

銀行ノ主旨ハ、正金及ヒ商業上ノ手形ヲ取扱フニ在リテ、此種類ノ商業ニ從事スル者ヲ名ケテ、銀行商人ト云ヒ、此商業ヲ行フ所ヲ名ケテ、銀舗ト云フ、銀行商人ノ從事スル事業數箇アリ、今其事業中ノ重要ナル者ヲ掲ルヲ以テ足レリトス

銀行商人ハ、各人ノ金ヲ預カリ、其預ケ主ノ爲メ受取及ヒ拂渡ヲ爲シ、預ケ主ヲシテ其預ケ金ノ額ニ至ルマテ、銀舗ニ對シ金高受取ヲ求ムルノ權ヲ得セシメ、証券ヲ引當ニシテ金ヲ貸出シ、爲替手形或ハ預リ手形ヲ出シ、此手形ヲ所持スル者ヲシテ、隔リタル遠方ニ於テ其金高ヲ受取ルヲ得セシメ、且未タ拂期限ニ至ラサル前ト雖モ、割引ヲ爲シテ「ビニー、タ、オルドル」及ヒ爲替手形ヲ正金ニ引替フル事ヲ以テ其事業ト爲ス

銀行ノ有益

銀行ノ世ニ利益アル條目ヲ掲クルニ、例ヘハ人ヨリ金ヲ預カリテ以テ不殖ニ止ル可キ金ヲ殖サヾメ、又時アリテ其預ケ主ニ利子ヲ拂ヒ、其預リ金ヲ以テ商業又ハ工業ノ資本ト爲サシムル利益有ルカ如ク、未タ拂期限ニ至ラサル前ト雖モ、割引ヲ爲シテ手形ヲ正金ニ引替フルニ因リ、商人ナシテ其所持セル手形ヲ以テ其受取期限ニ至ラサル前ニ、金ヲ受取リテ之ヲ商業ニ用ヒ、一層手廣ク賣買ヲ爲スヲ得セシメ、又爲替手形及ヒ預リ手形ヲ出スニ因リ、各人ナシテ正金運送ノ費用ヲ省キ、其不便又ハ危難ヲ免レシムルノ益アリトス

預金銀行及ヒ融通銀行

銀行ハ、其事業ノ性質ニ因テ之ヲ觀レハ、預金銀行ト融通銀行トノ二種アリ

預金銀行ハ、金ヲ預カルヿヲ以テ其本務ト爲シ、預リ金ハ、之ヲ帳簿ニ記

シ、其預ケ主ナシテ其金高ノ渡方ヲ求ムルノ權ヲ得セシム

預ケ主ハ、自テ其預ケ金ヲ取戻シ、或ハ其權利ヲ他人ニ讓リ、已レニ代リテ其金ヲ受取ラシムルヿヲ得可シ

又其讓渡シヲ受クル者モ、亦同シク銀行ニ預ケ金アル時ハ、其讓渡人ノ預ケ金ヲ轉シテ、其讓受人ノ預ケ金ノ中ニ加フルノミニテ、其手續ヲ成就シタリトス

右ノ所爲ハ、即チ甲ノ預ケ金ヲ乙ノ預ケ金ニ轉シ、且其由ヲ帳簿ニ記入スルニ在リテ、之ヲ振替（ビールマン）ト云フ、是レ預金銀行ヲ稱スルニ、往々振替銀行ノ名ヲ以テスル所以ナリ

又融通銀行ハ、未タ拂期限ニ至ラサル前ト雖モ、割引ヲ爲シテ手形ヲ正金ニ引替ヘ、爲替手形及ヒ「ビエー、タ、オルドル」ヲ買入レ、其受取リシ手形ニ代ヘテ手形ヲ發行スル等ヲ以テ其業トス

但シ此手形ハ、之ヲ名ケテ銀行ノ手形ト云ヒ、何人ヲ論セス其持主ニ金高ヲ拂フ可キ者ニシテ、恰モ貨幣ト均シク人々相傳ヘテ以テ融通シ、且ツ之ヲ發行セシ銀行ニ於テハ、何時ニテモ正金ニ引替ユ可キ者トス

銀行ノ手形ハ、世間ノ融通ニ供スル者ナルカ故ニ、之ヲ發出シタル銀行ノ資本充分確實ナレハ、其手形ハ貨幣ノ本務ヲ爲シテ、正金ノ不足ヲ補フ者タリ

此銀行ハ、其手形ヲ世間ニ流通セシムルヲ以テ、之ヲ稱シテ融通銀行一名手形銀行ト云フ

斯ク銀行ハ之ヲ別テ預金銀行ト融通銀行トノ二種ト爲スト雖モ、實際上ニ於テハ判然タル區別ナキ者ト知ル可シ

銀行中ニハ唯々金ヲ預カルノミニ非スシテ、他ノ事業（拂期限ニ至ラサル前ト雖モ、割引ヲ爲シテ手形間券類ヲ行フ者アリ、然ル時ハ預金銀行ト割引銀行トヲ兼ヌル者ナリト雖モ、總テ銀行ハ手形ヲ發行ス可カラサルヲ定則ト爲ス）ニ因リ、之ヲ融通銀行ト云フ可カラス

正金ニ引替ユ可キ者ナリ

私立銀行及ヒ公立銀行

銀行ハ又之ヲ別テ私立ト公立トノ二種トナス、但シ此二者ノ從事スル事業ノ本性ニ就テハ、互ニ同一ノ者ナリト雖モ、唯其異ナル所ハ、公立銀行ハ政府ノ許可ヲ得、且其監督ヲ受ケ、巨大ノ資本金ヲ聚合シテ、以テ設立シタルニ因リ、大ニ世人ノ信任ヲ得タル者ナレトモ、私立銀行ハ之ニ比スレハ、其資本モ少ナク、其事業ノ範圍モ自カラ狹小ナルヲ常ト爲スニ在ルノミ

銀行ニ私立ト公立トノ別ヲ爲セシハ、大ニ我カ法制上ニ關係アル事ニシテ、例ヘハ手形ヲ發行スルノ權ハ、政府ヨリ其許可ヲ得タル特立ノ銀

行ニ限ルカ如シ、蓋シ此規則ヲ設ケタル主旨ハ、苟モ貨幣ニ均シキ手形ヲ流通セシムルノ權ハ、大ニ資本ニ富ミ或ハ理財ノ道ニ巧妙ナルカ爲メ、十分ノ保証アル銀行ニ非サレハ之ヲ有セシム可ラス、若シ然ラサル時ハ大不便ヲ生ス可キノ恐レアルニ依レリ

國立銀行ノ特權（バンク・ド・フランス）

各種ノ銀行ニ於テ、信據保証ノ大小ヲ問ハス、手形ヲ發行シテ之ヲ流通セシムル時ハ、大ニ紛亂ヲ生ス可キニ因リ、手形發行ノ權ヲ一ニ歸ス可キノ要ヲ見出セリ、依テ當今ハ此權ヲ特ニ國立銀行ノミニ歸スルヿニ定メタリ

故ニ差出シ次第、持主ニ正金ト引替ユ可キ手形ヲ發行スルハ、方今ハ國立銀行ノミニ限レリ

千八百四十八年前ニ在テハ、州立銀行ト云ヘル者アリテ、各自特立シテ

政府ノ許可ヲ受ケ、其手形ヲ發行シタリシカ、千八百四十八年ニ至リ、此州立銀行ノ權ヲ廢シテ之ヲ國立銀行ニ合シ、其名ヲ改メテ國立銀行支舗ト爲セシヲ以テ、國立銀行ノ特權始テ完全スルニ及ヘリ、蓋シ此特權ハ、共和政治立國第十一年ニ設ケタル者ニシテ、以後十五ケ年ヲ以テ其期限ト爲セシカ、其後數回其期限ヲ延ハシ、千八百五十七年更ニ之ヲ延期シテ、千八百九十七年十二月三十一日ニ至ラシメタリ

國立銀行內部ノ制規

前文既ニ國立銀行ノ概畧ヲ記シタルヲ以テ、今將ニ其銀行內部ノ制規ト、其殊ニ重要ナル事業トヲ揭ケントス

國立銀行ハ、政府ノ許可ヲ受ケ、且株數ヲ以テ募リタル資本金ニ由テ設ケタル所ノ無名會社ナリトス

國立銀行ニハ、政府ヨリ其目代トシテ出ス所ノ官吏三名、即チ國長ノ選

任シタル總長一名、副長二名アリテ、銀行ノ事務ヲ取扱ヒ、其外總會議（最多數ノ株數ヲ有スル株主二百名ヨリ成レルモノトス）ニ於テ選任シタル幹事十五名ト、檢査役三名アリテ其事務ニ管預ス

幹事及ヒ檢査役ハ、常ニ相合シテ銀行會議ヲ爲シ、總長若クハ副長之ニ上席ス、然シテ國立銀行ノ事業ニ管スル諸事ハ、皆此會議ニ於テ之ヲ決ス可シト雖モ、其議定ハ總長ノ許諾ヲ得、其鈐印ヲ受クルニ非サレハ、之ヲ施行ス可ラス

總長ハ、右銀行會議ノ議定ヲ施行シ、或ハ國立銀行ノ名ヲ以テ諸証書ヲ記シ、或ハ國立銀行ニ管セル訴訟ヲ爲スノ權アリ、故ニ之ヲ概言スレハ、銀行會議ハ議政權ヲ有シ、總長ハ行政權ヲ有スル者タリ

毎年株主ノ總會議ヲ開キ、總長之ニ上席シテ前年間取扱フタル事務ノ報告ヲ爲シ、且其總會議ニ於テ、幹事及ヒ檢査役ヲ更選ス可シ、又銀行規則改正ノ如キ重大ナル處置ヲ爲ス可キ時ニ當テハ、臨時ニ總會議ヲ開クヿ有ル可シ

國立銀行ノ事業

國立銀行ハ、金銀貨幣及ヒ國債証書、或ハ鉄道株數等ノ如キ、証券手形類ヲ預リテ其手數料ヲ受取リ、又金銀地金及ヒ金剛石ヲ預カルヲ以テ其業ト爲ス

又國立銀行ハ、商人ノ爲メ金高ノ受取拂渡ヲ引受クルヿアリ、故ニ國立銀行ト此類ノ約ヲ結ヒタル商人ハ、之カ爲メ其金ヲ銀行ニ入レ置キ、入用ノ時ハ銀行ヨリ本人ニ代リテ其拂方ヲ爲シ、又本人ノ請取ル可キ手形及ヒ勘定書ハ、之ヲ銀行ニ預リ置クヘシ

又國立銀行ハ、國債証書、鉄道株數、巴里府債証書等ヲ抵當ニ取リ、金ヲ貸出スヘシ、但シ此等ノ引當物ニ就テノ貸借ハ、其期限甚タ短クシテ、長キ

モ三ケ月間ニ其返償ヲ爲ス可キ者トス

右貸金ノ引當トシテ國立銀行ニ受取リタル証書ノ時價ハ、商人集會場ノ相場ニ因リテ時々下落スルヿ有ルカ故ニ、銀行ニ於テハ、其金ヲ貸シ出ス日ノ時價ヨリモ更ニ低下ノ金高ニ非サレハ、之ヲ貸シ渡スヿナシ

又國立銀行ハ、金銀地金ヲ預カリテ金ヲ貸シ出スヘシ

其他國立銀行ハ、商業上ノ手形ノ未タ拂期日ニ至ラサル前ニ割引ヲ爲シテ正金ニ引替ユヘシ、故ニ國立銀行ハ、身元アル商人三名ノ記名調印アレハ、未タ拂期日ニ至ラサル爲替手形及ヒ「ビエー、タ、オルドル」ト雖モ、其拂期日ヨリ多クモ九十日前ニ割引ヲ爲シテ之ヲ正金ニ引替ユ可ク、又特別ノ譯ヲ以テハ、商人二名ノ記名調印アル手形ト雖モ、亦別ニ商品ヲ以テ其保証ト爲ス可キ旨ヲ記入セルカ、或ハ他ノ商人一名ノ記名調印ノ代リニ、國債証書若クハ銀行株數証書ヲ以テノ特別ナル保証アルニ

於テハ、其拂期日ニ至ラサルモ割引拂ヲ爲スヿ有ルヘシ

斯ク其銀行ニ差出シタル商業上手形ノ撿査ハ、割引掛リト名ケタル一箇ノ掛リ役ニ於テ之ヲ爲スヘシ

但シ其掛リ役トハ、總長一名副長二名幹事四名、及ヒ割引拂ノ評議役中ノ三名ヨリ成レル者ニシテ、又其評議役トハ、巴里府内ニ於テ商業ヲ行フ國立銀行ノ株主中ヨリ、銀行撿査役ノ撰任シタル者十二名ヲ以テ其職ニ充ツル者トス

割引拂掛リ役ハ、預メ充分ノ身元アル商人ノ名簿ヲ作リ置キテ、其者ノ記名調印アル手形ナレハ、其拂期日ニ至ラサルモ割引拂ヲ爲シ得可キヲ定ム可シ

拂期日前ニ割引拂ヲ爲シタル手形ハ、其拂期日ニ至レハ、之ヲ當然其手形ノ金高ヲ拂フ可キ者ニ渡ス可シ、若シ其者之ヲ拂ハサル時ハ、國立銀

行ニ割引拂ヲ頼ミシ者ナシテ直ニ之ヲ償還セシム可シ

拂期日ニ至ラサル手形ノ割引拂ノ相場ハ、地方ニ因リテ相同シカラス、時アリテハ百ニ六ノ割合ヲ超ユルコトアリ

國立銀行ノ手形

國立銀行ハ、他ヨリ手形類ヲ受取ルニ代ヘ、又自カラ手形ヲ發行ス、然シテ此手形ハ、上文ニ述ヘタル如ク、人々相傳ヘテ融通ヲ爲シ、常ニ正金ニ引替ユ可キ者ナルカ故ニ、國立銀行ハ、何時ニテモ其手形引替ニテ正金ヲ拂フ可キノ義務アリトス

國立銀行ノ手形ニハ、五十「フランク」、百「フランク」、二百「フランク」、五百「フランク」、千「フランク」、五千「フランク」ノ六種アリ

右各種ノ手形發行ノ全額ハ、國立銀行ノ役員會議ニテ之ヲ規定スル者ニシテ現今ハ二十億「フランク」ニ昇レリ

國立銀行ノ手形ハ、其資本金ト預リ手形トヲ以テ之カ抵當トナシ、世人ノ信任ニ由テ恰モ貨幣ノ如ク普ク世間ニ流通スル者トス、然レモ若シ債主此手形ヲ受取ルヿヲ好マサレハ、負債者ハ强ヰテ銀行ノ手形ヲ受取ラシムルヲ得ス、必ス正金ヲ以テ拂フ可キヿ法則トス

國立銀行ハ、衆庶ニ其事業ヲ廣告シ、且ツ其事務ノ景況ヲ明白ナラシムル爲メ、各週毎ニ其有スル所ノ手形及ヒ貯金ノ高、並ニ其流通セル手形ノ高ヲ記セシ明細書ヲ公布ス可シ

國立銀行ノ支舗

國立銀行ハ、最モ繁華ナル貿易場ニ於テ其支舗ヲ設ケタリ、又千八百五十七年、國立銀行ノ特權ヲ延期シタル法律ニ依レハ、向後十年ノ期限内ニ、未タ支舗ヲ設ケサル諸州ニ於テモ、更ニ支舗ヲ設ク可キヿヲ定メタリ」

各支舗ノ事務ハ、國長ノ命シタル社長ト一箇ノ議會（但シ此議會ハ國立銀行本舗ノ役員會

議ニ於テ撰任シタル支配役及ヒ檢査役各々數名ヨリ成レルモノトス（トニテ、之ヲ擔任シ常ニ本舗ノ監督ヲ受ク可シ

各支舗ノ事業モ亦巴里ニ在ル本舗ト同一ナリトス、但シ手形ノ製造及ヒ其發行ニ係ル事務ヲ統括スル如キハ、特リ巴里ノ本舗ニ限ル所ナリ

第二款　貸庫場及ヒ糶賣場（千八百五十八年五月二十八日ノ法律）

貸庫場ノ義意

貸庫場ハ、政府ノ許可ヲ受ケテ設立シタル者ニシテ、其目的ハ生品、製作品ノ別ナク、商品ヲ預カルニ在リ

貸庫場ハ、同上諸物品ノ預ケ主ニ其証書（下ニ詳ナリ）ヲ渡スヘシ、然シテ此証書ハ、迅速容易ニ此人ヨリ彼人ニ轉スルヲ得可キカ故ニ、諸物品ノ預ケ主ハ、別ニ其物品ヲ取出スノ煩勞ト費用トヲ要セスシテ、或ハ之ヲ質入シ或ハ之ヲ賣却スル爲メ、此証書ヲ用フルヲ得可シ

預ケ主ニ渡ス可キ受取証書及ヒ預リ証書

物品ノ預ケ主ニハ、貸庫場ヨリ二通ノ証書ヲ渡ス可シ、其一ヲ受取証書（レセピツセト）云ヒ、又一ヲ預リ証書（ビュレタン、ド、ガージュ）一名「ワラン」ト云フ、然シテ此二通ノ証書ニハ、預ケ主ノ姓名、職業、住所ヲ記シ、且其物品ノ種類、及ヒ其形狀、價値ヲ定ムルニ必須ナル諸件ヲ記ス可シ

受取証書及ヒ預リ証書ノ轉移并ニ其証書ノ効

受取証書ト預リ証書トハ、預ケ主ノ時宜ニ因リ、共ニ之ヲ他人ニ轉移シ、或ハ別々ニ之ヲ轉移スルヿヲ得可キモノトス、故ニ若シ預ケ主右ノ物品（貸庫場ニ預ケ置キタル物品ヲ云フ）ヲ質ニ爲シテ金ヲ借入ソント欲スル時ハ、其預リ証書ヲ引離シ裏書ヲ爲シテ、之ヲ貸主ニ渡スヿヲ得可シ（但シ裏書トハ切手ノ裏面ニ文字ヲ記入スルヿニシテ其式ハ下文ニ詳ナリ）

預リ証書ノ裏書ハ、貸主ニ其物品ニ付質取ノ權ヲ與フルカ故ニ、其物品

ヲ引當ニ爲シテ、貸金ノ償還ヲ得ルノ特權ヲ得セシム

若シ預ケ主、未タ右ノ物品ヲ質物ト爲ス爲メ、其預リ証書ヲ他ニ轉セサル內ニ、右物品ヲ賣却セントト欲スル時ハ、請取証書ト預リ証書トニ裏書ヲ爲シテ、其ニ之ヲ賣主ニ渡ス可シ、然レトモ若シ預ケ主、既ニ其物品ヲ質物ト爲シ、預リ証書ヲ貸主ニ渡シタル時ハ唯請取証書ノミヲ持テルカ故ニ之レノミヲ賣主ニ渡ス可シ

請取証書ト預リ証書トハ、裏書ヲ爲シ或ハ請取証書ノミノ裏書ヲ爲ス時ハ、其ニ物品ノ賣拂ヲ証スルノ効アリトス

請取証書ノ裏書ト、預リ証書ノ裏書トニ就キ、其効ノ差異アルヿ左ノ如シ

請取証書ノ裏書ハ、右物品ノ賣拂ヲ爲シ、又預リ証書ノ裏書ハ、其裏書ヲ得タル者ニ質取ノ權ヲ得セシムル者トス

右ノ裏書ハ、甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ト、數回之ヲ爲スヿヲ得可シ、故ニ預リ証書又ハ請取証書ノ裏書ヲ得タル持主ハ、再ヒ裏書ヲ爲シテ之ヲ他人ニ轉移シ得可キニ因リ、請取証書ト預リ証書トヲ以テ、物品ヲ流通シテ之ヲ賣拂ヒ或ハ之ヲ質入ニ爲スヿヲ得可シ

請取証書及ヒ預リ証書ノ裏書ヲ爲ス法式

請取証書ノミノ裏書、及ヒ請取証書ト預リ証書トノ裏書ヲ爲ス法式ニ欠ク可ラサル條件ハ、只其証書ヲ渡ス者ノ其姓名ヲ手署シ、且ツ年月日ヲ記スルニ在リトス

又請取証書ヲ添ヘサル預リ證書ノ裏書ヲ爲スニハ、右法式ノ外ニ其物品ヲ抵當ニシテ借入レタル金額ニ關係セル文言ヲ加フルヲ要トス、即チ右物品引當ニテ借入レタル元金及ヒ其利金ノ高ヲ記載シ、且其償却期日ト其債主ノ姓名、職業住所ヲ記載ス可キカ如シ

其他預リ証書ノ第一回ノ讓受ケ人(即チ物品預ケ主ヨリ裏書ヲ得タル人)ハ、貸庫場ノ簿冊ニ右裏書ノ旨ヲ登記セシメ、且其預リ証書ニハ、貸庫場ノ簿冊ニ登記セシメタル旨ヲ記入スルヲ要トス

請取証書預リ証書兩通ノ持主及ヒ請取証書持主ノ權利

前文既ニ貸庫場ヨリ渡シタル証書(即チ受取証書ト預リ証書トヲ云フ)ヲ以テ物品ヲ賣リ、又ハ質ト爲ス手續ノ模様ト、其証書轉移ノ法式トヲ説了シタルニ因リ、今又將ニ請取証書ト預リ証書トヲ共ニ保有シ、或ハ唯請取証書ノミ、又ハ預リ証書ノミヲ保有スルニ就キ、其持主ニ屬ス可キ權利如何ヲ説明セントス

法ニ適シタル裏書ニ由リテ、請取証書ト預リ証書トヲ共ニ保有スル者ハ、即チ其物品ノ所有者タリ、是レ請取証書ト預リ証書トノ裏書ヲ爲スハ、物品ノ賣却ヲ証スルノ効アレハナリ、故ニ此証書兩通ノ持主ハ、自カ

ラ貸庫場ニ到リテ、其証書二通ト引替ニテ、其物品ヲ請取ルコトヲ得可シ

然レモ預ケ主ヨリ其物品賣拂ノ時、既ニ預リ証書ヲ他ニ渡シテ、其物品ヲ質ニ爲シタルニ因リ、其預リ証書ヲ添ヘス唯其請取証書ノミヲ渡シタル時ハ、其請取証書ノ持主ハ、之ヲ渡シタル者(即チ預ケ主)ニ優リシ權利ヲ有スルヿヲ得ス、故ニ其請取証書ノ持主ハ、其預リ証書ノ持主ニ曾テ預ケ主(即チ原來ノ所有者)ノ其物品ヲ質入シテ借リ入レタル金額(但シ其金額ハ預リ証書ノ裏書ニ因テ定マレル者トス)ヲ拂フヿヲ要ス

物品ヲ受出ス事

預リ証書ヲ添ヘサル請取証書ノ持主ハ、預ケ主ノ曾テ物品引當ニテ借入レタル金高ヲ全ク償却シテ其物品ヲ受出スニ非サレハ、貸庫場ヨリ物品ヲ引取ルヿヲ得可ラス

又時アリテハ請取証書ノ持主、物品ヲ引取ラント欲スト雖モ、其物品引當ニテ借入レタル金高ノ拂期日ニ至ラサルヿ有リ、然ル時ハ必シモ其拂期日ヲ待テ其償却ヲ爲シ、然シテ後其物品ヲ引取ルヿヲ要セス、故ニ若シ請取証書ノ持主、其預リ証書ノ持主ヲ知リ得サルカ、或ハ之ヲ知リ得タルモ拂期日ニ至ラサル前、其物品引當ニテ借入レタル金高償却ノヿニ就キ、預リ証書ノ持主ト協議セサル時ノ如キハ、其借入金ノ元高ト拂期日ニ至ル迄ノ利息トヲ貸庫場ニ預ケ置ク可シ

然ル時ハ請取証書ノ持主、其物品ヲ受出シ貸庫場ヨリ其物品ヲ引取ルヿヲ得可シ

預リ証書持主ノ權

預リ証書ノ持主ハ、其物品ニ就キ質取ノ特權ヲ有スル者トス、故ニ若シ負債者ヨリ其償却期日ニ至リテ其金ヲ拂ハサル時ハ、預リ証書ノ持主

ハ、負者ニ要決ノ書ヲ送リテ其償還ヲ肯セサル証ト爲シ、且其要決ノ書ヲ記シタル日ヨリ八日後ニ至レハ、商業世話人ニ依頼シ其物品ノ賣拂ニ取掛ラシムルヿヲ得可シ

然ル時預リ証書ノ持主ハ、總テノ他ノ債主ニ先チテ其物品賣拂ノ代價ヲ以テ己レノ貸高償還ニ充ツルヿヲ得可シ、但シ物品入府税、海關税及ヒ之ニ類似シタル諸税、若クハ商業世話人ニ渡ス可キ手數料及ヒ貸庫場ニ拂フ可キ藏敷ハ、右預リ証書持主ノ權ニ先立チ其賣拂代價中ヨリ先ツ之ヲ引去ル可シ

右ノ手續キヲ以テ物品ヲ賣拂フト雖モ、若シ其代價ノ猶ホ全ク預リ証書持主ノ貸高ヲ辨償スルニ足ラサル時ハ、負債者及ヒ預リ証書ニ逐次裏書ヲ爲シタル者ニ對シテ、其不足ノ補償ヲ求ムルヿヲ得可シ

若シ預リ証書ノ持主、要決ノ書ヲ記シタル日ヨリ一ケ月内ニ物品ノ賣

拂ニ取掛ラサルカ、若クハ物品賣拂ノ日ヨリ或ル期限内（通例十五日ト定ム）ニ當テ其証書ノ裏書ヲ爲シタル者ニ對シテ、不足ノ補償ヲ爲ス可キ催促ヲ爲サヽル時ハ、均シク其裏書人ニ對シ補償ヲ責ムルノ權ヲ失フ可シ

預リ証書持主ノ右ノ權利ヲ失フハ、中間ニ在リテ証書ノ裏書ヲ爲シタル者ニ對スル時ノミニ限リテ、假令其催促ヲ怠リシ時ト雖モ、尚最初ノ負債主（即チ最初ノ裏書人）ニ對シテ其義務ヲ責ムルノ權利ヲ失ハサルハ、讀者ノ宜ク注意スヘキ所ナリ

以上陳述スル所ニ由テ之ヲ觀レハ、預リ証書ハ商業手形ノ性質ヲ有スルヿタルヲ知ル可ク、故ニ預リ証書ハ「ビエー、タ、オルドル」ニ均シキ者ナリト雖モ、之ニ比スレハ物品ヲ質ニ取リタル一種特別ノ保証アルモノトス可シ

商業上手形ヲ其拂期日前ト雖モ割引ヲ以テ正金ニ引替ユル銀行（就中

國立銀行）ニ於テハ、右預リ証書ヲ商業上ノ手形ト看做シテ之ヲ受取リ且其預リ証書ノ特別ノ保証アルニ因リ、本來國立銀行ニ於テハ、三人ノ記名調印アル手形ニ非サレハ、割引拂ヲ爲サヽル定則ナリト雖モ、右預リ証書ニ限リテハ、二人ノ記名調印アレハ其拂期日ニ至ラサル前ト雖モ、割引ヲ以テ正金ヲ拂渡スヿヲ得可シ

請取証書又ハ預リ証書ノ紛失

請取証書ノ持主、若クハ預リ証書ノ持主、其証書ヲ紛失シタル時、履行ス可キ成規ハ、未タ之ヲ論定セサルヲ以テ、今將ニ之ヲ論セントス

請取証書ノ持主若シ其証書ヲ紛失シタル時ハ、一定ノ成規ヲ履行シテ其寫ヲ請取ルヿヲ得可シ、即チ一定ノ成規ヲ履行スルトハ、其紛失シタル請取証書ノ眞ノ持主タルヿヲ証シ、（之ヲ証スルニハ其商業簿冊ヲ用フルヲ以テ通規トス）又其寫ヲ受取ルヿヲ許可スル商法裁判所ノ長官

ノ命令書ヲ得、且ツ保証ヲ立ルヲ要スル等ノ諸事ニ在リ、然シテ其保証ハ、或ハ預リ金役所ニ金高ヲ預ケ、或ハ身元アル保証人ヲ立ルニ在リトス

預リ証書ノ持主若シ其証書ヲ紛失シタル時、嘗テ其証書ヲ証ト爲シテ貸渡シタル金高ノ返却ヲ得ントスルニモ、亦同上ノ成規ヲ履行スルヿヲ要ス

多量ノ商品糶賣ニ就テノ要旨

貸庫場ニ預ケ置キタル物品ノ賣買取引ニ就キ論及セシ所ノ諸規則ハ、其物品ノ預ケ主ヲシテ何時ニテモ容易ニ其物品ヲ活用シ、且之ヲ融通シテ商業上ノ需用ニ供シ、又ハ契約ヲ履行スル爲メ、其物品引當ニテ商業資本金ヲ借入ルヽヿヲ得セシムルヲ以テ其大目的ト爲スニ在リテ、千八百五十八年物品ヲ多量ニ糶賣スルノ法ヲ設ケタルモ亦此主旨ニ

基ク所ナリ、蓋シ此事タルヤ其以前ハ障碍頗ル多ク、大抵通則外ノ事ニシテ、商法裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ許サヽリシカ、此年ニ至リ遂ニ之ヲ撲滅シテ、同年以後自由ニ之ヲ行ヒ得ルヿト爲シタリ

此糶賣ノ法ニ就キテハ、其利益二樣アリ、即チ其一ハ賣主ニ取リテハ、買主(即チ入札人)ノ競ヒニ由テ物品ノ價ヲ貴カラシムルニ在リ、又一ハ買主ニ取リテハ、製造者若クハ輸入者ヨリ直ニ其物品ヲ買入ルヽヿヲ得ルヲ以テ、徒ラニ其價ヲ貴カラシム可キ中間介入者ノ冗費ヲ省キ自カラ其價ヲ廉ナラシムルニアリ

千八百五十八年ノ法律ヲ以テ、商法裁判所ノ許可ヲ受クルヿヲ要セシテ多量ニ物品ヲ糶賣スルヿヲ許シタルノ主旨ハ、專ラ同上ノ益アルニ基ク所ナリ、然シテ其物品ハ、即チ外國品ニテハ、食料品及ヒ製造用ノ

生品類ニシテ、內國品ニテハ、穀物、油、酒、薪、炭、材木ノ類ナリトス

右糶賣ハ、別段其糶賣ノ許可アリシ場所ニ於テ、商業世話人ノ補助ヲ得アヲ之ヲ爲スヘシ

貸庫場及ヒ糶賣場ヲ設クルノ許可ヲ得ル法式幷ニ其設立人ノ義務

貸庫場或ハ糶賣場ヲ設立セントスル者ハ、普通ノ制規ニ循フ可キ者ニシテ其許可（勅命ヲ以テ之ヲ爲ス）ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立ス可ラス、然シテ其許可ノ願書ハ、州長ノ手ヲ經テ農商兼工部卿ニ之ヲ差出ス可シ

右ノ願人ハ、其設立ノ緊要ニ適應シタル資本金ヲ有スルノ証ヲ立テ且其保証トシテ、金銀貨或ハ佛國地用ノ手形類ヲ出ス可シ、但シ其保証金ノ高ハ、許可ノ勅書ヲ以テ之ヲ定ム

貸庫場及ヒ糶賣場ノ持主及ヒ其設立人ハ、人ヨリ委托サレタル物品ノ監

守及ヒ其保存ノ責ニ任シ、且其物品ヲ庫ニ納メ或ハ之ヲ糶賣ニ爲サントスル者ノ意ニ隨ヒ、其庫又ハ糶賣場ヲ貸ス可シ

藏敷及ヒ糶賣場貸渡料幷ニ其局ノ諸規則ハ、前以テ之ヲ定メテ世上ニ公告ス可シ、且之ヲ施行セサル前ニ其管轄ノ州長、商業會議所、商法裁判所ニ届出ツ可シ

又貸庫場及ヒ糶賣場ハ、永久官ノ監督ヲ受ク可キ者トス

貸庫場及ヒ糶賣場ノ緊要

貸庫場及ヒ糶賣場ノ緊要ナルヿハ、左ノ金額ヲ以テ之ヲ証スルニ足レリ

千八百六十六年一月ヨリ十一月マテニ、貸庫場ニ預カリタル物品ノ價、四億三千五百八十五万四千「フランク」ニシテ、同時間ニ貸庫場ヨリ出シタル預リ証書ノ數ハ、二万〇九百八十九通（但シ此証書ノ價ハ三億六千萬「フランク」ナリト云フ）ナリ

リトス、然シテ此証書ヲ以テ人ヨリ借入ソタル金高ハ、二億四千九百七十二萬三千五百〇七「フランク」ナリ

糶賣場ニ於テ右ノ期限間ニ糶賣シタル物品ノ金高ハ、五千百五十一万五千八百八十「フランク」ニ至レリ

第六章　商業ヲ爲スニ必要ナル能力及ヒ商人ノ義務權利

本章ノ區別

前ノ數章ニハ工業製作自由ノ原則ヲ制限セシ條目ヲ論シタルニ因リ、此章ニ於テハ曩キニ商人ノ事ヲ說キシ總論ヲ完全ナラシメントス、依テ今之ヲ言フニ、抑モ商法學ノ目的ハ、商業ヲ爲シ得可キ人如何、商人ニ管スル特別ノ義務如何、商人ニ屬スル權利如何ノ三綱ヲ論スルニ在レハ、左ニ逐次之ヲ解明ス可シ

第一款　商業ヲ爲スニ必要ナル能力（自商法第二條至第七條）

商人ト爲リ得可キ者

本來何人ニ限ラス商人ト爲ルヿヲ得可シト雖モ、亦特別ニ然ラサル者アリ

（第一）商業ハ或ル職務ト兼行フヿヲ得サル者トス、例ヘハ裁判役、代言人、公証人、裁判所ノ使吏、代書人ノ如キハ、嫌疑ヲ防ク爲メ商業ヲ爲スヿヲ禁ス、又政府ノ諸官員ハ、其擔任セラレタル入札、又ハ自ラ指揮スル所ノ工業起作ニ加ハルヿヲ禁スルカ如キモ、亦之ト同一ノ意旨ニ基ク所ナリ

然レトモ右ノ制禁ハ、之ヲ眞ニ所謂商業上ノ不能力ト稱ス可ラサルニ因リ、若シ右ノ各人其職務ニ對シテ禁止セラレタル商業ヲ行フ時ハ、其商業ノ効ヲ生シ之レヨリ起レル通常ノ義務ヲ行フ可シ、然レトモ其職務上ノ成規ニ觸レテ商業ヲ營ミシ者ハ懲罰（即チ停職若クハ免職）ヲ申渡サ

ル可シ

商業上ノ不能力

(第二)又人ニ因リテハ商業ヲ爲シ得可ラサル者アリ、此ヲ以テ其者ノ記シタル証書ハ、裁判所ニ於テ其者自カラ其取消ヲ願ヒ、且ツ取消ノ申渡ヲ受ク可シ

証書ヲ取消ス時ハ、其証書ヲ効ナキ者ト爲シ、之ヲ全ク初メヨリ記セサル者ト看做ス可シ

商業上ノ不能力者トハ、狂癲ノ故ヲ以テ治産ノ禁ヲ受ケタル者、或ハ財産ヲ浪費シ、若クハ精神ノ暗愚ナルニ因リ、裁判所ヨリ任セシ輔佐人ノ監護ヲ受クル者、或ハ幼者及ヒ有夫ノ婦人ノ如キ即チ是ナリ

然レトモ治産ノ禁ヲ受クル者、或ハ裁判所ヨリ任セシ輔佐人ノ監護ヲ受クル者ノ不能力ト幼者及ヒ有夫ノ婦人ノ不能力トハ大ニ差別アリト

ス、而シテ其第一類ノ者ニ於ケル商業ノ不能力ハ完全ノ者ニシテ、其治産ノ禁ヲ受ケ又ハ裁判所ヨリ任セシ輔佐人ノ監護ヲ受クル間ハ、決シテ其不能力ヲ免ルヽヿヲ得サル者ナリト雖モ、幼者若クハ有夫ノ婦人ニ於ケル商業上ノ不能力ハ、特別ノ許可ヲ受クル時ハ、則チ之ヲ免ルヽヿヲ得可キ者トス、故ニ幼者及ヒ有夫ノ婦人ハ、其特別ノ許可ヲ得タル上ハ其許サレシ商業上ノ諸事ヲ行フノ能力ヲ得可シ

右許可ノ式及ヒ其効ハ、幼者ト有夫ノ婦人トノ別ニ從テ、各々互ニ異ナル者トス

幼者

幼者(即チ二十一歳以下ノ者)ハ自立シテ諸事ヲ行フノ能力ナキヲ定則ト爲シ、其後見人アリテ幼者ノ事務ヲ管照シ、幼者ノ管係アル諸事ハ、後見人幼者ニ代テ之ヲ處置ス可シ、故ニ幼者ハ其不能力ノ爲メ商業ヲ行

ヲ可カラサルニ因リ、自カラ商業ヲ爲サントスルニハ、先ツ其不能力ヲ免レサルヲ得ス

幼者商業ヲ行フニ必要ナル條件

幼者ノ商人ト爲リ得ル爲メニハ、左ニ記スル四箇ノ條件ヲ必要トス

第一　後見ヲ免ルヽ事

後見ヲ免ルヽトハ、後見ヲ止メ幼者ヲシテ自ラ其財産ヲ管理セシムルヲ云フ、然シテ其後見ヲ免ルヽヿハ其父ヨリ、若シ又其父ノ既ニ死シタル時ハ、其母ヨリ其由ヲ治安裁判所ニ届出ルヲ以テ之ヲ爲ス可シ、若又兩親共ニ死シタル時ハ、治安裁判役ノ上席シタル親族會議ノ議定ニ由リ其後見ヲ免ルヽヿヲ許ス可シ

又婚姻ヲ爲シタル幼者ハ其婚姻ヲ爲シタル事ノミヲ以テ後見ヲ免ルヽヲ得可シ

第二　滿十八歳ノ齡ニ至ル事

年齡十五歳以上ノ幼者ハ、其父若クハ其母ノ許諾ヲ得テ後見ヲ免ルヽヿヲ得可シト雖モ、年齡十八歳ニ至ルニ非サレハ商業ヲ營ムヲ得可ラス

第三　特ニ商業ヲ營ムノ許諾ヲ受クル事

商業ヲ營ムノ許諾ハ其父之ヲ爲シ、若シ其父在ラサル時ハ、其母ヨリ之ヲ爲ス可シ、但シ其許諾ハ之ヲ明文ニ掲ク可キ者ニシテ、時アリテハ公訟人ノ面前ニテ記シタル証書ヲ以テスルヿアリ、或ハ後見ヲ免レシムル時ニ當リ、其由ヲ治安裁判役ニ届出ツル書面ヲ以テスルヿアリ

若シ兩親共ニ存セサル幼者ハ、親族會議ノ議定ニ因リテ其許諾ヲ受ク可ク、且其議定ハ幼者ノ住所ヲ管轄スル民法裁判所ノ允許ヲ受ク可キ者トス

然レトモ裁判所ノ允許ヲ受ルハ、親族會議ノ許諾ヲ爲ス時ニ限リテ、其父母ヨリ許諾ヲ爲ス時ノ如キハ、裁判所ノ允許ヲ要セサルナリ

第四　許諾ノ証書ヲ商法裁判所ノ簿册ニ登記シ且ツ之ヲ掲示スル事

許諾ノ證書ハ、之ヲ商法裁判所（幼者ノ商業ヲ行ハントスル地ヲ管轄スル裁判所）書記官ノ監守セル簿册ニ登記シ、且之ヲ訟庭ニ掲示ス可シ

右第四ノ法式ハ、何レノ場合ニ於テモ踐行ス可キ者ニシテ、其本旨ハ幼者其不能力ヲ免レ、何人ニ限ラス將來其幼者ト懸念ナク契約ヲ結ヒ得可キヿヲ公告スルニ在リトス

幼者、商人ノ分限ヲ得ルニ因リ起ル條件

前文記スル所ノ諸成規ヲ履行シタル幼者ハ、商業ヲ行フニ必要ナル諸証書ヲ記スルヿヲ得可シ、故ニ通常後見ヲ免レタル幼者ハ、管財人ノ立

合アルニ非サレハ、重要ノ証書ヲ記ス可カラサルヲ以テ通規トナスト雖モ、商人ト爲リタル幼者ハ、管財人ニ頼ラスシテ商業ニ管スル總テノ証書ヲ記シ、且契約ヲ結フヿヲ得可シ

又商業ヲ營ム幼者ハ、不動産書入質ニ管スル一定ノ成規（即チ親族會議ノ議定ヲ經且ツ裁判所ヨリ其議定ノ允許ヲ受ル事）ヲ踐マスシテ、其商業ノ爲メ已レニ屬スル不動産ヲ書入質ニ爲スヿヲ得可シ、然レトモ幼者ハ縱令商業ヲ營ムノ許諾ヲ得タル時ト雖モ、其不動産ヲ賣拂ニ付テハ、同上ノ成規ヲ履行セサルヲ得ス」

通常ノ幼者（即チ商業ヲ營ムヿノ許諾ヲ得サル幼者）ハ自ラ其權利ヲ行ヒ得可ラサル故ヲ以テ、一旦記シタル證書ト雖モ己レノ爲ニ害アル時ハ、之ヲ取消スヿヲ得可シト雖モ、商業ヲ營ム幼者ハ、之ニ反シテ其幼年ナルヲ以テ一旦爲シタル契約ヲ取消スヿヲ得ス、其証書ハ恰モ丁年者ノ記セシ者ト同一ノ効アリトス

若シ右ノ如クナラサル時ハ、縱令幼者ノ商業ニ從事スルモ其詮ナカル可シ、如何トナレハ世人多クハ幼者ノ其一旦結ヒシ契約ニ背キテ其取消ヲ求メ得可キヲ懸念スルヲ以テ、幼者ト契約ヲ結フヲ欲セサレハナリ

其他商業ヲ營ムノ許可ヲ得タル幼者ト雖モ、唯其商業ニ關係シタル事ノミニ付キ其不能力ヲ免レ、其他ノ事ニ至リテハ、唯其財產支配ヲ管スル所爲ノミ自カラ之ヲ行フヲ得可ク、財產支配ノ範圍外タル重要ノ事ハ、管財人ノ立合アルニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス、又特別ノ場合ニ於テハ、親族會議ノ許諾ヲ受ケ、裁判所ノ允許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲ス可カラサルナリ

有夫ノ婦人

有夫ノ婦人ハ、其夫ノ許諾ヲ得、若クハ裁判所ノ允許ヲ得ルニ非サレハ、

己レノ財產ヲ隨意ニ處置シ、又ハ他人ト契約ヲ結フヲ得サルヲ原則トシ、且其夫若クハ裁判所ノ許諾ヲ得タリト雖モ、特ニ其許諾ヲ得タル事件ヲ除クノ外之ヲ適用ス可ラス、故ニ婦ノ爲サントスル事件ニ就テハ、各箇ニ其許諾ヲ得ルヲ必要トス

其夫若クハ裁判所ノ許諾ヲ得スシテ婦人ノ記シタル証書ハ、其婦又ハ其夫ノ願ニヨリ之ヲ取消スヲ得可シ

以上記スル所ハ普通ノ法則ナリトス

商業ヲ營ム可キ許諾及ヒ其効

有夫ノ婦人ハ、其夫ノ許諾ナケレハ商人タルヲヲ得スト雖モ、一旦其許諾ヲ得タル時ハ、更ニ特別ノ許諾ヲ受ルヲ要セスシテ商業ニ關スル諸事ヲ行ヒ、賣買又ハ契約ヲ爲シ、或ハ爲替手形ニ手署スルヲ得可シ

夫ヨリ商業ヲ營ムノ許諾ヲ得タル婦ハ、各事其承諾ヲ受クルヲ要セス

シテ總テノ商業ヲ營ムヿヲ得可シト雖モ、其許諾ハ商業ヲ營ムヿノミニ限リテ其他ノ事柄ニ通シ用フ可ラス、故ニ其他諸般ノ事ハ、普通ノ法則ニ循ヒ其夫若クハ裁判所ヨリ各別ニ其許諾ヲ受ルヿヲ必要トス

若シ婦人財産共通ノ法ニ因テ婚姻ヲ結ヒタル時ハ、其婦ノ商業ニ就キ結ヒタル契約ノ義務ハ婦人ノ一身ノミニ止ラス、故ニ商業上ニ管シ義務ヲ得可キ人（即チ債主）ハ、婦人一己ノ財産ニ於ケルノミナラス、夫婦共通ノ財産及ヒ其夫ノ財産ヲ以テ其義務ノ施行ニ充テシムルヿヲ得可シ

商人タル婦人ハ、商業ノ爲ニ己レノ不動産ヲ書入質ト爲シ、又ハ之ヲ賣拂フヿヲ得可シ、但シ婚姻ノ契約書ニ嫁資分括ノ法ニ循フ可キヿヲ定メテ、其不動産ヲ賣拂フヿヲ禁シタル時ハ此限ニ非ス

嫁資分括ノ法トハ、婚姻ノ費用ヲ助クル爲メ、婦ノ持來リタル財産ヲ賣拂ヒ、又ハ書入質ト爲ス可ラサル事ヲ定ムル法ヲ云フ

又婦ハ商業ヲ爲スノ許諾ヲ得タリト雖モ、其夫ノ許諾若クハ裁判所ノ允許ヲ受クルニ非サレハ、訴訟ヲ爲スヿヲ得可ラス

婦ヲ目シテ商人ト爲ス可キ場合

夫アル婦人ニ管シテ上文ニ説述シタル諸規則ハ、眞ノ商人タル婦人ニ非サレハ之ヲ通シ用フ可ラサル者トス、而シテ其夫ノ商業ノ外ニ一己ノ商業ヲ行フ時ニ非サレハ、其婦ヲ目シテ商人ト爲ス可ラス

又其夫商人ニシテ其婦亦夫ノ商業ニ干與シ、夫ノ爲メニ商業簿册ヲ記シ、計算ニ任シ、金銀ヲ預カル等ノ諸事ニ從事スト雖モ、此場合ニ於テハ其婦商人タルニ非スシテ、唯之ヲ夫ヨリ委任ヲ受ケシ者ト看做ス可シ、

然ル時ハ其婦人ハ自己ノ爲ニ商業ヲ爲スニ非スシテ、其夫ノ爲ニ之ヲ爲スカ故ニ自ラ記シタル証書ニ就テモ、婦ハ其責ヲ負フヿナシ唯其夫ノミ其婦ノ爲シタル契約ヲ執行ス可キ義務アリトス、是レ蓋シ婦人ハ

其人ノ代理人タルヲ以テナリ

第二款　商人ノ義務（商法第一篇第二卷、自第八條、至第十七條、及ヒ同第四卷、自第六十五條、至第七十條、）

商人ノ義務ノ掲目

凡テ商人ノ守ル可キ義務ニ數種アリ、就中其重大ナル義務ヲ三箇トス、即チ左ノ如シ

第一　商業簿冊ヲ設ケ置ク可キ義務

第二　婚姻ノ契約書及ヒ夫婦其居ヲ分チ、又ハ其財産ヲ分ツ事ニ就テノ裁判申渡書ヲ公ケニ爲ス可キノ義務

第三　職業免許税ヲ拂フノ義務

第一節　商業簿冊ノ事

商業簿冊ヲ設置クノ緊要

商業簿冊ヲ設ケ置クハ、商業ノ景況ヲ詳知セントト欲スル者ノ爲ニ必要

ノ一ニシテ、商人ノ免ル可ラサル義務タリ

商業簿冊ハ、商賣上ノ諸般ノ事柄ヲ証明スル者ニシテ、其日々ノ景況、請取高、拂高及ヒ損益ノ比較ヲ見ル可キ者トス、故ニ之ヲ概言スル時ハ、商業簿冊ハ宛モ商人ニ必要ナル補助ニシテ、商業繁昌ノ基タル整齊節約ノ最妙ナル保証者ト云フ可キカ如シ

必ス設置ク可キ簿冊

法律上ニ於テハ、諸商人ヲシテ或種ノ簿冊ヲ設ケ置ク可キ義務ヲ負ハシム、而シテ其簿冊ニ三種アリ、即チ左ノ如シ

第一　日用簿

商人ハ日用ノ簿冊ヲ設ケ置キ、一定ノ式ニ因リ財産及ヒ負債ノ有様ニ差響ク所ノ諸事、即チ第一商品ノ賣買及ヒ既ニ拂ヒタル高ト其契約シテ負ヒシ義務等ノ如キ、商業上ノ取引又ハ存生中ノ贈遺、遺物相續及ヒ

其女ニ與フル嫁資等ノ如キ、商業外ノ所爲ヲ其簿冊ニ記載シ、且毎月ノ末ニ一纏ニ爲セシ家内費用高ノ總計ヲモ亦之ニ記載ス可シ

第二　書狀寫留簿

商人ハ人ヨリ請取リタル書狀ハ、之ヲ一束ニシテ貯ヘ置キ、人ニ贈リタル書狀ハ、之ヲ書狀寫留簿冊ニ記入シ置ク可シ、蓋シ請取リタル書狀ヲ保存シ、及ヒ人ニ贈リタル書狀ノ寫留簿冊ヲ設ケ置クノ二事ハ、頗ル重要ナリトス、何トナレハ商業上ノ習慣ニ從ヒ、文書ノ往復ニ因リテ屢々取引ヲ爲スカ故ニ、若シ商人彼我ノ間ニ爭論ヲ生セシ時ハ、裁判官之ヲ審判スルノ斷案ニ用フルニ、其文書ヲ以テスルヿ有レハナリ

第三　目錄寫留ノ簿冊

商人ハ毎年其所有物及ヒ其貸金幷ニ負債ノ目錄ヲ造リ、之ヲ目錄寫留簿冊ニ登記ス可シ

商業簿冊ヲ設クルノ法式

商業簿冊ヲ設クルニハ、其簿冊ノ記シ方ヲシテ方正眞實ナラシムル爲メ、一定ノ法式ニ循フヲ要トス、故ニ商業簿冊ハ、日附ノ順序ニ從ヒ餘白、空行、欄外ノ記入ナク之ヲ記ス可シ、又商法裁判官一名或ハ邑長若クハ副邑長其番号ヲ附シ、姓名ノ手署ニ代フル横線ヲ畫シテ、檢印ヲ爲スヲ要ス

右ノ如ク番号ヲ付シ横線ヲ畫シ檢印ヲ爲ストハ、右ニ記スル官吏毎葉番号ヲ付シテ自カラ横線ヲ畫シ、且ツ其簿冊ノ初メ又ハ其終ニ簿冊ノ種類、用法及ヒ葉數ヲ記シタル一種ノ明細書ヲ附記スルヲ云フ

同上ノ法式ヲ設ケタル主旨ハ、紙數ヲ增減シ或ハ入レ替フルヿヲ得サラシムルニ在リ

又日用簿及ヒ目錄寫留簿ハ、商法裁判所ノ裁判官一名、或ハ邑長若クハ

副邑長ノ認允ヲ受クヲ可シ、但シ書狀寫留簿ハ此限ニ非ス

前文ノ法式ヲ踐行フニハ、別段其費用ヲ出スニ及ハス、又凡テ商業簿冊ニハ、印紙ヲ用フルヲ要セス

補助ト爲ス可キ簿冊

商人ノ義務ハ、前文ニ記セシ三種ノ簿冊ヲ設クルニ在リテ、其他ノ簿冊ヲ設クルハ其隨意タレハ、三種ノ簿冊ヲ設ケ置キタル商人ハ、之ヲ成規ニ循ヒ法律ヲ循守セル者トス、然レトモ此簿冊ノミニテハ猶不十分ニシテ、商業上ニ不便アルハ實驗ニ因レル所ナリ、故ニ右三種ノ簿冊ノ外ニ他ノ簿冊ヲ用フルニ至レリ、蓋シ其簿冊ハ必ス之ヲ設クルヲ要セスト雖モ、亦其便益ハ甚タ鮮少ナラサル者トス

但シ右三種ノ簿冊ノ外、商人ノ通常用フル簿冊ニ二種アリ、即チ其一ヲ大帳ト云ヒ、商業上ノ取引ヲ爲ス人々ニ對スル各箇ノ勘定ヲ記スル簿

冊ナリ、又一ヲ出入帳ト云フ、入金及ヒ出金ヲ記スル簿冊ナリ

証據ニ立ツルニ付テノ商業簿冊ノ効

商業上ノ習慣ニ於テ、許多ノ商務ハ商業簿冊中ニ記載シテ之ヲ證シ、其他別ニ其証據アラサルカ故ニ方正ニ設ケタル商業簿冊ハ、商業上ノ取引ニ就キ商人ノ間ニ爭ヲ生セシ時ハ、之ヲ以テ証據ト爲スコトヲ得可シ

故ニ商人ノ間ニ生セシ訴訟ヲ審問スル裁判官ハ、原被双方ヨリ其請求ナキ時ト雖モ、訴訟審理ノ爲ニ商業簿冊ヲ差出ス可キ申渡ヲ爲スヿヲ得可シ、而シテ若シ其商業簿冊ノアル地ト該裁判所所在ノ地ト相隔リタル時ハ、該裁判所ヨリ其簿冊所在ノ地ノ商法裁判所若クハ治安裁判役ニ依頼シテ、其簿冊ヲ取調ヘ其拔書ヲ作リ、且ツ其簿冊中ニ記スル諸件ノ調書ヲ作ラシム可シ

商人ハ十年間商業簿册ヲ貯ヘ置ク可シ、故ニ其期限滿ツルニ非サレハ、商業簿册ナキ旨ヲ申立ルヿヲ得ス、若シ其期限既ニ滿レハ、之ヲ保タサルモ亦妨ナシト雖モ、若シ之ヲ保有シタル時ハ、當然裁判所ニ差出シ得可キ者トス

商業簿册ヲ設クヘキ義務ヲ怠リタル時ノ處分

若シ商人商業簿册ヲ方正ニ設ケ置ク可キ義務ヲ怠リタル時ハ、家資分散ノ場合ニ於ケル罰則ニ據リテ之ヲ處分ス

故ニ家資分散ヲ爲セシ商人ノ若シ商業簿册ヲ設ケ置サルカ、又ハ之ヲ設ケ置クト雖モ其記シ方ノ方正ナラサル時ハ、通常倒産ノ罪ヲ告訴セラレ、懲治罪裁判所ニ於テ一ケ月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラル可シ

第二節　婚姻ノ契約及ヒ夫婦財産ヲ分ツヿノ公告

同上公告ノ趣旨

夫婦タル者ト契約ヲ爲セシ各人ハ、其婚姻ヲ爲ス方法ノ種類ニ因リ、或ハ已レノ權利ノ爲メニ大ナル保証ヲ得ルヿアリ、或ハ其保証ノ大ナラサルヿアリテ常ニ一定ナラス、故ニ例ヘハ其夫婦財産共通ノ法ニ因リテ婚姻ヲ結ヒシ時ノ如キハ、其夫ノ債主曾ニ其夫一身ノ財産ニ就キテ訴訟ヲ爲スノ權アルノミナラス、夫婦共通ノ財産ニ就テモ亦之ヲ爲スノ權アリ、又夫婦財産ヲ分チタル時ハ、婦ニ屬スル財産ヲ夫ノ財産ト引分ケタルカ故ニ、夫ノ債主ハ婦ノ財産ニ就キテ訴訟ヲ爲スノ權ナシ

又婚姻ヲ結フニ嫁資分括ノ法ヲ以テセシ時ハ、其婦ノ嫁資トシテ持來リタル財産ハ、之ヲ賣拂フヿヲ得サルニ因リ、債主ハ其婦ノ財産ト雖モ之ニ就キテ訴訟ヲナスノ權ナシ

財産共通ノ法ニ因リテ婚姻ヲ結ヒシ婦ノ其夫ノ許可ヲ得テ商業ヲ營ム時ハ、其商業上ニ就キ結ヒタル契約ヲ踐行スル爲メ、其義務ヲ共通ノ

財産及ヒ其夫ノ財産ニ及ホス可シ

此ニ由テ之ヲ觀レハ、夫婦中ノ一人商人タル時ハ、之ト契約ヲ爲ス各人ヲシテ、其夫婦ノ婚姻ヲ結ヒシ方法ノ如何ヲ知ラシムルノ緊要タルヲ知ル可シ

婚姻ノ契約ヲ公ニスル法式

婚姻ノ契約ヲ世ニ公告ス可キ定則ハ、夫婦中ノ一人其婚姻儀式ノ時、既ニ商人タリシ場合ト、婚姻儀式ノ後、商人ト爲リシ場合トニ從テ、互ニ差異アル「左ノ如シ

第一　夫婦中ノ一人婚姻儀式ノ時商人タリシ場合

夫婦中ノ一人婚姻儀式ノ時、既ニ商人タリシ場合ニ於テ、公証人ノ面前ニテ婚姻ノ契約書ヲ記シタル時ハ、其婚姻ヲ結ヒシ方法ノ如何ヲ問ハス必ス其契約ヲ公告ス可シ、但シ別ニ婚姻ノ契約書ヲ作ラサルニ因リ、法

律ニ從ヒ財産共通ノ法ヲ以テ婚姻ヲ結ヒタル時ノ如キハ、別ニ其公告ヲ爲スヲ要セス

凡テ婚姻ノ契約書ヲ記セシ公証人ハ、其婚姻契約ノ公告ヲ爲サシム可シ、若シ之ヲ怠ル時ハ罰金ヲ科セラル可シ

第二　夫婦中ノ一人婚姻儀式ノ後商人ト爲リタル場合

夫婦中ノ一人婚姻儀式ノ後商人ト爲リタル場合ニ於テハ、嫁資分括ノ法又ハ財産ヲ分ツ法ヲ以テ、婚姻ヲ結ヒタル時ニ限リ其公告ヲ爲ス可シ、又其公告ハ商業ヲ始メタル日ヨリ一ケ月内ニ、其夫若シハ其婦自ラ之ヲ爲ス可シ、若シ夫婦其義務ヲ行ハスシテ分散ヲ爲セシ時ハ、通常倒産ノ罰ニ處セラル可シ

右公告ノ式ハ、婚姻ヲ結フニ取用ヒタル方法ヲ記セシ婚姻契約書ノ拔書ヲ、夫婦ノ住所ヲ管轄スル商法裁判所及ヒ郡裁判所（即チ初告裁判所）ノ書

記局ニ出シ、(若シ其郡内ニ商法裁判所アラサル時ハ、其住所ノ邑廳ノ書記局ニ出シ)且代書人及ヒ公証人ノ會所ニ出スニ在リトス

右拔書ハ一年間之ヲ貼付シ置ク可シ

夫婦互ニ居ヲ分チ又ハ其財産ヲ分ツヿニ就テノ裁判申渡

夫婦中ノ一人商人タル者、其財産ヲ分チ又ハ其居ヲ分ツ可キノ裁判申渡ヲ得タル時ハ、前文ノ法式ヲ履行ス可シ、但シ夫婦居ヲ分ツノ裁判申渡ヲ受クル時ハ、亦必ス其財産ヲ分ツ可キモノトス

第三節　職業免許税

職業免許税ノ義意及ヒ定税、比例税

職業免許税トハ、特定ノ職業ヲ行フ者ヨリ納ムル所ノ税ニシテ、諸商人ハ其商業如何ニ拘ラス皆此税ヲ納ム可シ

職業免許税ハ、定税ト比例税トノ二種ヨリ成リ、其定税ハ同一ノ職業ヲ行フ者ニハ通シテ皆同一ノ額タリト雖モ、亦時アリテハ其職業ヲ行フ地ノ人口ニ拘ハリテ其額ヲ定ムル者アリ

比例税ハ、居屋並ヒニ倉庫店舗、製造所、工作場、物置場及ヒ其他職業免許税ヲ納ム可キ職業ヲ行フ場所ノ貸賃ニ基キ、其額ヲ定ム可キ者ニシテ、其貸賃二十分ノ一ヲ以テ之レカ通規トス、但シ特別ノ場合ニ於テハ、此税額ノ更ニ多ク或ハ更ニ少ナキヿアリ

職業ニ因リ、或ハ比例税ノミヲ課セラレ、或ハ定税ノミヲ課セラル者アリ、又免許税ヲ納ムヘキ者、數邑ニ於テ數箇ノ職業ヲ行フ時ハ、其最モ高税ヲ納ム可キ職業ニ就テハ定税ノ全額ヲ納メ、其他ノ職業ニ就テハ其税ノ半額ヲ納ム可シ

定税及ヒ半税ハ、其職業ヲ行フ所ノ主タル家屋所在ノ邑ニ於テ之ヲ納

ム可シ、比例税ハ倉庫、店舗、製造所、工作場、及ヒ其他ノ職業場ヲ設ケタル各邑ニ於テ之ヲ納ム可シ

職業免許狀ハ、本人一身ニ止リテ之ヲ受取リタル者ノ外之ヲ用フ可カラス

合名會社ニ於テハ、其各社員ヨリ免許税ヲ納ム可シ、然レトモ其中ノ主タル社員ハ、定税ノ全額ヲ納メ、其餘ノ社員ハ各々其税ノ一部分ノミヲ出ス可シ

又有會社ハ、主タル社員ノ住スル家屋及ヒ其他凡テ社業ノ爲メニ用フル諸建造物ノ賃貸ニ基キタル比例税ヲ納ム可シ、然レトモ無名會社ハ、一箇ノ定税ノミヲ納ム可キ者トス

職業免許税ハ、毎年第一月ニ此税ヲ課セラル可キ職業ヲ行フ者ヨリ其全一年分ヲ納ム可シ、但シ死去又ハ分散ニ因リテ停業シタル時ハ之ヲ納ムルニ及ハス

職業免許税ヲ納ム可キ家屋及ヒ工作場ヲ人ニ讓渡シタル時ハ、本人ノ願ニ因リ其讓受人ニ職業免許狀ヲ移スヿヲ得可シ

職業免許税ハ、十二分ノ一分宛之ヲ納ム可シ、但シ納税者移住ノ場合ニ於テハ、一年分ノ全額ヲ納ム可シ

免税又ハ減税ノ願立

職業免許税ヲ納ムル者ハ、或ハ其税ノ全部ヲ免除セラレンヿヲ申立テ、或ハ其税ノ幾分ヲ減少セラレンヿヲ申立ツルヲ得可シ、而シテ其税ノ免除ヲ申立ルハ之ヲ免税願トシ、其税ノ減少ヲ申立ルハ之ヲ減税願トス

免税願ハ、納税者ノ其行ハサル職業ノ爲メニ其免許税ヲ課セラレ、或ハ同一ノ職業ニシテ定税ヲ二重ニ課セラレ、或ハ同一ノ家屋ニシテ比例税ヲ二重ニ課セラレシ時之ヲ爲ス可ク、減税願ハ、定税ノ額ヲ定ムルニ

謬誤アリ、或ハ比例税ノ基礎タル貸賃ノ評價ニ謬誤アル場合、若クハ死去又ハ分散セシニ因リ店舗、工作場ヲ閉チタル場合ニ於テ之ヲ爲ス可シ

免税及ヒ減税ノ願立ハ、本州ノ參事院ニ差出シ同院ノ許可ヲ受ク可キモノトス

同上ノ願立ヲ爲スハ、租税目録ノ公告アリシヨリ三ケ月内ニ限ル可ク、死去又ハ分散ニ因リテ減税ノ願立ヲ爲スハ、店舗、工作場ヲ閉チタルヨリ三ケ月内ニ限ル可シ

右ノ願立ハ願書ニ認メ、其店舗又ハ工作場所在ノ地、本州ノ首府所在ノ郡（即チ郡廳ナクシテ唯州廳ノミ在ル郡）ニ屬スル邑内ニ在ル時ハ、之ヲ州長ニ差出ス可ク、其他ノ郡ニ屬スル邑内ニ在ル時ハ、之ヲ郡長ニ差出ス可シ

免税願書ノ式

私儀何々ノ職業相營候ニ付職業免許税目録ニ記名相成居候處何月以來停業仕其他一切免許税ヲ納ム可キ職業相營不申候間免許税免除被成下度此段奉願候也

年月日　　姓名捺印

州長或ハ郡長宛

減税願書ノ式

私上納仕ル可キ職業免許税ノ準則ニ相成候家屋貸賃幾「フランク」ト有之候處全ク是迄幾「フランク」ノ借賃相拂居候事相違無之且私住居候家屋ハ是ヨリ以上ノ賃銀ニテ貸借相成不申候依之免許税減少被成下度此段奉願候也

年月日　　姓名捺印

州長或ハ郡長宛

右願書ハ、其免税又ハ減税ノ願立三十「フランク」以上ノ金高ニ管スル時ハ之ヲ印紙ニ認ムル可シ、且其願書ニハ、願人ノ姓名、願立ノ事由ヲ載セ其年月日ヲ記シテ之ニ捺印ス可シ

又其願書ニハ、掛官吏ヨリ納税者ニ渡シタル職業免許税ノ額ヲ記セシ書付ト既ニ納期限ニ至リシ税額ノ受取書トヲ添フルヲ要トス

納税者ハ、右ノ願立ヲ爲スト雖モ、之レカ爲メ其一旦課セラレシ税ヲ納ムルヿヲ遲延ス可カラス、故ニ納税者其既ニ納メ期限ニ至リシ税額ヲ納メタルノ証ヲ立ツルニ非サレハ、右ノ願ヲ爲スト雖モ其許可ヲ得ルヿナシ

右ノ願立アリシ時ハ、掛リ官員其下調ニ取掛リ、直税司長其意見ヲ述ヘ、其述フル所ハ之ヲ納税者ニ通知シ、然ル後參事院ニ於テ其裁決ヲ爲ス可シ

若シ納税者參事院ノ裁決ニテ右ノ願立ヲ擯斥セラレタル時ハ、其裁決書ノ送達アリシ日ヨリ三ケ月内ニ再ヒ之ヲ參議院ニ申立テ、其裁決ノ取消ヲ求ルヿヲ得可シ

但シ參事院ノ裁決ノ取消ヲ參議院ニ訴フル書面ハ、納税者ヨリ或ハ之ヲ本州ノ參事院ニ差出シ、或ハ之ヲ直ニ參議院ノ書記局ニ差出スヲ得可シ、又此事件ニ付キ參議院ニ出訴スルニハ、別ニ本院代言人及ヒ覆審院代言人ニ依頼スルヲ要セス

第三款　商人ノ特權

商法裁判所及ヒ商人集會場

商人ハ特別ノ義務アルカ如ク亦特別ノ權利アリ、例ヘハ商法裁判所ノ官員即チ其裁判所長、裁判官及ヒ裁判官補ヲ選任スルカ如キハ其特權中ノ一トス、而シテ又此等ノ官職ニ選任セラルヽ者ハ、現ニ商業ヲ行ヒ又

ハ會テ商業ヲ行ヒシ人ニ限ル可シ

右ノ外商人集會場及ヒ工業會議所ノ諸員モ、亦右ニ均シク商人ニ非サレハ之ヲ撰擧ス可ラス、而シテ又其撰擧ヲ受ク可キ者ハ、現ニ商業ヲ行ヒ又ハ會テ商業ヲ行ヒシ人ニ限ル可シ

佛國商工法鑑卷之二終

佛國商工法鑑卷之三

第七章　雇主ト職工及ヒ弟子トノ關係

同上ノ事件ヲ規定セル法律ノ大旨

當今人口ニ膾炙スル所ノ論題中其特ニ重大ナル者ハ雇主ト職工トノ關係ニ屬スル問題ニシテ經濟學者ハ此關係ヲ解釋シテ其最モ重要ナル規則ヲ明瞭ナラシメ又立法官ハ公同ノ利益若クハ職工自已ノ利益ニ於テ或ル緊要ノ規則ヲ設クル爲メ此事ニ干預シ以テ職工ヲシテ特設ノ小簿冊ヲ申受ク可キノ義務ヲ遵守セシメ又ハ職業ニ因リテ勞動ノ時間ヲ定メ又ハ工作自由ノ妨害トナル可キ所行ノ罰則ヲ設ケタリ」

又特別ノ規則ヲ設ケテ工作場內ニ使役スル少年ヲ保護シ受業契約ノ

規則ヲ定メ又雇主ト職工トノ間ニ爭ヲ生シタル時ハ特別ノ裁判所（官立）ノ者ニアラス官許ヲ受ケテ雇主及ヒ職工ヨリ組成セル者（即チ工法裁判所）ニ於テ之ヲ裁判ス可キヿヲ定メタリ

以上ノ諸件ハ逐次左ニ之ヲ説明ス可シ但シ職工等ノ互ニ通謀一致シテ工料ヲ高昂スル罪即チ工作自由ノ障害ト爲ル可キ罪ノ如キハ罰則ヲ論述スル章（即チ第十七章）中ニ於テ之ヲ説明ス可シ

然レモ此法制上ノ規則ヲ掲クル前ニ先ツ雇主ト職工トノ間ノ關係ヲ規定セル原理ノ畧説ト職工ノ有様ニ管スル條目トヲ擧ケテ將ニ緒言様ニ之ヲ論セントス

第一款　總論

雇主ト職工トノ區別

直接ニ諸般ノ工作ニ關係スル人ニ二種アリ即チ起作者（即チ雇主）ト職工是

レナリ然シテ其職工ト云ヘル語ハ其廣汎ノ義意ニ於テハ凡テ報酬ヲ得テ勞動スル者（即チ職工ノ監督又ハ指揮ヲ爲シテ起作者ヲ助クル者、眞ニ所謂職工、雇主ヨリ工作ノ業ヲ受クル所ノ弟子等）ヲ指言スル者ナリ

起作者及ヒ其才能

起作者トハ工業ヲ起作シ其工業ニ必要ナル原品ヲ聚集シ品物ノ製造或ハ其發賣ノ指揮ヲ爲ス者ヲ云フ

起作者ハ事業錬熟ト云ヘル語中ニ含蓄セル所ノ才能ヲ有スルヲ必要トスルニ因リ凡ソ品物ノ供給ト求需ノ釣合トヲ考ヘ其時ト地トノ需用及ヒ恰好ヲ辨知スルヲ要シ又巧ニ工業ヲ指揮シ計算ヲ正クシテ起作ノ損益ヲ預知シ危險ナル工業ヲ爲シテ巨大ノ損失ヲ受ケサル様注意ス可シ

加之起作者總テ困難艱苦ニ堪フル爲メニ必要ナル氣力ト智心トヲ有スル時ハ之ヲ目シテ善良ノ起作者タル才能ヲ有スル者ト云フ可シ

起作者ノ利益及ヒ其利益ヲ得可キ道理

起作者ノ得ル所ノ報酬ハ之ヲ名ケテ起作ノ利益ト云フ蓋シ其利益タルヤ正當ニシテ且之ヲ得可キ所以ヲ容易ニ辨解シ得可キ者トス故ニ其起作ノ利益ニ三箇ノ原由アリ

〔第一〕起作ノ利益ハ起作者ノ勞動、思考、指揮、監督ニ報ル者トス是レ起作ノ設備ヲ爲シ人ヲシテ其工業ヲ行ハシムルハ特ニ起作者ノ力ニ在ルヲ以テナリ

〔第二〕起作ノ利益ハ起作者ノ損失ヲ償フ者トス蓋シ起作者若シ其工業ノ施行ヲ成就スルヲ行サルカ或ハ其設備施行ノ不良ナル時ハ其損失ヲ己レニ引受ク可キカ故ニ工業施行ノ爲ニ契約シタル總テノ義務ヲ

負擔シテ人ヨリ訴訟ヲ受ケ或ハ己レノカ財産ヲ賣却セラレ或ハ分散ヲ爲スニ至ルヿ有リ此ヲ以テ起作者ハ工業ノ利益ヲ以テ如是キ危難ノ償給ト爲サヽルヲ得ス

〔第三〕起作ノ利益ハ起作者ノ備ヘシ工業資本ノ利息金ニシテ其資本ハ或ハ器械及ヒ原品ヨリ生スルヿアリ或ハ金銀ヨリ生スルヿアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ起作ノ利益ヲ總成セル原素ハ起作者ノ勞力ノ報酬、危難ノ償給、資本金ノ利息ノ三者ニ在ル者トス

起作者モ亦一箇ノ商人ニシテ凡テ商人ノ守ルヿ可キ義務ヲ負擔セル者ナルカ故ニ商業簿冊ヲ設ケ免許稅ヲ納ムル等ノヿニ至リテモ亦商人ト同一ナラサル可カラス

職工ノ報酬、賃銀及ヒ其會社

起作者ハ其起作セル工業ヲ施行スル爲ニ職工ヲ使用ス而シテ其職工

ト起作者ノ間ニ取結ヒタル契約ハ即チ雇入契約ニシテ之ニ由テ相互ノ義務ヲ生スル者トス

又職工ノ使役ニ管スル諸箇條ハ起作者ト職工ノ意ニ隨テ自由ニ之ヲ定ム

職工ノ報酬ハ之ヲ名ケテ賃銀ト云フ而シテ其賃銀ハ勞動ノ種類、工作ノ間斷ノ有無、起作者ノ需用等ニ應シテ相同シカラスト雖モ若シ受負仕事ナル時ハ其工業ノ分量ニ從テ之ヲ定メ若シ日雇ナル時ハ其勞動ノ時間ニ從テ之ヲ定ム

職工ノ其勞動ノ賃銀ヲ得ル爲メニハ敢テ其工業ノ完成ニ至ルヲ待ツヲ要セス又職工ハ工業起作者ノ損得ニ拘ハラス其契約シタル賃銀ヲ受取ル可キノ權アリ

右ニ掲クル所ハ職工ニ管スル普通ノ成規ナリ然シテ今一事ノ茲ニ掲

ク可キ者ハ同業ノ職工相結テ其勞動及ヒ利益ヲ共ニシ職工ニシテ自カラ起作者ヲ兼ヌル所ノ一種ノ職工會社即チ共力會社ト名クル者ニ管スル事項ニ在リトス

右ノ職工會社ハ新設ノ會社法ニテ之ヲ保護勸奬スル者タレハ之レカ爲メ職工ノ利運モ亦頗ル大ナル可シ然レトモ此類ノ會社ハ常ニ必ス之ヲ施行スルヲ得可カラサレハ畢竟之ヲ以テ特種例外ノ者ト爲ス可ク通例職工ハ唯其賃銀ヲ以テ勞動ヲ爲ス者實ニ多キニ居ソリ

起作者ノ職工ニ對スル義務

前文ノ解明ニ就キ以テ起作者ト職工トノ互相ノ地位如何ヲ知リ得可キカ如ク固ト此二者ノ利益トスル所ハ互ニ相同シカラスト雖モ亦決シテ相反セル者ニ非ス故ニ製造ノ事業衰微スル時ハ職工モ亦其業ヲ營ムヿヲ得サルニ至リ縱ヒ又然ラサルモ其賃銀ハ隨テ減少セサルヲ

得ス是ヲ以テ工業繁盛ニシテ起作者其利益ヲ得ルヿ多ケレハ亦以テ職工ノ利益ト爲ル可シ又起作者ニ取リテハ勉メテ其職工ヲシテ安然飢渴ノ憂ナク其教育ヲ受ケシメ以テ其身體ノ健全及ヒ才智ノ開進ニ注意センヿヲ要ス是レ啻ニ善人良民タル者ノ義務ヲ盡スノミニ非ラス亦以テ起作者ノ利益ナリトス何ントナレハ身體强壯ニシテ才智ヲ磨キ教育ヲ受ケタル職工ハ他ノ職工ニ比スレハ起作者ノ爲ニ多少ノ利益ヲ爲スヿ必然タルニ因ル

故ニ起作者ニ就テ之ヲ云ヘハ勉メテ職工ノ身體ヲ壯健ニシ其教育ヲ擴張シ其品行ヲ改良シ預備節儉ノ意思ヲ弘暢セシムル等ノ目的ヲ達スルハ眞ニ有識ノ所業ナリト謂フ可シ

職工ノ爲メノ施設

右ニ述フル所ノ思考ハ日々開進シテ特ニ數年來盛大ナル工作場ニ於

テハ大ニ其進歩ヲ顯セリ是レ實ニ我國ノ一面目ト謂フ可シ

盛大ナル工作場ニ於テハ其職工ヲ保護救助スルヲ以テ榮譽ト爲セリ而シテ職工救助法中特ニ緊要有益ナル者ハ所謂職工市街ヲ設クルニ在リトス依テ今之ヲ言フニ各大都府ニ於テハ會社又ハ製造家ハ其職工ノ爲ニ家屋ヲ建築シ職工ヲシテ其賃銀ヲ貯ヘ以テ遂ニ其家主ト爲ルヿヲ得セシムルノ法ヲ設ケタリ今假リニ其家屋ノ價二千六百「フランク」或ハ三千「フランク」ト定ムレハ其三千「フランク」ノ家屋ヲ買ハント欲スル職工ハ現金三百「フランク」ヲ拂ヒ其他ハ一ケ月若クハ半月毎ニ二十五「フランク」宛ノ割賦ヲ以テ之ヲ拂フヿヲ得可シ故ニ職工ハ著大ノ資本金ヲ一時ニ拂ヒ出スヲ要セス唯當然拂フ可キ家賃ノ外僅々ノ金ヲ出シテ以テ遂ニ其居住セル家屋ノ持主タルヿヲ得可キノ益アリ」今姑ク「ルバッソール」氏ノ著書ヲ引用シテ或ル大都會ニ在ル職工市街ノ

景狀ヲ說クニ曰ク

今ヲ去ル十年以前ハ甚タ下直ノ土地ナリシ場所ニ於テ方今ハ修繕ノ行屆キシ長クシテ且ツ廣キ街路アリテ其緣側ニハ步道ヲ設ケ菩提樹ヲ二列ニ植附ケタリ是レ蓋シ最大ノ街路ニシテ其街路ノ兩側ニハ小キ園庭アリ又綠陰中ニ方正ニ散點セル赤瓦ノ屋蓋アルヲ看ル時ハ市街ニ在ラスシテ恰モ田舍ニ在ルカ如キ想ヒヲ爲スト雖モ若シ處々ニ步道ノ上ニ燈架或ハ喞筒ヲ羅列シ且到ル處齊整セサルモノナキヲ看ル時ハ田舍ニ知ル可カラサル開明ノ徵効ヲ證スルコト足ル而シテ夏時ノ休日ニ降雨ノ爲メ道路ノ泥濘ナラサル時ハ職工等祭日ノ衣服ヲ着シテ其市街ヲ徘徊シ又ハ其園中ニ於テ勞動スルヲ常トシ其景狀ノ活潑ニシテ爽快ナルハ人烟稠密ナル都會ニ於テハ稀ニ看ル所ナリ

又其街路ノ中央ニハ麵包店、飲食店、浴室、洗濯場、書籍縱覽場等ノ如キ共同資益ノ家屋アリ又其前面ニハ通常ノ貸家アリテ多クハ商人ノ店舗ナリ

職工ノ住居セル家屋ハ其建築數樣ナリ其一種ニハ二戸宛相背合シテ設ケタル者一列ニ十箇若クハ二十箇並立シ其家屋ノ前面ニハ橢圓形ノ庭園ヲ設ケタル者アリ又一種ニハ中央ニ庭園ヲ取リ二方面ト爲レルニ由リ只家ノ兩側ニ分界ノ爲メ共有ノ壁ヲ設ケタル者アリ蓋シ此類ノ家屋ハ上ニ言フ所ニ比スレハ其價貴キカ故ニ多クハ副職工長ノ買取セル所ト爲レリ

又一種ニハ庭園ノ中央ニ四戸ノ家屋ヲ相合シテ設ケタル者アリ恐クハ此建築法ニ由レル家屋ヲ以テ最上等ノ者ト爲ス可シ而シテ此法ニ由テ設ケタル家屋ハ一屋根ニテ四戸ヲ合設シタルニ因リ一戸

ハ其一棟中ノ四分一ヲ分領セルカ故ニ毎戸二方面ニシテ其前面（即チ二方面）ニハ小キ庭園ノ設ケアリ

上ニ言フ所ノ如キニ因リ成ル可キ丈ケハ建築費用ノ減少ナルト住居ノ便利ナルトノ益ヲ兩ナカラ得可キ方法ノ施設ナリ

又内造作ニ至リテハ人ニ貧富ト好悪ノ差アレハ之ニ應ス可キ方法ヲ以テ或ハ穴藏ノ上ニ家ヲ造リシモノアリ或ハ穴藏ナキモノアリ或ハ物置ヲ二階ニ附ケタルモノアリ或ハ全ク平屋ニ造リタルモノアリ」ト

此類ノ施設ニ由レル貸家ヲ造ルノ有益ハ如何ニ之ヲ稱讃スルモ決シテ過度ニハ非ル可シ何トナレハ此方法ニ由レル貸家ヲ設クル時ハ啻ニ人ノ健康ヲ保全スルニ有益ナルノミナラス亦借家人ノ心意ヲシテ自カラ改良ナラシムルノ益アレハナリ因テ今之ヲ言ヘハ即チ借家人

ハ之ニ由リテ快ヨキ住家（スミカ）ヲ得常ニ其家屬ト起居ヲ共ニシテ其家ヲ思フノ情ヲ厚カラシメ又遂ニ之レカ爲メ其家ノ持主タラン丁ヲ欲シテ預備節儉ノ心ヲ生セシムルノ益アル可シ

保護、勸奬、惠恤ノ方法

雇主ノ其使役スル職工ニ對シテ盡ス可キ義務ヲ有スルカ如ク政府モ亦宜ク職工ヲ保護シ之レカ爲メニ勸奬及ヒ惠恤ノ方法ヲ設クヘシ然レトモ亦政府ノ責任ヲ論スル丁其度ニ超過キ終ニ人民社會ノ爲メ危害アル說ヲ發ス可カラス是レ此ノ如キ說ノ行ハルヽ時ハ職工ノ爲メニモ其害アル可キニ因ル然ルニ今ヲ去ル丁遠カラス千八百四十八年ニ於テハ妄誕ニシテ且人民社會ノ爲メニ憂フ可キ一箇ノ說（即チ勞動權利ノ說）ヲ首唱シ又之ヲ實行セシメント爲セシ丁アリテ夫ノ自ラ稱シテ性理學者ナリト言ヘル輩ノ說ニ據レハ政府ハ宜ク各人ノ爲メニ勞動作業ノ

法ヲ設ケ勞動ヲ以テ生活ヲ爲ス可キ方法ヲ各人ニ授ク可キ者ナリト爲セリ蓋シ此說ニ依レハ各人ハ人民社會ニ對シ勞動ヲ求ムルヿヲ得可ク若シ人民社會ニ於テ各人ニ勞動ヲ以テ自活スルノ法ヲ得セシメサレハ各人宜ク其責ヲ社會ニ歸ス可キナリト

此ノ如キ說ハ太タ恐ル可キ効績ヲ生スルヤ必セリ何トナレハ若シ此說ヲシテ行ハレシメハ徒ニ職工ノ奮勵ト起作トヲ挫折シ人民社會ニ騷擾ヲ誘起スルノミニ過キサレハナリ蓋シ此說ニ據レハ政府各人ノ生計ヲ得セシムルノ施備ヲ爲シ凡ソ一切ノ工業起作ヲ擔任セサル可カラス而シテ又曾ニ各人ニ其勞動ヲ得セシムルノミヲ以テ足レリトス可カラス亦各〻其能力ニ應セシ勞動ヲ授ケ以テ生計ヲ得セシメサル可カラスト爲セヒ此說ノ非理タルハ一目瞭然ナレハ讀者須ク之ヲ看破セサル可カラス故ニ職工ノ偏ニ依賴ス可キ所ハ其勞動、才智、勉勵、刻

苦ニ在レハ其力ト時トヲ己レノ利アリト思フ所ニ用フルハ固ヨリ自由ナリトス故ニ政府ハ總テノ人民ニ於ケルカ如ク工人ヲシテ其能力ヲ自由ニ用ヒシムルニ緊要ナル保護ヲ爲スニ在ルノミ

但シ政府ニハ更ニ他ノ義務ナキニ非ス其義務ハ即チ職工ノ利益ノ爲メニ設ケタル保護惠恤ノ施設ヲ勸奬スルニ在リトス

是等ノ施設ヲ概論シ且其事ニ關スル數條ヲ揭クルノ際ニ當リ亦將ニ是等施設ノ實地施行ニ就テノ進步如何ヲ說カントス

貯金預リ所

右ノ施設中先ツ第一ニ貯金預リノ施設ヲ揭ケンニ此施設ハ勞動者ノ日々ノ餘金ヲ預リテ其利子ヲ生セシメ必要ノ場合ニ於テハ勞動者ヲシテ隨意ニ其金ヲ受取ルヿヲ得セシムル者トス

千八百六十四年ニ於テハ貯金預リ所ノ數四百九十三箇ト外ニ其支局

四百三十ケ所アリテ其預リ帳ノ數（貯金預ケ主ニハ一人毎ニ此預リ帳ヲ渡スヲ以テ法トスルニ因リ此預リ帳ノ數ト云ヘルハ即チ其預ケ主ノ數タルヿ知ル可シ）ハ一百七十一萬九千七百八十五ニシテ預リタル金員ハ四億六千二百萬「フランク」ナリ而シテ同年中ニ預リ所ニ受取リタル金員ハ四億七千五百萬「フランク」ニ昇リ正金ヲ以テ拂ヒ戻シタル金高ハ一億六千三百萬「フランク」ニシテ其他預ケ人ノ爲メ政府ノ公債證書ヲ買入レタル高一千四百萬「フランク」ナリ故ニ其預リ金ノ幾ント半額ハ職工ノ所有ニ屬セリ

職工共救會社

職工共救會社ハ職工中疾病等ノ不幸アル時互ニ其窮困ヲ救護スル爲ニ設ケタル者ニシテ其方法ハ些少ノ金ヲ集テ積金トナシ若シ疾病等ノ不幸ニ遇テ勞動ヲ爲シ能ハサル者アレハ醫者ノ謝金、藥價及ヒ其賃銀ノ一部ニ代ハル可キ其日用資金等ヲ其積金中ヨリ受取ルヿヲ得可

キ者トス

又此社ハ時アリテハ其積金ヲ以テ職工ノ養老金ニ備ヘ或ハ本人死去セシ時ノ葬式料及ヒ其妻子ノ救助用ニ供スルヿ有リ

職工共救會社ハ或ハ私ニ設ケタル者アリ或ハ政府ノ公準ヲ經テ設ケタル者アリ政府ノ公準ヲ受ケタル者ハ巨大ノ利益即チ政府ノ資助金ヲ得テ以テ積金ノ不足ヲ補フヿヲ得可キ者トス

此社中ニハ積金ヲ出シテ其配分ヲ受ル社員ト身富豪ニメ一モ其配當ヲ受ケス唯榮譽ノ爲ニ出金メ加入スル社員（即チ榮譽社員）トノ二者有リ

此會社ノ進歩セシヿ甚タ著明ニシテ千八百五十一年ノ末ニ於テハ會社ノ數二千二百三十七箇アリテ其社員ノ總數二十五萬五千四百七十二名ニシテ其資本金ノ全額ハ九百四十六萬九千「フランク」ナリシカ其後未タ幾ナラスシテ千八百六十七年ニ至テハ會社ノ數大ニ增加シテ

五千五百八十一箇ト爲リ其内三千九百二十四箇ハ政府ノ公準ヲ受ケタル者ナリ故ニ僅ニ十五箇年間ニ增加セル會社ノ數二倍以上ニ至リタリ而シテ其社員中積金ノ配分ヲ受クヘキ者ハ七十萬人以上ニシテ榮譽社員ハ十萬人以上アリ又是ヨリ先キ千八百六十五年十二月三十一日ノ計表ニ據レハ總會社ノ資本金ノ總額三千九百八十三萬「フランク」ニシテ其他一千〇五十萬「フランク」ハ養老金ノ爲メニ備ヘタル別段ノ金額ナリ但右會社ハ此資本ノ利分ヲ以テ老年ノ社員千百九十六名ニ其養老金ヲ供シタリ

此會社ニハ其勸奬及ヒ監督ヲ爲ス所ノ上等委員アリ又其社員ノ勉勵ト忠實トニ由リテ衆ニ擢絶シタル者ニハ榮譽ノ保賞トシテ金、銀、銅ノ賞牌ヲ與フルヿ有リ

養老金預リ所

養老金預リ所ハ政府ヨリ支配セル者ニシテ預ケ主ハ漸次ニ其金ヲ預ケ置キ老年ニ至リテ之ヲ養老金ト爲スヿヲ得可シ但シ其金員ノ最大數千五百「フランク」ニ超ユルヿヲ得ス

惠恤ノ施設

前文揭ケタル者ノ外職工ノ利益ノ爲ニ設クル所ノ惠恤場アリテ千八百五十五年「ワンサン」及ヒ「ウェシテー」ノ惠恤場ヲ設ケテ以テ病質虛弱ノ職工ヲ容ルヽ所ト爲シ每年平均一萬五千人ヲ容レタリ而シテ此類ノ惠恤場ハ諸都府ニ於テ設ケタル者モ亦鮮カラス

其他千八百六十八年七月十一日ノ法律ヲ以テ設ケタル備急金預リ所有リ此備急金預リ所ハ政府ノ保証ヲ以テ設ケタル者ニシテ其目的ハ預ケ主ノ死去シタル時其預ケ金ノ額ニ應シタル金員（但シ三千「フランク」ヲ超ユルヿヲ得ス）ヲ其相續人又ハ代權人ニ渡スニ在リ

又別ニ一種ノ備急金預リ所アリ其目的ハ預ケ主ノ農工ノ業ヲ行フ際ニ當リテ永ク勞動ヲ爲シ能ハサル如キ疵傷ヲ受ケタル者ニ其生涯ノ活計費ヲ給スルト不意ノ災難ニ由テ死亡シタル者ノ妻子ニ救助ヲ施ストノ二箇ニ在リ

右ノ諸件ニ就キテ之ヲ觀ル時ハ政府ハ常ニ職工ノ爲ニ其保護ヲ爲スニ力ヲ盡セシヿヲ知リ得可ク因テ其行狀ヲ正クシ節儉ヲ守レル職工ハ貯金預リノ施設ニ由リテ少數ノ資本ヲ備フルヿヲ得可ク若シ職業不景氣ナルカ又ハ疾病等ニ由リテ其業ニ間斷アル時ハ職工共救會社若クハ其他ノ惠恤施設ニ由リテ救助ヲ受クルヿヲ得可シ故ニ之ヲ畧言スレハ政府ハ職工ヲシテ全ク其困難ヲ免レシムルヿ能ハスト雖モ其困難スル者ノ命運ヲ改良スル爲ニ百方力ヲ盡セリト謂フ可キナリ

第二款　職工小簿冊（千八百五十四年六月二十二日ノ法律及ヒ千八百五十五年四月三十日ノ勅令）

職工小簿冊ヲ受ク可キ義務ノ主義

職工小簿冊ヲ受ク可キ制度ノ主旨ハ職工ノ其雇主ニ對シテ取結ヒタル契約ノ施行ヲ保全スルニ在リトス蓋シ此小簿冊タルヤ職工ノ爲ニモ亦甚タ緊要ノ者ニシテ乃チ職工ノ正シク其義務ヲ盡スヿヲ證明スルヲ以テ職工ヲシテ容易ク其業ニ就クヿヲ得セシムル者タリ

又職工小簿冊ハ之ヲ渡シタル官吏ノ檢印アルニ於テハ內國旅行ノ路券トシテ之ヲ用フルヿヲ得可ク又此簿冊ヲ受ク可キノ義務ヲ遵守ス可キ職工ハ之ヲ所持セルヿヲ證明スルニ於テハ工法裁判所ノ裁判官撰擧ニ加ハルヿヲ得可シ然レトモ若シ之ヲ所持セサル時ハ其撰擧ノ爲ニ設タル名簿ニ登記セラルヽヿヲ得ス

職工小簿冊ヲ受ク可キ職工

諸職工悉ク皆職工小簿冊ヲ受ク可キ義務ヲ有スルニ非ス即チ農業ニ

使役セラルヽ職工ハ此義務ヲ有スルヿ無ク其他家僕、日雇人モ亦然リトス然レトモ或ル工場即チ製作場、鑿礦場及ヒ其他ノ工作場ニ使役セラルヽ職工又ハ一人若クハ數人ノ雇主ヨリ賃銀ヲ受ケ自宅ニ於テ勞動スル者ノ如キハ皆職工小簿册ヲ受ク可キノ義務ヲ有セリトス

職工小簿册ヲ受ク可キ義務ヲ有スル職工若シ其義務ヲ盡サヽル時ハ違警罪裁判所ニ告訴セラレ一「フランク」以上十五「フランク」以下ノ罰金ヲ科セラレ時アリテハ其上一日以上五日以下ノ禁錮ニ處セラルヽヿ有リ

工作場ノ長及ヒ工作場ノ指揮ヲ爲ス者ハ成規ニ適シタル職工小簿册ヲ有スル職工ニ非サレハ之ヲ使用スルヿヲ得ス若シ此小簿册ヲ有セサル職工ヲ使用シタル時ハ違警罪裁判所ニ告訴セラレ其職工ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

職工小簿册ノ渡シ方

職工小簿册ハ巴里ニ於テハ警察總長之ヲ渡シ「リヨン」及ヒ其近傍ニ於テハ「ローヌ」州長、警察官ノ權ヲ以テ之ヲ渡ス可ク其他ノ地方ニ於テハ邑長之ヲ渡ス可シ然シテ初メ其小簿册ヲ受取ルニ付テハ職工ノ身分ヲ証明シ且受業期滿ノ証書若クハ曾テ授業師ヨリ渡シタル職業ノ証書等ノ如キ証書類ヲ差出ス可ク若シ此類ノ証書アラサル時ハ其職工右小簿册ヲ渡ス可キ官吏ニ陳述ヲ爲シテ其小簿册ヲ受取ルヿヲ得可シ但シ其陳述ニ詐僞ナカラシメンカ爲ニ若シ其詐僞ヲ爲ス者ハ嚴重ノ罰ニ處スヘキノ法則ヲ設ケタリ

職工小簿册ヲ設ルノ式

職工小簿册ニハ職工ノ姓名、年齡、出産ノ地、面貌及ヒ其職業ヲ記シ且通常一箇所ノ工場ニ勞動スルト數人ノ雇主ニ使用セラルヽトノ別ヲ記

シ其一箇所ノ工場ニ勞動スル場合ニ於テハ職工ノ現ニ勞役スル工場若クハ曾テ勞役シタル工場ノ長ノ姓名、住所ヲ記シ又其職工ヨリ出シタル証書類モ亦之ニ附記ス可シ

職工小簿冊ハ皆白紙ニ之ヲ記シ且ツ之ヲ渡ス可キ任アル官吏其番号ヲ付シテ鈐印ス可シ而シテ其冊首ニハ此事ニ關係シタル法律上重要ノ規則ヲ記載セル者トス

職工小簿冊ヲ受取ルニハ唯二十五「サンチーム」以下ノ税金ヲ出ス可キノミ而シテ若シ其小簿冊ノ全部ニ字ヲ塡メ又ハ其小簿冊ヲ用フル能ハサルニ至リシ時ハ更ニ新ナル小簿冊ヲ受取ラント求ムルヿヲ得可シ然ル時ハ其初ニ受取リタル小簿冊ハ之ヲ貯ヘ置キ之ニ其新ナル小簿冊ヲ受取リシ旨ヲ記載ス可シ

職工小簿冊ヲ紛失シタル場合ニヲ履行ス可キ成規

職工若シ其小簿冊ヲ紛失シタル場合ニ於テ新ニ小簿冊ヲ受取ル爲メニハ當初其簿冊ヲ受取リタル時ト同一ノ成規ヲ行ヒ同一ノ陳述ヲ爲スヿヲ要トス而シテ初ノ小簿冊ノ全部ニ字ヲ塡メ或ハ之ヲ用フルヿ能ハサルニ至リシ時ト之ヲ紛失シタル時トニ論ナク新ニ受取リタル小簿冊ニハ舊キ小簿冊ヲ渡シタル月日及ヒ其場所ヲ記入シ且職工ノ現今勞動スル工作場若クハ曾テ勞役シタル工作場ノ長ノ姓名、住所並ニ其賃銀前借ノ高ヲ記載ス可シ

詐僞ヲ制スル罰則

職工其小簿冊ノ事ニ付キ往々詐僞ヲ行フヿヲ有ルカ故ニ嚴重ノ罰ヲ設ケテ以テ之ヲ制シタリ故ニ詐僞ヲ以テ小簿冊ヲ造ル者又ハ小簿冊ヲ變造スル者(例ヘハ小簿冊中ノ文面ヲ變更シタル者ノ如キヲ云フ)或ハ故意ヲ以テ贋造又ハ變造ノ簿冊ヲ用ヒタル者ハ六月以上三年以下ノ

禁錮ニ處セラレ又僞名或ハ詐僞ノ陳述若クハ僞造ノ職業證書ヲ以テ小簿冊ヲ受取リタル職工ハ三月以上一年以下ノ禁錮ニ處セラル可シ而シテ其己レニ屬セサル小簿冊ヲ用ヒタル者モ其罰亦之ニ同シ

職工小簿冊ニ管スル雇主ノ義務

前文既ニ職工小簿冊ニ管スル職工ノ義務ヲ論定シタルヲ以テ今又將ニ之ニ管スル雇主ノ義務如何ヲ論セントス

此事項ニ就テハ職工ノ其工作場ノ内外ノ別ナク常ニ一ケ所ノ工作場ニ勞動シテ絶テ他ノ工作場ニ使用セラレサル者ト常ニ數人ノ雇主ニ使用セラルヽ者トノ別アルニ從テ之ヲ區別スルヲ要トス然リト雖モ其成規ニ適セシ職工小簿冊ヲ有スル職工ニ非サレハ職工長之ヲ使役スルヲ得スシテ若シ此法則ヲ犯セハ上文ニ記セシ所ノ罰ヲ受クヘキハ即チ甲乙二種ノ職工ニ通用ス可キ普通ノ成規ナリトス

職工ノ常ニ一箇所ノ工作場ニ使用セラルヽ者ナレハ工作場ノ長ハ其職工ノ入場ノ月日ヲ右職工小簿冊ニ登記シ又特別ニ設ケタル帳簿（此帳簿ニハ印紙ヲ用フルヲ要セスト雖モ職工小簿冊ヲ渡シタル官吏ノ番号ヲ付シ且鈐印スルヲ要トス）ニ職工ノ姓名及ヒ曾テ之ヲ使用シタル工作場ノ長ノ姓名住所并ニ職工ノ賃銀前借ノ高ヲ記シ且此帳簿及ヒ職工小簿冊ニモ其職工ヲ獨リ己レカ工作場ノミニ使用セルヿヲ記載ス可シ

雇主ハ右ノ諸件ヲ其所持ノ簿冊ト職工小簿冊トニ記載シタル後職工小簿冊ハ之ヲ職工ニ返ス可シ然シテ職工ハ其工作場ヲ去ルニ至ル迄ハ之ヲ有ス可キ者トス

滿任ノ證書及ヒ賃銀前貸ノ記載

若シ職工其使用セラルヽ所ノ工作場ヲ去ル時ハ其工作場ノ長ハ其職工ノ所持セル小簿冊ニ其出場ノ月日ト職工ノ其契約ヲ履行セシヿト

ヲ記載ス可シ但シ此記載ヲ滿任又ハ勤濟ノ證書ト名ク

其他職工ノ爲ニ利トナリ又ハ其害トナル可キ事件ハ一モ之ヲ職工小簿冊ニ記入ス可カラス

但シ雇主ノ職工ニ滿任證書ヲ與フルヿヲ否ミ得可キハ左ノ二箇ノ場合ニ限ル可シ

第一　職工ノ其受合タル事業ヲ未タ完成セサル時

第二　地方ノ習慣ニ由リ又ハ契約ヲ以テ定メタル期限間職工ノ其任ヲ勤メサル時

職工ノ爲ニ滿任證書ノ緊要ナルヿハ若シ此證書ヲ職工小簿冊ニ記入シタルニ非サレハ其職工ハ他ノ工作場ニ使用セラルヽヿヲ得サルヲ以テ之ヲ知ル可シ

故ニ若シ雇主、職工ニ滿任證書ヲ與フルヿヲ否ミタル時ハ其職工ハ他

所ニ於テ其業ニ就クヿヲ得サル可シ然レトモ若シ雇主故ナクシテ之ヲ與フルヿヲ否ミタル時ハ職工ヨリ之ヲ工法裁判所ニ訴フルヿヲ得可シ其設置ナキ地方ニ於テハ之ヲ治安裁判役ニ訴ヘテ雇主ヲシテ其證書ヲ渡サシムルヿヲ得可シ

然レトモ若シ雇主無筆ナルカ或ハ不意ノ事故ニ因リテ職工小簿冊ニ滿任ノ證ヲ記スルヿ能ハサル時ハ邑長又ハ警察官吏之ヲ記ス可シ但シ之レカ爲メ別段其費用ヲ出スヿヲ要セス

雇主、職工ニ賃銀ノ前貸ヲ爲シタリト雖モ之ヲ口實トシテ滿任證書ヲ與ヘサルヿヲ得ス唯其職工ニ三十「フラング」ニ至ル迄ノ金額ヲ貸渡シタルヿヲ職工小簿冊ニ記載スルヿヲ得可キノ權アルノミ

以前ノ雇主ヨリ賃銀前借ヲ爲セシヿヲ記載セシ職工小簿冊ヲ所持セル職工ヲ新ニ使用スル所ノ雇主ハ其職工ノ賃銀十分一ヲ差留メ其差

留メタル賃銀ノ右前借ノ高ニ充チタル時ハ之ヲ以前ノ雇主ニ屆ケ且自カラ其由ヲ職工小簿冊ニ記載ス可シ但シ新タナル雇主若シ此法則ヲ履行セサル時ハ以前ノ雇主ニ對シテ其責ニ任ス可シ

數人ノ雇主ニ使用セラルヽ職工ニ管スル特別ノ規則

數人ノ雇主ニ使用セラルヽ職工ニ就テハ其雇主ハ自カラ之ニ職業ヲ委托シタル月日ヲ其職工小簿冊ニ記シ且自ラ所持セル簿冊ニハ其職工ノ姓名、住所ヲ記載ス可シ若シ始テ其職工ヲ使用スル時ナレハ其職工小簿冊ト己レカ所持セル簿冊トニ其職工ノ數人ノ雇主ニ使用セラルヽヿヲ記載シテ其職工小簿冊ハ之ヲ職工ニ返ス可シ又職工、雇主ノ使用ヲ終リタル時ハ雇主ハ更ニ他ノ文言ヲ記スルヿ無ク唯其職工ノ契約ヲ完成シタルヿノミヲ其職工小簿冊ニ記載ス可シ

常ニ數人ノ雇主ニ使用セラルヽ職工ハ滿任證書ニ據テ別段其滿任ノ

ヿヲ證スルニ非サルモ亦他所ニ於テ其業ニ就クヿヲ得可キ者トス又此職工ハ現ニ一ノ事業ヲ受負ヒ未タ之ヲ完成セサル前ニ又他ノ事業ヲ受負フヿヲ得可ク因テ以テ同時ニ數箇ノ事業ヲ爲スヿヲ得可シ若シ雇主、前文既ニ論述セル所ノ諸規則ヲ犯ス時ハ違警ノ罪トシテ違警罪裁判所ニ告訴セラレ一「フランク」以上十五「フランク」以下ノ罰金ヲ科セラレ且時アリテハ一日以上五日以下ノ禁錮ニ處セラル可シ

取引計算簿

既ニ前文ニ說了シタル如ク百工製作ノ道ニ使用セラルヽ諸職工ノ悉皆所持ス可キ小簿冊（即チ職工小簿冊）ト製作ノ隆盛ナル都會就中「リヨン」ノ如キ地ニ於テ製造商人ヨリ織工場ノ長ニ注文ヲ爲シテ反物ヲ織ラシムル爲メ用ヒ來レル簿冊（即チ取引計算簿）トハ自カラ其別アレハ此二者ヲ混同ス可カラス蓋シ此等ノ場所ニ於ケル織工場ノ長ハ工法裁判所ノ書記

局ヨリ一事業毎ニ二箇ノ簿冊ヲ受取リ其一冊ハ之ヲ製造商人ニ渡シ又一冊ハ自カラ之ヲ所持シテ製造商人ト已レトノ間ニ於ケル取引計算ノ規定ヲ記スルノ用ニ供ス

織工場ノ長嘗テ製造商人ヨリ注文ヲ受ケタル仕事ヲ終リタル時其製造商人ニ對シテ負擔セル義務ナケレハ其由ヲ二箇ノ簿冊ニ登記シテ之ヲ証明シ然ル上ニテ其二冊共ニ之ヲ織工場長ニ返ス可ク若シ之ニ反シテ製造商人ニ對シテ其負債アル時ハ其高ヲ均シク二箇ノ簿冊ニ記シテ以テ製造商人ノ權利ヲ證シタル上其一冊ヲ製造商人ノ方ニ取リ置ク可シ而シテ其他ノ製造商人以前ノ製造商人ニ對シテ債ヲ負フタル織工場長ニ織物ノ注文ヲ爲ス時ハ其貸金ヲ以前ノ製造商人ニ償ハシムル爲メニ其手間料ノ八分一ヲ差留メ置キ其餘ノ分ヲ織工場長ニ渡ス可シ

嘗テ注文ヲ受ケタル製造商人ニ對シテ債ヲ負フタル織工場長其製造商人ノ承諾ナク又ハ正當ノ道理ナクシテ其注文ヲ受ケシ事ヲ果サヽル時他ノ製造商人其織工場長ニ注文ヲ爲スニ於テハ以前ノ製造商人ニ對シテ其責ニ任ス可シ是レ織工場長ノ其工丁等ヲシテ猥リニ此製造商人ノ方ヲ去リ彼ノ製造商人ノ方ニ轉セシム可キノ害ヲ防カンカ爲メナリ故ニ後ノ製造商人以前ノ製造商人ニ對シテ債ヲ負フタル織工場長ヲ使用スル時ハ其織工場長ノ償フ可キ生品ノ價及ヒ手間料ノ前借高〔但シ五百「フラン」ヲ限リトス〕ヲ以前ノ製造商人ニ償フノ責ニ任ス可シ而シテ又取引計算簿ヲ有セサル織工場長ヲ使用セシ製造商人モ亦右ニ同シキ責任ヲ有ス可シ

織物及ヒ製絲ノ業ヲ爲ス者ノ設ク可キ簿冊

織物及ヒ製絲ノ業ニ從事スル者ノ必ス設ケ置ク可キ簿冊アリ此簿冊

ヲ設クルノ本旨ハ之ニ從事スル職工ノ細密ナル勞動規則ヲ定ムルニ在リテ此簿冊ハ常ニ職工ノ所持セル者トスル而シテ製造商人、仲買商人又ハ其他ノ商業補助人、織物ノ生品ヲ職工ニ渡ス時ハ其生品ノ目方、寸尺ヨリ製造ス可キ品物ノ廣狹、長短、織絲ノ番号及ヒ手間料ニ至ル迄之ヲ其簿冊ニ記載シ且職工其注文ヲ受ケシ品物ヲ渡セシ時モ亦之ヲ其簿冊ニ記シテ以テ取引計算ヲ証ス可シ

織物製絲ノ業ヲ爲ス者ハ必ス同上ノ簿冊ヲ設ク可キヿヲ定メタル千八百五十年三月七日ノ法律ニ據レハ政府ハ猶ホ其他ノ營業ニモ勅命ヲ以テ此簿冊ヲ設ク可キノ義務ヲ擴張スルノ權ヲ有シタリ是ヲ以テ綿布剪絨ヲ截チ織物ヲ晒シ或ハ之ヲ染メ或ハ之ヲ裝成スルヲ以テ業ト爲ス者モ亦此簿冊ヲ設ク可キヿヲ規定シタルハ實ニ此法律ニ基ク所ナリ

織物及ヒ製絲ノ業ヲ行フニ就キ其簿冊ニ管スル諸規則ヲ犯ス者ハ一「フランク」以上十五「フランク」以下ノ罰金ヲ科セラル可シ

第三款　百工製作場内ニ於ケル職工ノ勞動時間（千八百四十八年九月九日ノ法律及ヒ千八百五十一年五月十七日ノ勅令）

勞動時間ノ成規ヲ守ル可キ工作

勞動時間ヲ限定シタル法則ハ唯諸工作場内ニ使用セラルヽ職工ノ爲ニ設ケタル者ニシテ其勞動時間ノ最大數ハ十二時間ヲ超ユルヿヲ得ス然レトモ工作ノ種類ニ因リ又ハ意外ノ變ニ應シテハ例外法ヲ以テ此時間ヲ延長シ又ハ之ヲ短縮スルヿヲ得可シ

千八百五十一年五月十七日ノ勅命ヲ以テ勞動時間ヲ延縮スルヿヲ得可キ例外法ヲ大ニ擴張シタリ

或ル種類ノ工作例ヘハ活版印刷、金屬鑄造ノ如キ者又ハ或ル種類ノ勞

動例ヘハ蒸氣器械ノ火夫等ノ勞動ノ如キ者ニ至リテハ其勞動時間ニ限定アルヿナシ

其他ノ工作例ヘハ染工「アンヂアン」ノ製作場砂糖精製場ニ於ケルカ如キハ其長ノ意見ヲ以テ右定期ヨリモ一時或ハ二時間ノ時間ヲ延ハスヿヲ得可シ但シ其勞動時間ヲ延ハスヿヲ得可キ權利ヲ行ハント欲スル時ハ邑長ヲ經テ其由ヲ州長ニ届出ツルヿヲ要トス

又諸工作場ノ不意ノ災害ニ因リ事業ヲ廢止スルヲ以テ急ニ之ヲ修繕セサルヿヲ得サル場合ニ於テハ其勞動時間ヲ增シテ最大數ノ十二時外ニ至ラシムルヿヲ得可シ

第四款　工作場内ニ於テ少年ヲ使役スルノ法（日ノ法律）（千八百四十一年三月二十二日）

少年ヲ使役スル規則ノ緊要

千八百四十一年前ハ少年ヲ使役スルノ成規未タ定立セス種々ノ惡弊アリテ工作場内ニ少年ヲ使役スルヤ其時間ニ定限ナク過度ノ勞動ヲ爲サシメ且小學ノ教授及ヒ修身法教上ノ教ヲ受ルニ必要ノ時間ヲ與ヘサリキ

是ヲ以テ千八百四十一年ニ至リ此惡弊ヲ改良センカ爲メ新タニ辭則ヲ設ケテ以テ少年ヲ過度ニ使役スルヿヲ禁シ且教育ヲ受ケシムルノ仁惠ヲ施シタリ但シ此規則タルヤ唯之ヲ守ル可キ特定ノ工作場ノミニ限リテ當然之ヲ適用スルヲ得可シト雖モ他ノ工作場ニ於テモ亦勅命ヲ以テ之ヲ推シ及ホスヿヲ得可キ者トス

同上ノ規則ヲ守ル可キ工作場

千八百四十一年ノ法律ノ箇條ヲ守ル可キ工作場ハ左ノ如シ

第一　器械力ヲ用ヒ或ハ間斷ナク火力ヲ用フル工作場